

V. 参考資料

1. 委員名簿・検討経過

- 1-1 全国的な学力調査に関する専門家会議について・委員名簿
- 1-2 調査結果の取扱い検討ワーキンググループについて・委員名簿
- 1-3 検討の経過

2. これまでの全国学力・学習状況調査の結果公表に関する考え方及び具体的な取扱い

- 2-1 調査結果の公表方法に関する基本的な考え方
- 2-2 これまでの調査結果の公表方法について

3. 国際学力調査における結果の取扱い

- 3 OECD のレポートにおける PISA2022 の結果の取扱い

4. 令和7年度以降の調査について

- 4-1 全国学力・学習状況調査（悉皆調査）において CBT・IRT を活用する意義
- 4-2 令和7年度全国学力・学習状況調査の実施について
- 4-3 令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」結果返却のポイント
- 4-4 令和7年度調査（中学校）実施概況（都道府県・指定都市別）の項目
- 4-5 「中学校理科」の主な結果帳票（イメージ）
- 4-6 全国学力・学習状況調査 結果チャート
- 4-7 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果提供・公表スケジュール（イメージ）

5. 調査結果の取扱いの改善後のイメージ（令和6年度調査データより）

- 5-1 令和6年度調査 都道府県別正答率の箱ひげ図（例）
- 5-2 令和6年度調査 都道府県別正答率（10-90パーセンタイル）（例）
- 5-3 令和6年度調査 都道府県別の正答数ごとの層分布（例）
- 5-4 令和6年度調査 様々な集計単位で見る平均正答率のバラツキ（例）
- 5-5 令和6年度調査 都道府県別の結果チャート数値×正答数（例）
- 5-6 令和6年度調査 学校別正答率×SES
- 5-7 令和6年度調査 自治体別正答率×SES

全国的な学力調査に関する専門家会議について

令和 7 年 4 月 1 日
総合教育政策局長決定

1. 設置の趣旨

義務教育の機会均等及びその水準の維持向上の観点から、全国的な学力調査により児童生徒の学力や学習状況の実態を把握し、エビデンスに基づく学習指導を進めるとともに、教育施策の検証・改善を図るに当たって、その具体的な調査の実施方法等について、専門的な見地から検討を行うため、全国的な学力調査に関する専門家会議（以下「専門家会議」という。）を設置する。

2. 検討事項

専門家会議は、全国的な学力調査に関する以下の事項を検討する。

- (1) 調査の実施方法の在り方
- (2) 調査結果の取扱いの在り方
- (3) 調査結果の活用に関する取組の推進方策
- (4) 調査結果の専門的な分析
- (5) その他

3. 実施方法

- (1) 専門家会議は、総合教育局長が委嘱する有識者をもって構成する。有識者の任期は、原則として2年以内とし、再任を妨げない。
- (2) 専門家会議の下に、ワーキンググループを置くことができる。
- (3) 専門家会議は、必要に応じ、(1)の有識者以外の者にも協力を求めることができる。

4. 期間

専門家会議は、上記2.に係る検討が終了したときに廃止する。

5. その他

- (1) 専門家会議の庶務は、総合教育政策局参事官（調査企画担当）付において行う。
- (2) この決定に定めるもののほか、専門家会議の運営に必要な事項は、必要に応じ、専門家会議に諮って定める。

全国的な学力調査に関する専門家会議委員

(50音順 敬称略)

	足羽 英樹	鳥取県教育委員会教育長
	磯部 年晃	島根県立大学人間文化学部保育教育学科教授
	宇佐美 慧	東京大学大学院教育学研究科准教授
座長代理	大津 起夫	独立行政法人大学入試センター参与・名誉教授
	川口 俊明	福岡教育大学教育学部准教授
	斉田 智里	横浜国立大学教育学部教授
	佐々木俊輔	公益社団法人日本PTA全国協議会理事（令和7年3月31日まで）
	貞広 斎子	千葉大学副学長・教育学部教授
	佐藤 友信	江東区立東陽小学校長（令和7年5月23日まで）
	高瀬 智子	福生市立福生第一小学校長
	田村 知子	大阪教育大学連合教職実践研究科教授
	垂見 裕子	武蔵大学社会学部教授
	土屋 隆裕	横浜市立大学データサイエンス学部教授
	寺尾 尚大	独立行政法人大学入試センター研究開発部准教授
	中田 雅喜	松阪市教育委員会教育長
	福沢 俊之	台東区立御徒町台東中学校長
	富士原 紀絵	お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授
	益川 弘如	青山学院大学教育人間科学部教授
	松谷 茂	文化学園大学杉並中学・高等学校理事長
	三浦 登志一	山形大学学術研究院教授
座長	耳塚 寛明	お茶の水女子大学名誉教授

調査結果の取扱い検討ワーキンググループについて

令和 6 年 12 月 23 日

全国的な学力調査に関する専門家会議決定

1. 趣旨

今後の全国学力・学習状況調査の制度設計について、令和 9 年度から ICT 端末等を用いたオンライン方式(以下「CBT」という。)に全面的に移行する予定であることも踏まえ、CBT 及び IRT を活用する意義を反映するとともに、児童生徒一人一人の学力課題を把握してエビデンスに基づく学習指導に一層生かせるよう、調査結果の提供や公表方法の在り方に関する検討を行うために、「調査結果の取扱い検討ワーキンググループ」(以下「ワーキンググループ」という。)を「全国的な学力調査に関する専門家会議」(以下「専門家会議」という。)の下に設置する。

2. 検討事項

ワーキンググループは、以下の事項について検討し、専門家会議に報告する。

- (1) 調査に CBT 及び IRT を活用する意義を最大限反映させた形での調査結果の提供内容について
- (2) 児童生徒一人一人の学力・学習状況がより細やかに分かる形での調査結果の示し方について
- (3) (1) 及び (2) を踏まえた国としての調査結果の公表の在り方のうち、別紙に示す内容について

3. 構成員

ワーキンググループの主査及び委員は、専門家会議の座長が指名する。

4. 実施期間

ワーキンググループは、2. の検討事項の審議が終了したときに廃止する。

5. その他

ワーキンググループに関する庶務は、総合教育政策局参事官(調査企画担当)付において行う。

「2. 検討事項」に関する補足

2. (3) については、令和7年度全国学力・学習状況調査実施要領（案）の以下の事項に関する具体的な取扱いを中心として検討することとする。

令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（案）（抄）

7. 調査結果の取扱い

(1) 調査結果の示し方

文部科学省は、小学校調査及び中学校調査のそれぞれの結果として、以下の事項等を示す。

ア PBTで実施する教科に関する調査の結果

(ア) 各教科に係る問題の全体の平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差等

(イ) 以下をそれぞれ単位とした各教科の平均正答数等の分布等が分かるグラフ

- ① 都道府県教育委員会
- ② 都道府県教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）
- ③ 指定都市教育委員会
- ④ 教育委員会
- ⑤ 学校
- ⑥ 児童生徒

(ウ) 各教科の設問ごとの正答率等

(エ) 各教科の設問ごとの解答類型別児童生徒数の割合

イ CBTで実施する教科に関する調査の結果

(ア) 各教科に係る問題の全体のIRTスコア等

(イ) 以下をそれぞれ単位とした各教科のIRTスコア等の分布等が分かるグラフ

- ① 都道府県教育委員会
- ② 都道府県教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）
- ③ 指定都市教育委員会
- ④ 教育委員会
- ⑤ 学校
- ⑥ 児童生徒

(ウ) 各教科の公開問題の設問ごとの正答率等

(エ) 各教科の公開問題の設問ごとの解答類型別生徒数の割合

ウ 児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果（略）

(2) 文部科学省による調査結果の公表

文部科学省は、調査の目的を踏まえ、以下の事項等について調査結果を公表する。文部科学省が公表する調査結果については、公表後速やかに、文部科学省ホームページに掲載する。

ア 以下の（ア）から（オ）までの区分に応じ、上記（1）アからウまでで示した結果。ただし、（イ）から（エ）までの区分で公表する内容については、別に定める。

(イ) 都道府県ごと（都道府県教育委員会及び市町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

(ウ) 都道府県（指定都市を除く。）ごと（都道府県教育委員会及び市町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

(エ) 指定都市ごと（指定都市教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

調査結果の取扱い検討ワーキンググループ委員

(50音順 敬称略)

足羽	英樹	鳥取県教育委員会教育長
礪部	年晃	島根県立大学人間文化学部保育教育学科教授
大津	起夫	独立行政法人大学入試センター参与・名誉教授
川口	俊明	福岡教育大学教育学部准教授
貞広	齋子	千葉大学副学長・教育学部教授
佐藤	友信	江東区立東陽小学校長
垂見	裕子	武蔵大学社会学部教授
土屋	隆裕	横浜市立大学データサイエンス学部教授
中田	雅喜	松阪市教育委員会教育長
福沢	俊之	台東区立御徒町台東中学校長
富士原	紀絵	お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授
耳塚	寛明	お茶の水女子大学名誉教授

検討の経過

令和7年2月14日(金)15:00-17:00

調査結果の取扱い検討ワーキンググループ（第1回）

令和7年2月26日(水)15:00-17:00

調査結果の取扱い検討ワーキンググループ（第2回）

令和7年3月11日(火)15:00-17:00

全国的な学力調査に関する専門家会議（第9回）

・調査結果の取扱い検討ワーキンググループ（第3回）合同会議

令和7年3月～4月

関係団体への意見照会

令和7年5月19日(月)15:00-17:00

調査結果の取扱い検討ワーキンググループ（第4回）

令和7年5月28日(水)9:30-12:00

全国的な学力調査に関する専門家会議（令和7年度第2回）

・調査結果の取扱い検討ワーキンググループ（第5回）合同会議

調査結果の公表方法に関する基本的な考え方

目次

「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」（平成 17 年 10 月 26 日 中央教育審議会）（抄）	2
「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（平成 18 年 4 月 25 日 全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議）（抄）	3
「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」（平成 29 年 3 月 29 日 全国的な学力調査に関する専門家会議）（抄）	5
国会会議録（第 193 回国会 衆議院 文部科学委員会 第 10 号 平成 29 年 4 月 14 日）	7

「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」（平成 17 年 10 月 26 日 中央教育審議会）（抄）

第Ⅱ部 各論

第 1 章 教育の目標を明確にして結果を検証し質を保証する

（2）教育内容の改善

ウ 学習到達度・理解度の把握のための全国的な学力調査の実施

- 各教科の到達目標を明確にし、その確実な習得のための指導を充実していく上で、子どもたちの学習の到達度・理解度を把握し検証することは極めて重要である。客観的なデータを得ることにより、指導方法の改善に向けた手がかりを得ることが可能となり、子どもたちの学習に還元できることとなる。このような観点から、子どもたちの学習到達度・理解度についての全国的な学力調査を実施することが適当である。なお、実施に当たっては、子どもたちに学習意欲の向上に向けた動機付けを与える観点も考慮しながら、学校間の序列化や過度な競争等につながらないように十分な配慮が必要である。
- 具体的な実施の方法、実施体制、結果の扱い等について更に検討する必要がある。その際には、自治体や学校が全国的な学力状況との関係でそれぞれの学力状況を把握することにより、教育の充実への取組の動機付けとなることが重要な視点であると考えられる。
- また、併せて、収集・把握する調査データの取扱いに慎重な配慮をしつつ、地域性、指導方法・指導形態などによる学力状況との関係が分析可能となる方法を検討する必要がある。なお、学力調査の調査内容に関しては、知識・技能を実生活の様々な場面などに活用するために必要な思考力・判断力・表現力などを含めた幅広い学力を対象とすることが重要である。

「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（平成 18 年 4 月 25 日
全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議）（抄）

5. 調査結果の公表及び返却について

(2) 調査結果の公表の具体的方法

○昨年 10 月の中央教育審議会答申においては、「実施に当たっては、子どもたちに学習意欲の向上に向けた動機付けを与える観点も考慮しながら、学校間の序列化や過度な競争等につながらないよう十分な配慮が必要である」との指摘がなされている。

○国が公表する調査結果については、都道府県は、教職員の給与費を負担するとともに広域で人事を行うなどの役割と責任を有していることなどにかんがみ、国全体の状況に加えて、基本的に都道府県単位の状況とする。

○市区町村の状況については、現在都道府県において独自に実施されている学力調査においても市区町村単位まで調査結果を公表する自治体数が 8 にとどまっていることや、現時点において個々の単位の状況まで公表すると序列化や過度な競争につながるおそれがありその影響は大きいと予想されることなどを考慮し、個々の市区町村単位の状況を公表するのではなく、地域の規模等に応じたまとまりごとに、例えば、大都市（政令指定都市及び東京 23 区）、中核市、その他の市、町村の状況を公表する。また、へき地における学校全体の状況を公表する。

(略)

○また、公表に当たっては、全国的な学力調査により測定できるのは学力の特定の一部であることを示すことや、数値により示される調査結果についての解釈を併せて示すことなどの配慮が必要である。

(3) 調査結果の返却の具体的方法

(略)

○また、返却に当たっては、以下のような留意点を併せて示すなどの配慮が必要である。

- 全国的な学力調査により測定できるのは学力の特定の一部であること。
- 数値による示される調査結果については、分かりやすい反面、一面的な解釈がなされるおそれがあるため、その数値の解釈と併せて返却すること。
- 学校評価や児童生徒の学習状況の評価など学校教育にかかわる評価に際して、この調査結果を有用な情報の一つとして活用できるものの、この調査結果は多面的な評価のための一側面にすぎないこと。

(略)

- 都道府県が国から返却された調査結果を独自に公表することについては、国としては都道府県に対して一定の考え方を示して都道府県等の判断にゆだねるべきとの意見もあったが、都道府県が域内の市区町村等の状況を個々の市区町村名等を出して公表することになると序列化や過度な競争につながるおそれは払拭できないと考えられる。また、全国的な学力調査の実施主体が国であることや市区町村が基本的な参加主体であることなどにかんがみると、都道府県に対して、原則として、国における公表レベルや内容と同様の対応を求めることが適当である。
- 一方、全国的な学力調査において、都道府県等が、域内における学力に関する分布の状況を明らかにするために、個々の市区町村名等を出さないで市区町村、学校、児童生徒の分布の状態を示すことはあり得るものと考えられる。
- 現在、都道府県が独自に実施する学力調査において、域内の市区町村の状況を個々の市区町村名等を出して公表している都県があるが、これについてはそれぞれの都道府県の判断にゆだねられるべきである。
- 国が市区町村や学校に調査結果を返却することのねらいは、それぞれが全国の中でどのような状況であるか認識し、その上で指導改善等に生かすことにある。各市区町村や学校が自己の結果を公表することは、それぞれの判断にゆだねることが適当であるが、公表する場合も、全国的な学力調査の結果に基づいて順位付けがなされることや過度な競争をとおらないよう細心の配慮を払う必要がある。
- 市区町村、学校が地域や保護者等に説明責任を果たすために自己の結果を公表する場合には、例えば、この調査により測定できる学力は特定の一部であることや、学校評価の中で体力なども含めた教育活動の取組の状況等を示し、調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策等を併せて示すなど、序列化や過度な競争をとおらないような工夫や取組が必要である。

「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」（平成 29 年 3 月 29 日 全国的な学力調査に関する専門家会議）（抄）

4. 具体的な改善方策

（4）指定都市の調査結果の公表方法

- 国として全国学力・学習状況調査を実施する説明責任を果たすため、調査結果については、全国的な傾向だけでなく、都道府県ごとの状況を示してきた。今般、教育行政における指定都市を取り巻く現状等を勘案し、国として、より積極的に説明責任を果たすべく、指定都市の結果を公表することについて検討を進めた。
- 現在の全国学力・学習状況調査では、国が以下のことなどを勘案し、都道府県別の調査結果を公表してきた。
 - ・規模（域内の広さ、児童生徒数、学校数等）が大きく、様々な地域を包含することなどから、弊害が生じるおそれが比較的小さいと考えられること
 - ・都道府県教育委員会独自の学力調査においても、都道府県全体の調査結果を公表している例が多く見られること
 - ・都道府県教育委員会は、教職員の給与費を負担するとともに広域で人事を行うなど役割と責任を担っていること
 - ・国として国全体の調査結果について、説明責任を有しており、その観点から全国的な調査結果だけを示すのでは十分ではなく、都道府県単位程度の状況について公表する必要があること
- 指定都市の取り巻く現状や都道府県・指定都市教育委員会の意向を勘案すると、
 - ・全国学力・学習状況調査や指定都市独自の学力調査で多くの指定都市が市全体の調査結果を公表しており、参加する児童生徒数に関して指定都市は都道府県と同規模を有することから、国が指定都市の結果を公表しても、弊害が生じるおそれは比較的小さいこと
 - ・教職員給与負担等は指定都市へ移譲すると、全国学力・学習状況調査によって指定都市の教育施策についての課題を把握できたとしても、都道府県教育委員会が指定都市教育委員会に対して講じることができる教育施策は非常に限られること
 - ・都道府県・指定都市教育委員会で、国が指定都市の結果を公表することに反対しているところは少数であったことから、平成 29 年度から国が指定都市の調査結果を公表し、国民に対して、より一層説明責任を果たしていくこととする。
- しかしながら、国が指定都市の調査結果を公表することにより、序列化や過度な競争を招かないよう、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行わず、調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表するなど、必要な配慮を行うこととする。

○なお、都道府県の結果公表については、「都道府県（指定都市を含む）の調査結果」も「都道府県（指定都市を除く）の調査結果」もいずれを国が公表するにしてもメリットがある。それぞれの公表内容のメリットを生かすため、両方の調査結果を公表することとする。

（５）都道府県・指定都市の教科・質問紙調査項目に関する数値の公表

○国では、従前より、平均正答率だけでなく、都道府県ごとの様々な数値を公表してきており、平成29年度調査からは指定都市の結果を公表することとしている。これまで以上に、多角的な分析を行いやすくするとともに、国としての説明責任を果たすため、平成29年度から、都道府県・指定都市ごとの特徴がより分かりやすい様式での提供・公表を行う必要がある。

○具体的には、以下のものについて、新たに都道府県・指定都市の一覧での提供・公表を行う。

- ・2教科4区分（理科を実施する場合には3教科5区分）ごとに、児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数割合により25%刻みで四つの層分けを行い、A～D層として示した割合
- ・「全国学力・学習状況調査結果チャート」〔学校運営〕における学校質問紙調査項目に係る領域ごとの数値
- ・「全国学力・学習状況調査結果チャート」〔児童生徒〕における児童生徒質問紙調査項目に係る領域ごとの数値
- ・年度ごとの調査内容・結果を踏まえた、特徴的な質問紙調査項目の回答状況

○なお、A～D層として示した児童生徒の割合、特徴的な質問紙調査項目の回答状況について、序列化や過度な競争を招かないよう、都道府県・指定都市の一覧での公表は、整数値で行う。しかしながら、それらについては、調査結果概況資料など都道府県別・指定都市別にまとめた資料では、小数点以下第一位まで公表する。

○また、都道府県・市町村教育委員会が教育施策の改善・充実に活用しやすくするため、従前より提供してきた設置管理者・学校の様々な数値について、平成29年度から、設置管理者や学校の特徴がより分かりやすい様式での提供を行う。ただし、設置管理者・学校の当該数値は、引き続き、国は公表しない。

○さらに、平均正答率については、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、国としては、小数点以下を四捨五入した整数値で結果を提供することとする。ただし、教育委員会や学校に対しては、児童生徒の個票データを提供するため、より細かな数値を算出し、分析・公表を行うことは可能である。

○大平委員 このように、結果の公表によって各学校の点数が比較をされる、テストの平均点を上げることが至上命題となり、子供たちと教員が過度な競争に駆り立てられ、教育をゆがめる弊害が私は深刻なものになっていると思います。

大臣、改めて、文科省もこの弊害を認めている調査結果の公表を私はやめるべきだと思いますが、いかがですか。

○松野国務大臣 お答えをいたします。

全国学力・学習状況調査の結果公表が過度な競争を招いているとの認識はなく、引き続き調査結果の公表は行っていきたいと考えております。

なお、国として都道府県別の結果を公表している理由としては、国全体の調査結果について説明責任を有しており、その視点から、全国的な調査結果だけを示すのでは十分でなく、都道府県単位の状況について公表する必要があるためであること、また、都道府県教育委員会は、小中学校の県費負担教職員の人事権を有するなど都道府県域全体の教育行政に対してさまざまな役割を担っていることなどが挙げられております。

これまでの調査結果の公表方法について

これまでの全国学力・学習状況調査の公表時期・公表方法

令和6年度調査 実施概況（小学校「全国－都道府県（公立）」のみ）

令和6年度調査実施概況（小学校）補助資料（抄）

令和6年度調査 結果チャート（学校向け）

『令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書【小学校】国語』（抄）
（地域の規模等の状況など）

【都道府県別】および【指定都市別】調査結果資料
（国立教育政策研究所 HP 掲載分）

「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」
テーマ一覧（平成21年度～令和5年度）

これまでの全国学力・学習状況調査の実施状況

	悉皆調査				経年調査		調査実施日	結果公表日	実施要領の主な変更点等	その他特記事項
	国語	算数 数学	理科	英語 (中学校)	経年変化 分析調査	経年調査 保護者に 対する調査				
H19	○	○					4/24	10/24		
H20	○	○					4/22	8/29		○結果チャートの提供開始
H21	○	○					4/21	8/27		
H22	○	○					4/20	7/30	○抽出調査（抽出対象外でも設置管理者の希望で調査利用可能な「希望利用方式」で実施）	○都道府県別の結果公表はなし
調査実施見送り（東日本大震災の影響等を考慮）										
H24	○	○	○				4/17	8/8	○抽出調査（希望利用方式）	○都道府県別の結果公表はなし
H25	○	○			○	○	4/24	①8/27 ②12/25	○悉皆調査（「きめ細かい調査」） ※以降、悉皆調査継続 ○教育委員会に対する調査（悉皆）を実施	
H26	○	○					4/22	8/25	○以下の公表を可能とする（ただし、公表を行う教委は自ら実施する改善方を併せて示す） ・都道府県教委による市町村名・学校名を明らかにした調査結果の公表 ※事前に市町村教委の同意を得た場合 ・市町村教育委員会による個々の学校名を明らかにした調査結果の公表	
H27	○	○	○				4/21	8/25	○本調査の実施に係る職務権限は教育委員会にあることをより一層明確化した	
H28	○	○			○		4/19	9/29	○調査結果を入学者選抜に関して用いることはできないことを明記した	○熊本地震の影響により、熊本県並びに宮崎県及び大分県の一部の学校で当日実施見送り ○都道府県別正答率を整数で示す
H29	○	○				○	4/18	8/28	○調査結果の個票データ等を大学等の研究者や国等の行政機関の職員に貸与することとした ○都道府県に加え、指定都市の調査結果を文部科学省が公表することとした ○小学校調査の結果を中学校に送付できることとした	○実施概況（都道府県・指定都市別）に、平均正答数・率に加えて以下を記載 ・正答数四分位（全国）による児童生徒割合 ・結果チャートの数値を併記

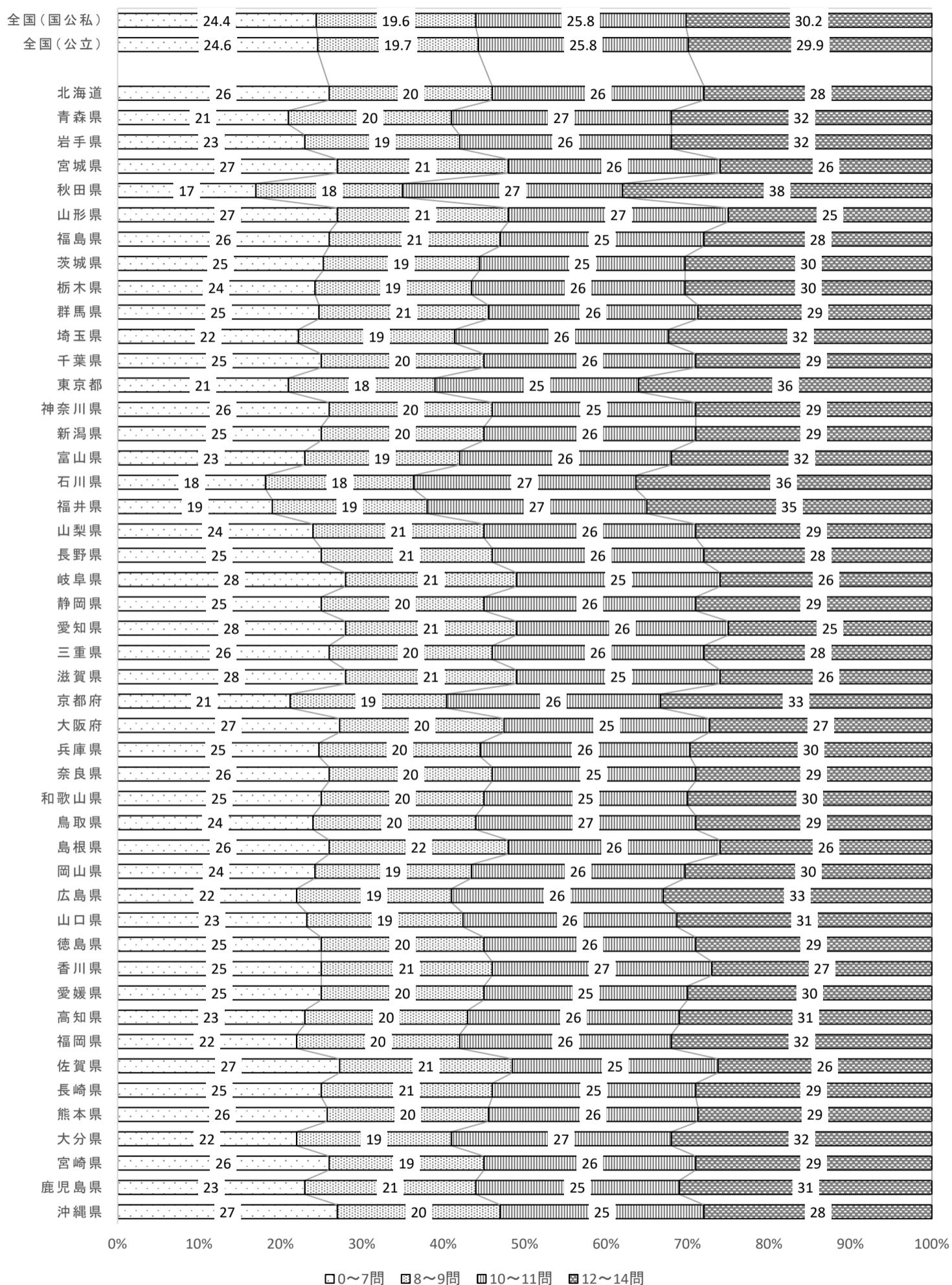
	悉皆調査				経年調査		調査実施日	結果公表日	実施要領の主な変更点等	その他特記事項
	国語	算数 数学	理科	英語 (中学校)	経年変化 分析調査	保護者に 対する 調査				
H30	○	○	○	予備調査			4/17	7/31		○結果提供・公表の早期化 ○学校/学級別解答状況整理表(S-P表)の提供開始
H31 (R1)	○	○		○			4/18	7/31	○教科に関する調査について、知識・活用を一体的に問う調査問題とした	
R2	調査実施見送り(新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮)									
R3	○	○			○	○	5/27	8/31		○新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮して、実施日を約1か月後ろ倒し、後日実施期間を約1か月間に延長
R4	○	○	○				4/19	7/28	○児童生徒質問紙調査について、一部の学校で、端末を活用したオンラインによる回答方式で実施することとした	
R5	○	○		○			4/18	7/31	○中学校英語「話すこと」調査及び一部の学校における児童生徒質問紙調査について、端末を活用したオンライン方式により実施することとした	
R6	○	○			○	○	4/18	7/29	○児童生徒質問紙調査(※)について、全ての学校において端末を活用したオンライン方式により実施することとした (※)調査名を「質問紙調査」→「質問調査」に変更 ○経年変化分析調査及び保護者に対する調査を、冊子を用いた筆記方式と、端末を活用したオンライン方式を併用して実施することとした	

＜参考＞ これまでに取りまとめられた全国的な学力調査に関する報告等

- 全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）（平成18年4月25日全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議）
- 平成21年度全国学力・学習状況調査の実施方法等の改善について（平成20年12月15日全国学力・学習状況調査の分析・活用の推進に関する専門家検討会議）
- 全国学力・学習状況調査の今後の在り方等に関する地方公共団体の意見等についての調査（平成22年度文部科学省）
- 平成23年度以降の全国的な学力調査の在り方に関する検討のまとめ（平成23年3月31日全国的な学力調査の在り方等の検討に関する専門家会議）
- 「きめ細かい調査」の基本的な枠組み（平成24年1月27日全国的な学力調査に関する専門家会議）
- 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果公表に関する調査結果について（平成26年12月）
- 全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する中間まとめ（平成28年6月15日全国的な学力調査に関する専門家会議）
- 全国的な学力調査の今後の改善方策について「論点の整理」（平成28年6月15日全国的な学力調査に関する専門家会議）
- 全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する最終報告（平成29年3月29日全国的な学力調査に関する専門家会議）
- 全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）（平成29年3月29日全国的な学力調査に関する専門家会議）
- 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 中学校英語「話すこと」調査 検証報告書（令和元年9月20日 全国的な学力調査に関する専門家会議）
- 全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループ 中間まとめ「論点整理」（令和2年8月28日 全国的な学力調査に関する専門家会議 全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループ）
- 全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループ 最終まとめ（令和3年7月16日 全国的な学力調査に関する専門家会議 全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループ）
- 令和7年度以降の全国学力・学習状況調査（悉皆調査）CBTでの実施について（令和6年9月改定 文部科学省総合教育政策局学力調査室）

令和6年度調査 実施概況（小学校）補助資料（抄）

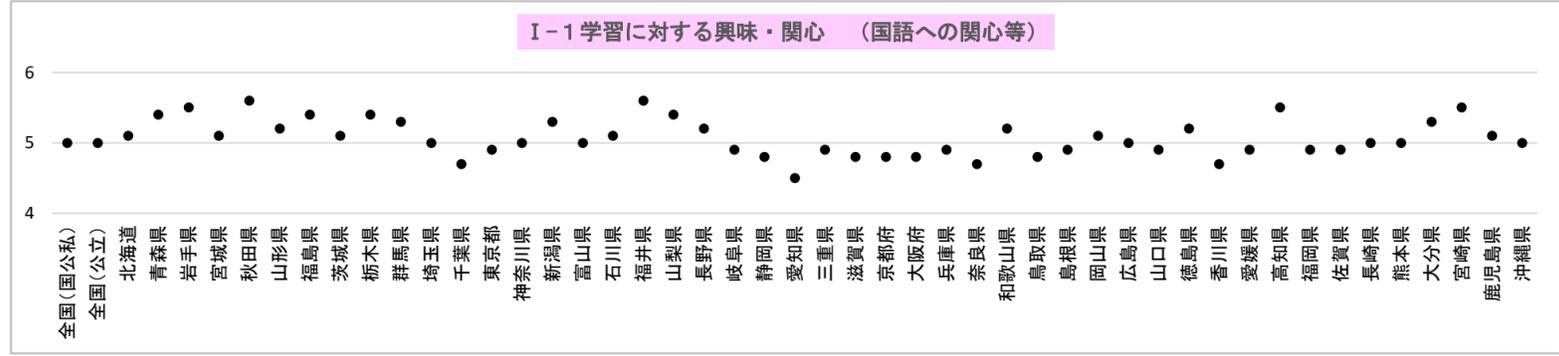
令和6年度全国学力・学習状況調査（小学校）
 教科に関する調査 正答数ごとの層分布（四分位） [国語]
 都道府県別（指定都市を含む）



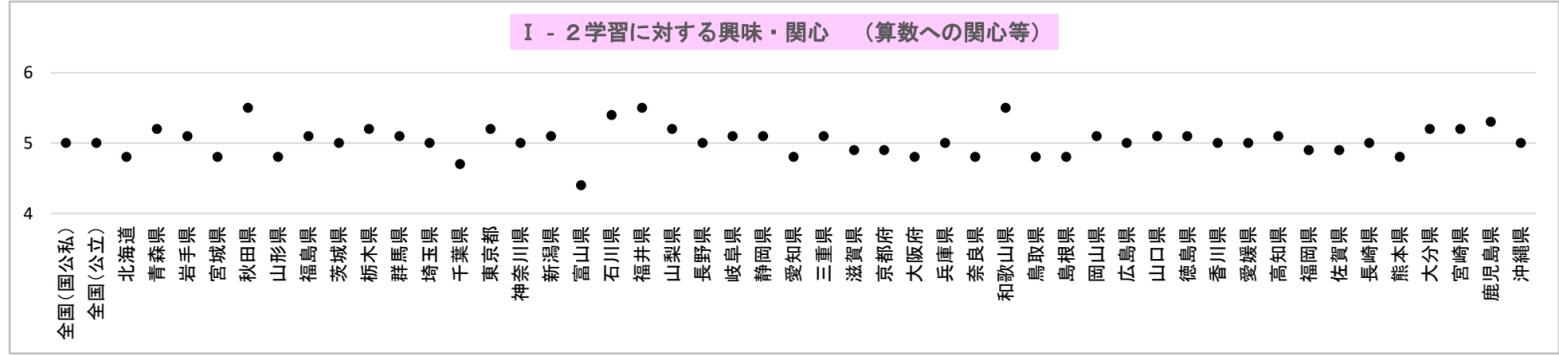
児童質問調査 領域別回答状況
都道府県別（指定都市を含む）

※児童質問調査の各領域の回答状況を得点換算したもの。
全国平均が5.0となるように標準化されており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。

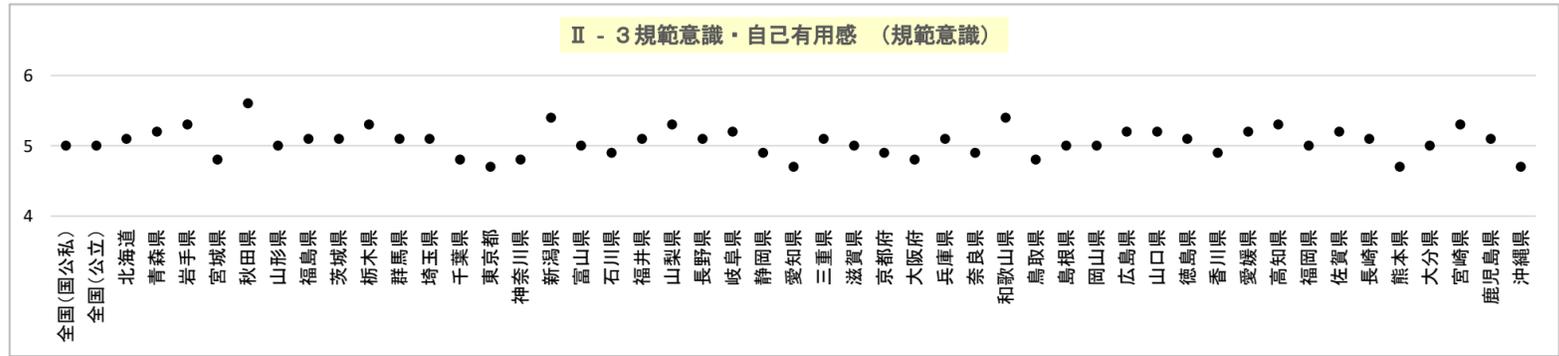
I	1	学習に対する興味・関心 (国語への関心等)	【質問項目】 (42)国語の勉強は好きですか (43)国語の勉強は大切だと思いますか (44)国語の授業の内容はよく分かりますか (45)国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
---	---	--------------------------	--



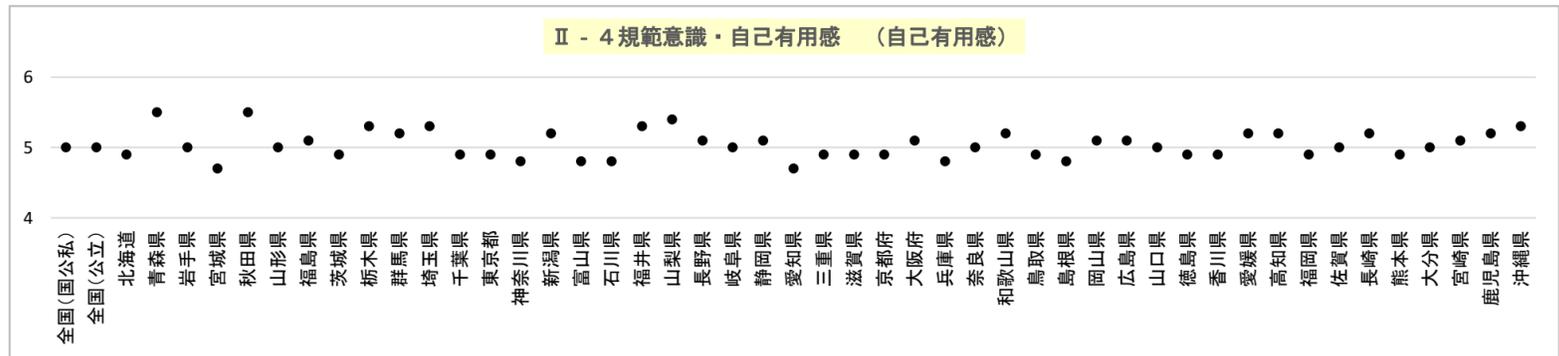
I	2	学習に対する興味・関心 (算数への関心等)	【質問項目】 (50)算数の勉強は好きですか (51)算数の勉強は大切だと思いますか (52)算数の授業の内容はよく分かりますか (53)算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
---	---	--------------------------	--



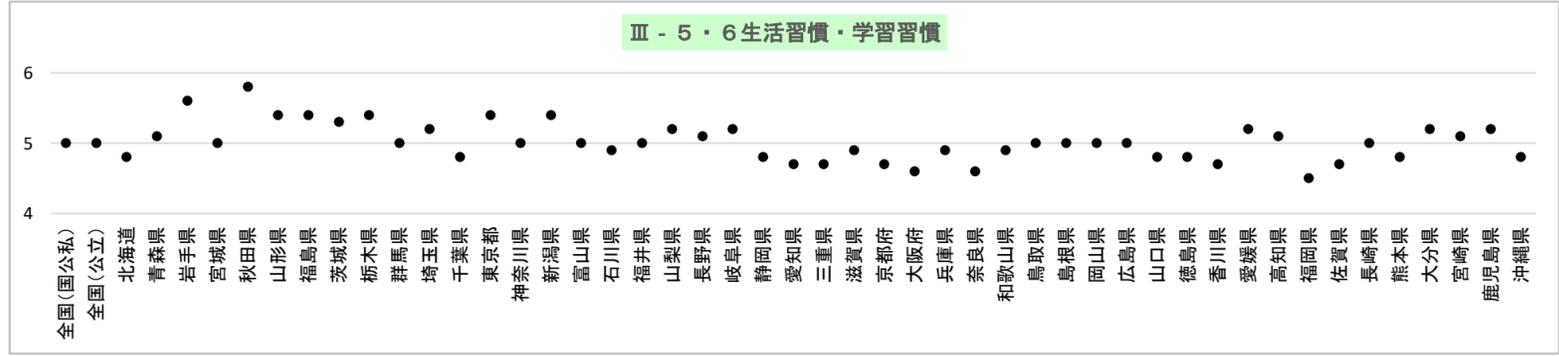
II	3	規範意識・自己有用感 (規範意識)	【質問項目】 (12)人が困っているときは、進んで助けていますか (13)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか (15)人の役に立つ人間になりたいと思いますか
----	---	----------------------	--



II	4	規範意識・自己有用感 (自己有用感)	【質問項目】 (9)自分には、よいところがあると思いますか (10)先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (11)将来の夢や目標を持っていますか
----	---	-----------------------	--



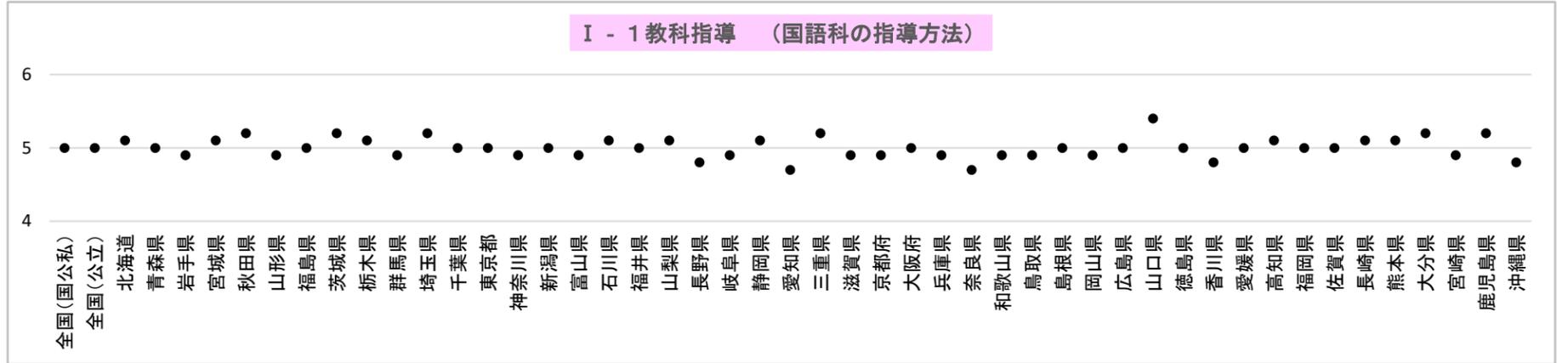
III	5.6	生活習慣・学習習慣	【質問項目】 (1)朝食を毎日食べていますか (2)毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか (3)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか (20)分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか (21)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (22)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
-----	-----	-----------	---



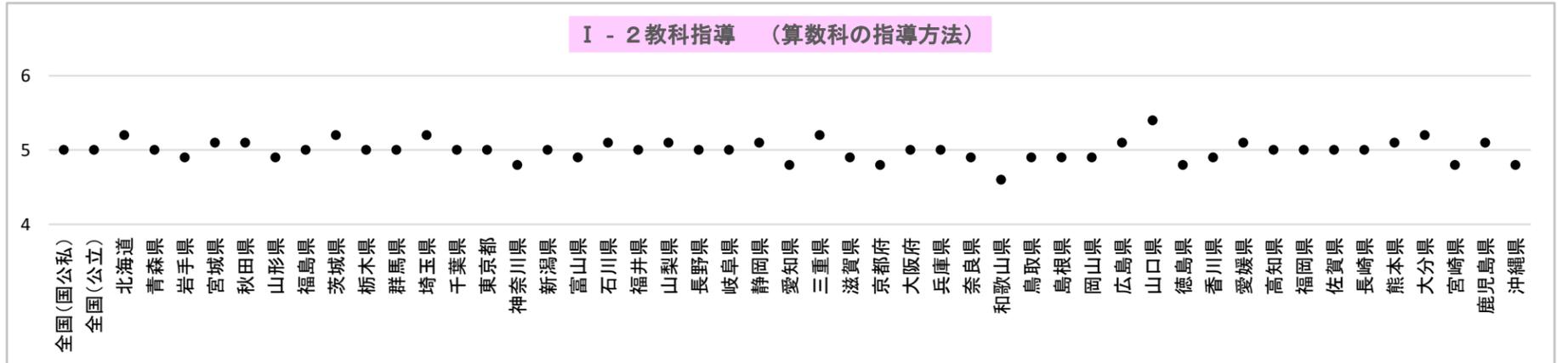
学校質問調査 領域別回答状況
都道府県別（指定都市を含む）

※学校質問調査の各領域の回答状況を得点換算したもの。
全国平均が5.0となるように標準化されており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。

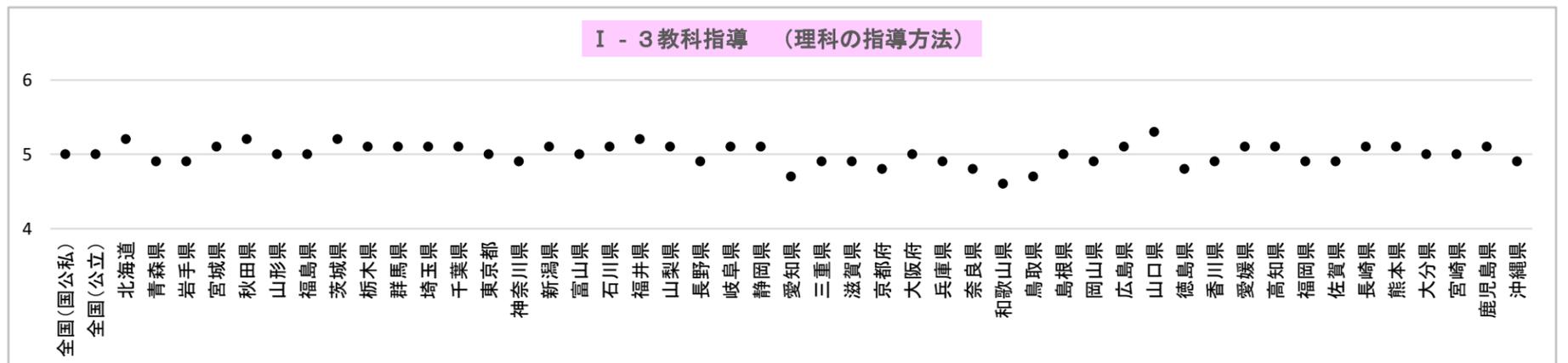
I	1	教科指導 (国語科の指導方法)	【質問項目】
			(41) 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行いましたか (42) 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか (43) 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか (44) 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか



I	2	教科指導 (算数科の指導方法)	【質問項目】
			(45) 調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか (46) 調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行いましたか (47) 調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか (48) 調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか



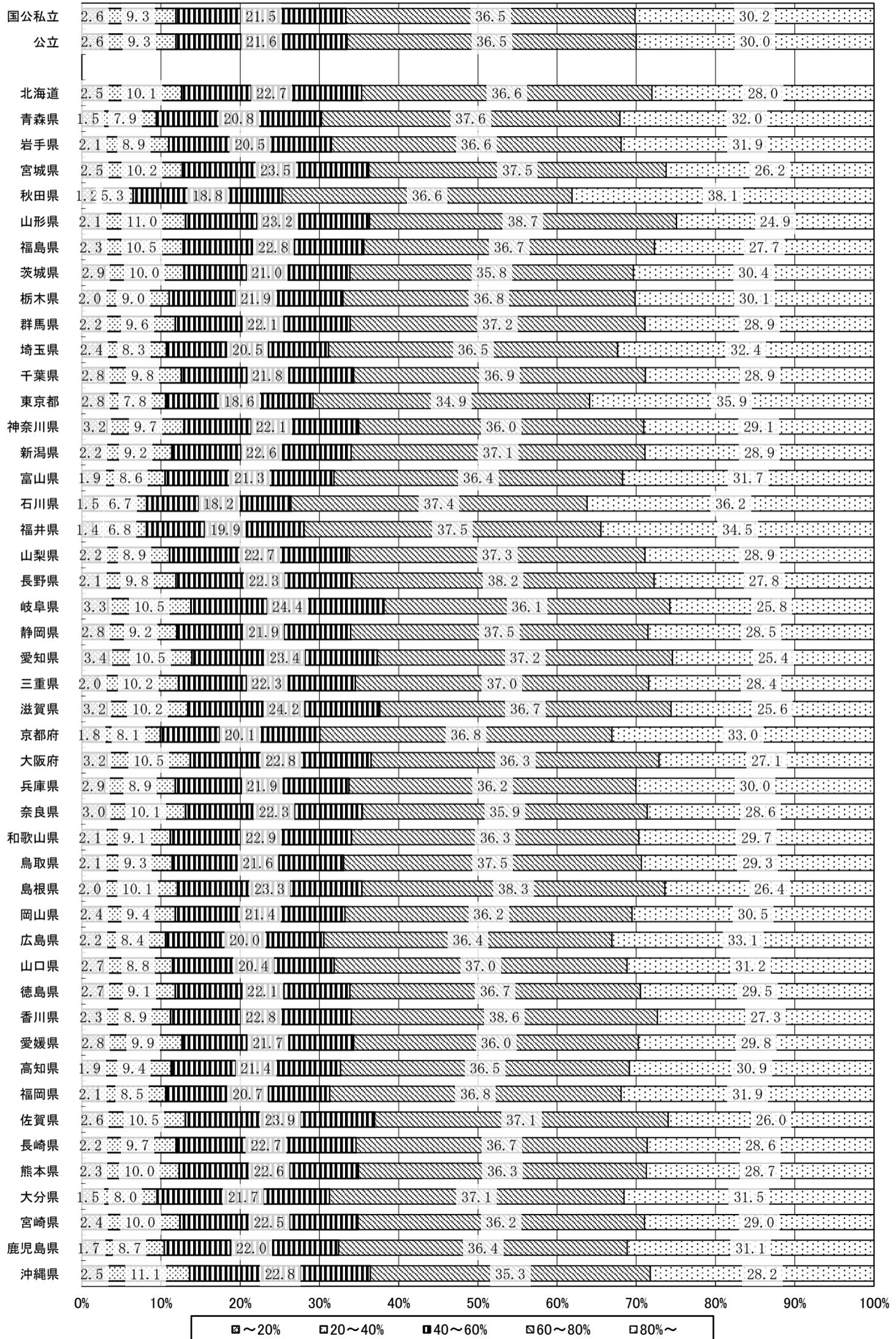
I	3	教科指導 (理科の指導方法)	【質問項目】
			(49) 調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか (50) 調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか (51) 調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか



正答率分布 [国語]

都道府県別 (指定都市を含む) - 児童 (公立)

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。



令和6年度調査 結果チャート（学校向け）

令和6年度全国学力・学習状況調査

小学校調査

全国学力・学習状況調査結果チャート

B15021000020小学校

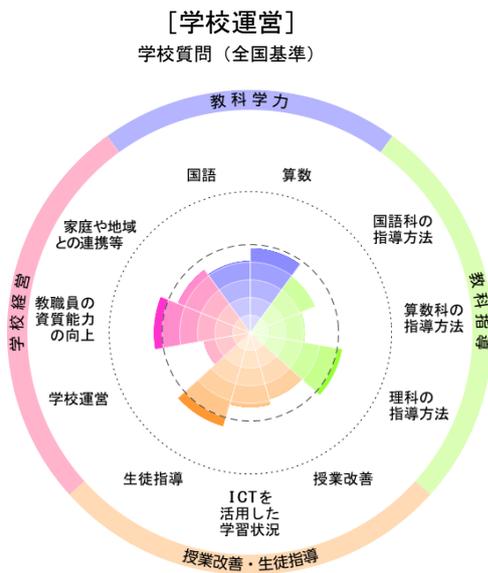
・以下の集計値／グラフは、貴校の調査の結果を集計した値である。

※ただし、教科学力領域については、4月18日に調査を実施した児童の結果を集計した値である。

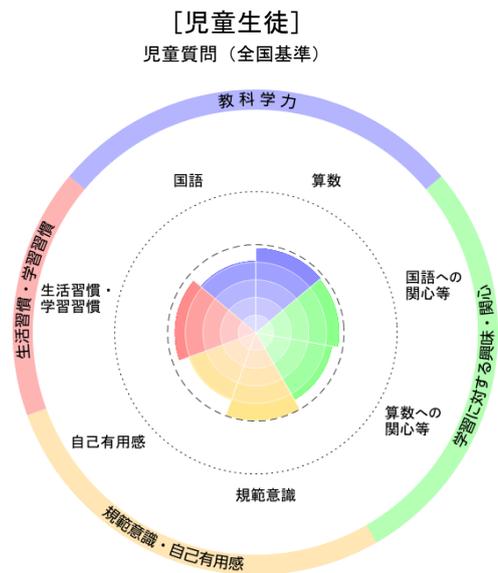
尚、4月18日に実施していない学校については、4月19日以降4月30日までに実施した児童の結果を集計した値とする。

※チャートの詳細については、別添「調査結果に関する補足説明 全国学力・学習状況調査結果チャートについて」を参照のこと。

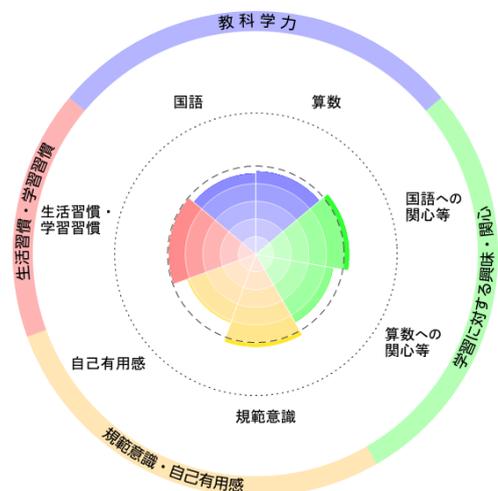
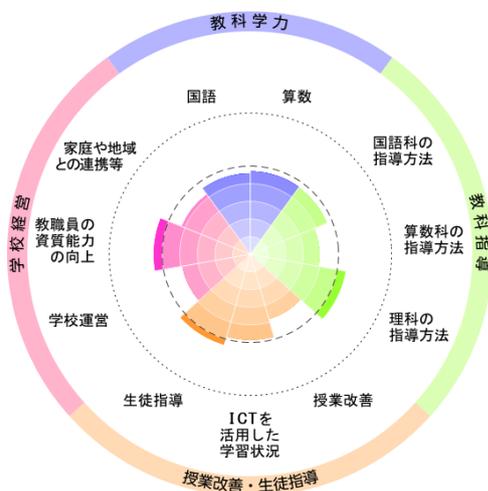
児童数
96



学校質問（■■■■■基準）



児童質問（■■■■■基準）



<令和6年度調査の領域名と学校質問の質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	小学校学校質問 対応領域・項目番号
I	教科学力	国語
		算数
II	教科指導	国語科の指導方法 (41)～(44)
		算数科の指導方法 (45)～(48)
		理科の指導方法 (49)～(51)
III	授業改善・ 生徒指導	授業改善 (25)～(35)
		ICTを活用した学習状況 (53)～(61)
IV	学校経営	生徒指導 (7)(8)
		学校運営 (12)～(14)(75)
		教職員の資質能力の向上 (16)～(18)
		家庭や地域との連携等 (69)(70)

※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
※領域番号3～11については、「小学校学校質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和6年度調査の領域名と児童質問の質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	小学校児童質問 対応領域・項目番号
I	教科学力	国語
		算数
II	学習に対する 興味・関心	国語への関心等 (42)～(45)
		算数への関心等 (50)～(53)
III	規範意識・ 自己有用感	規範意識 (12)(13)(15)
		自己有用感 (9)～(11)
IV	生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣 (1)～(3)(20)～(22)

※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
※領域番号3～7については、「小学校児童質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

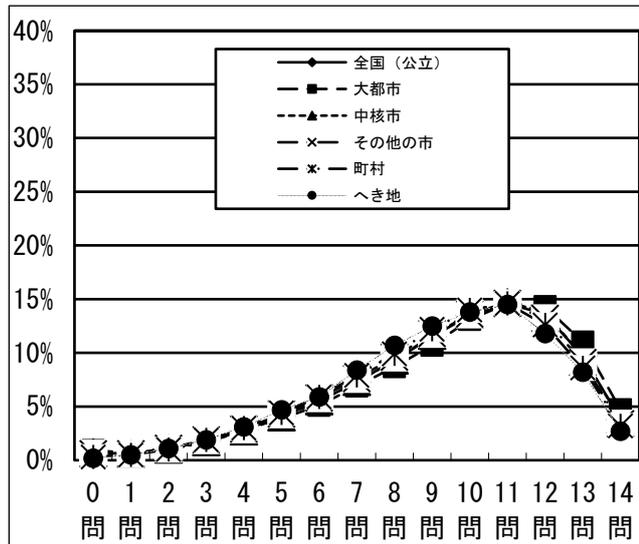
2. 教科に関する調査の結果（概要）

(3) 地域の規模等の状況

○ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差を見ると、地域の規模等（公立：大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）による大きな差は見られない。

[国語]

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
全国（公立）	964,177人	9.4 / 14問	67.2%	10.0問	2.9問
大都市	266,812人	9.5 / 14問	68.2%	10.0問	3.0問
中核市	223,832人	9.4 / 14問	67.3%	10.0問	2.9問
その他の市	393,032人	9.3 / 14問	66.7%	10.0問	2.9問
町村	80,227人	9.3 / 14問	66.4%	10.0問	2.9問
へき地	14,383人	9.2 / 14問	65.7%	10.0問	2.8問

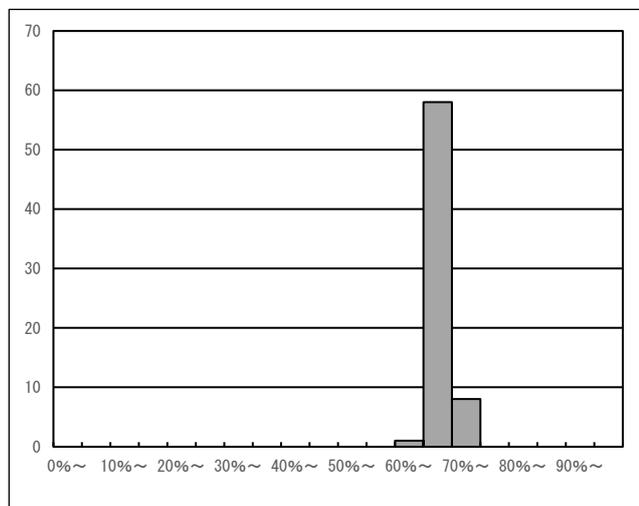
※大都市（政令指定都市及び東京23区）、中核市、その他の市、町村の値は、当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する児童の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。
 ※へき地の値は、へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する児童の調査結果を集計したものである。大都市、中核市、その他の市、町村の値に重複する。

(4) 都道府県・指定都市の状況

○ 各都道府県・指定都市（公立）の状況については、平均正答率を見ると、全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない。

[国語]

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：都道府県・指定都市数）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中、最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均正答率【全国との差】
67%	72% 【+5%】	63% 【-4%】

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均正答率は整数値で表示している。

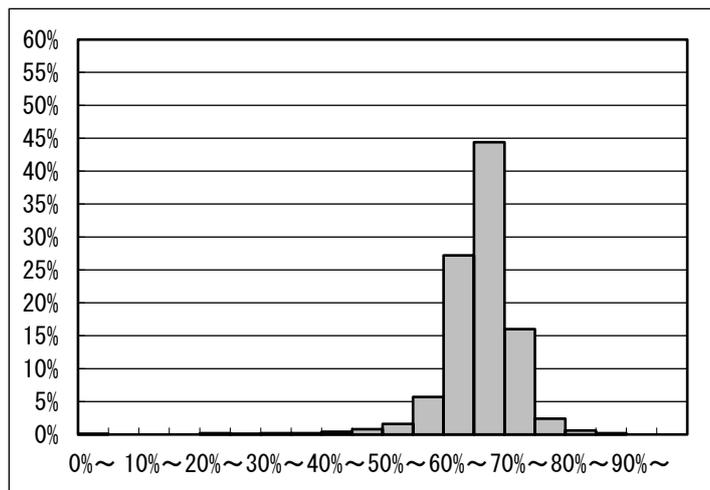
(5) 教育委員会の状況

○ 各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、令和4年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

[国語]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率	教育委員会の中央値	教育委員会の標準偏差
1,787	9.2 / 14問	65.9%	66.4%	6.2%

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：教育委員会の割合）



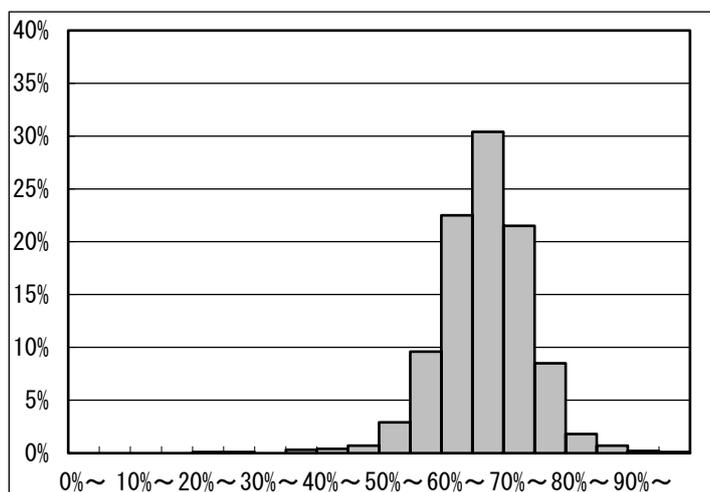
(6) 学校の状況

○ 各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、令和4年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

[国語]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率	学校の中央値	学校の標準偏差
18,820校	9.4 / 14問	66.9%	67.2%	7.5%

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：学校の割合）

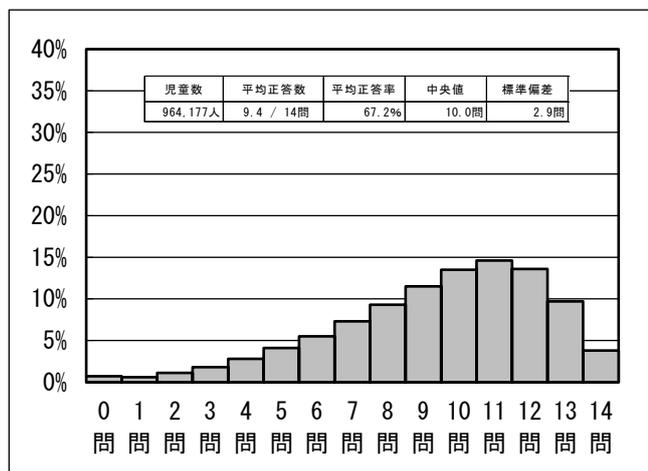


(7) 国・公・私立学校の状況

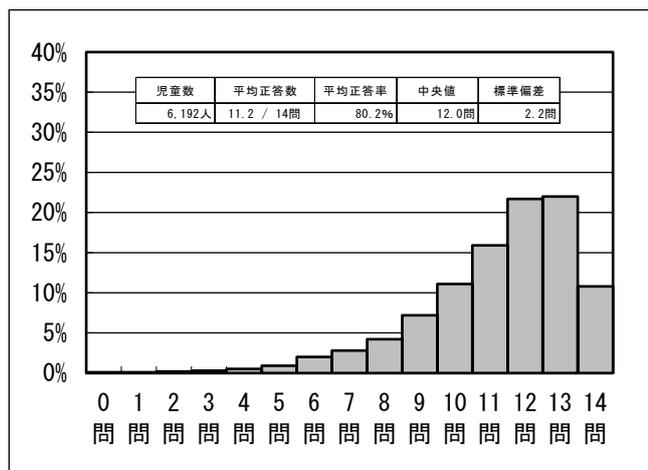
○ 国立・私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

[国語]

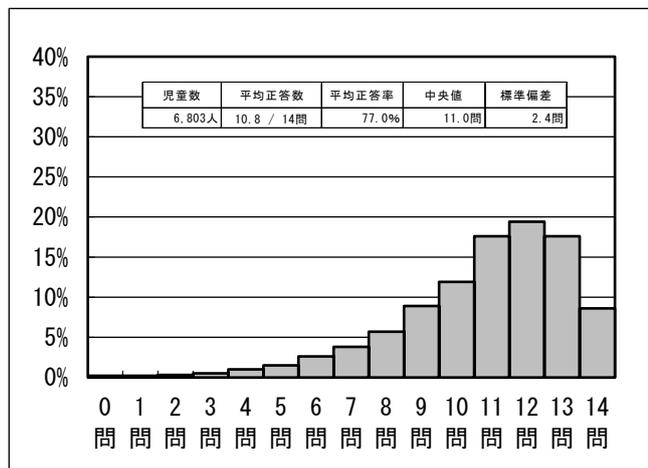
<公立> 正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 児童の割合)



<国立> 正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 児童の割合)



<私立> 正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 児童の割合)



TOP> 全国学力・学習状況調査> 令和6年度 報告書・調査結果資料

令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料

1. 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

- [令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）](#) (PDF) /5.27MB)



(全体版)



(教科調査抜
粋版)



(質問調査抜
粋版)

- [令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）のポイント](#) (PDF) /1.43MB)



(ポイ
ント)

2. 令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書



【小学校】国語



【小学校】算数



【中学校】国語



【中学校】数学



質問調査

3. 令和6年度 全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果資料

4. 令和6年度 全国学力・学習状況調査【中学校】調査結果資料

5. 令和6年度 全国学力・学習状況調査【都道府県別】および【指定都市別】調査結果資料

文部科学省総合教育政策局参事官（調査企画担当）
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部学力調査課

[このページのTOPへ△](#)

令和6年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料

都道府県別 北海道

小学校

- [調査結果概況 北海道－児童（公立）](#) (Excel/34KB)
- [問題別調査結果 北海道－児童（公立）](#) (Excel/38KB)
- [類型別調査結果 北海道－児童（公立）](#) (Excel/100KB)
- [回答結果集計〔児童質問調査〕北海道－児童（公立）【表】](#) (Excel/62KB)
 - [北海道－児童（公立）【グラフ】](#) (PDF/520KB)
- [回答結果集計〔学校質問調査〕北海道－学校（公立）【表】](#) (Excel/61KB)

中学校

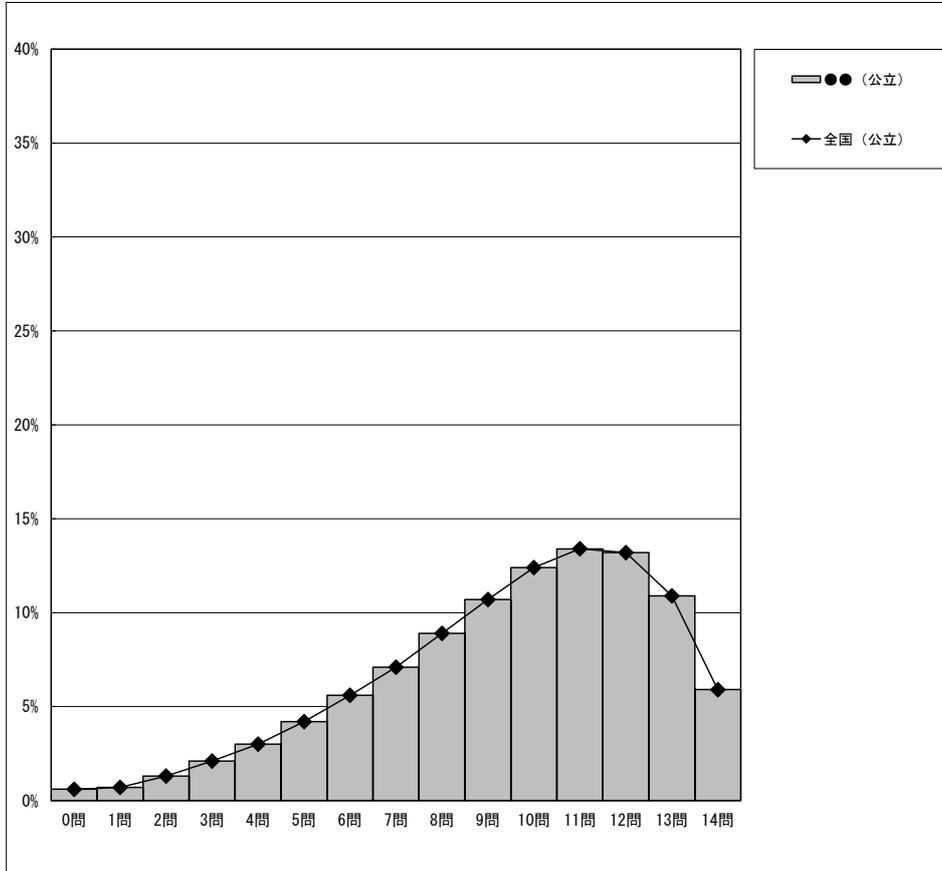
- [調査結果概況 北海道－生徒（公立）](#) (Excel/35KB)
- [問題別調査結果 北海道－生徒（公立）](#) (Excel/38KB)
- [類型別調査結果 北海道－生徒（公立）](#) (Excel/107KB)
- [回答結果集計〔生徒質問調査〕北海道－生徒（公立）【表】](#) (Excel/64KB)
 - [北海道－生徒（公立）【グラフ】](#) (PDF/532KB)
- [回答結果集計〔学校質問調査〕北海道－学校（公立）【表】](#) (Excel/76KB)

[このページのTOPへ△](#)

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
●●（公立）	●●	9.5 / 14	68	10.0	3.1
全国（公立）	947,364	9.5 / 14	67.7	10.0	3.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数	正答数集計値	
	児童数 ●● (公立)	割合 (%) ●● (公立) 全国 (公立)
14問	●●	5.9 5.9
13問	●●	10.9 10.9
△ 12問	●●	13.2 13.2
11問	●●	13.4 13.4
◇ 10問	●●	12.4 12.4
9問	●●	10.7 10.7
8問	●●	8.9 8.9
▽ 7問	●●	7.1 7.1
6問	●●	5.6 5.6
5問	●●	4.2 4.2
4問	●●	3.0 3.0
3問	●●	2.1 2.1
2問	●●	1.3 1.3
1問	●●	0.7 0.7
0問	●●	0.6 0.6

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	●● (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問

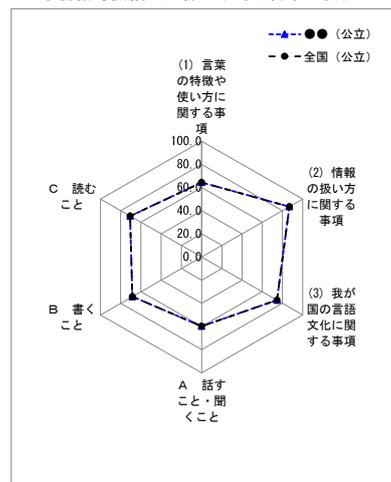
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		●●（公立）	全国（公立）	対象児童数	●●（公立）	全国（公立）
		●●	18,466			947,364

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			●●（公立）	全国（公立）	
全体			14	68	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	4	64.4	64.4
		(2) 情報の扱いに関する事項	1	86.9	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	74.6	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	59.8	59.8
		B 書くこと	2	68.4	68.4
		C 読むこと	3	70.7	70.7
評価の観点	知識・技能	6	69.8	69.8	
	思考・判断・表現	8	66.0	66.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	10	69.9	69.9	
	短答式	2	59.7	59.7	
	記述式	2	64.6	64.6	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	●●（公立）	全国（公立）	●●（公立）	全国（公立）	
			(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	(2) 情報の扱いに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと											
1一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5-6ア				○	○					62.5	62.5	0.7	0.7
1二(1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	5-6イ							○						75.9	75.9	0.6	0.6
1二(2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5-6ウ				○	○					52.9	52.9	0.7	0.7
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5-6ア				○	○					63.8	63.8	0.9	0.9
2一(1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				5-6ア				○						80.3	80.3	0.9	0.9
2一(2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5-6イ							○						86.9	86.9	0.9	0.9
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5-6ウ				○						56.6	56.6	4.9	4.9
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	5-6エ							○						43.4	43.4	13.2	13.2
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげ)		5-6エ							○						76.0	76.0	8.0	8.0
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	3-4カ							○						62.3	62.3	2.0	2.0
3二(1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話しかけているか考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる				5-6イ				○						66.9	66.9	2.6	2.6
3二(2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる				5-6エ				○	○					72.5	72.5	2.9	2.9
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる				5-6エ				○						72.6	72.6	12.6	12.6
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる	5-6オ							○	○					74.6	74.6	7.6	7.6

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数
●●（公立）	●●

※太字かつ下線付きの箇所は正答を表す。

1段目：都道府県(公立)の児童数の割合(%) 2段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
1一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	21.2	7.9	62.5	7.6					0.1	0.7
		21.2	7.9	62.5	7.6					0.1	0.7
1		1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3	◎	3 と解答しているもの									
4		4 と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
1二（1）	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	75.9	6.7	7.6	8.9					0.2	0.6
		75.9	6.7	7.6	8.9					0.2	0.6
1	◎	1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3		3 と解答しているもの									
4		4 と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
1二（2）	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	27.7	52.9	3.0	15.4					0.3	0.7
		27.7	52.9	3.0	15.4					0.3	0.7
1	◎	1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3		3 と解答しているもの									
4		4 と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する	5.1	13.4	16.6	63.8					0.1	0.9
		5.1	13.4	16.6	63.8					0.1	0.9
1		1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3		3 と解答しているもの									
4	◎	4 と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
2一（1）	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	3.6	5.5	9.6	80.3					0.1	0.9
		3.6	5.5	9.6	80.3					0.1	0.9
1		1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3		3 と解答しているもの									
4	◎	4 と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題別（解答類型）調査結果 [国語]

●●一児童（公立）

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数
●●（公立）	●●

※太字かつ下線付きの箇所の種類が、正答を表す。

1段目：都道府県(公立)の児童数の割合(%) 2段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数
●●（公立）	●●

※太字かつ下線付きの箇所は正答を表す。

1段目：都道府県(公立)の児童数の割合(%) 2段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
2一(2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する	5.1	86.9	4.9	2.1					0.1	0.9
		5.1	86.9	4.9	2.1					0.1	0.9
1		1 と解答しているもの									
2	◎	2 と解答しているもの									
3		3 と解答しているもの									
4		4 と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	56.6	0.8	0.9	33.0					3.8	4.9
		56.6	0.8	0.9	33.0					3.8	4.9
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いている。 ② 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 60字以上、100字以内で書いている。											
1	◎	条件①、②、③を満たしているもの									
2		条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの									
3		条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。									
4		条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	43.4	11.0	14.0						18.4	13.2
		43.4	11.0	14.0						18.4	13.2
1	◎	「競技」と解答しているもの									
2		「競」と解答しているが、「技」と解答していないもの									
3		「競」と解答していないが、「技」と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)	76.0								16.1	8.0
		76.0								16.1	8.0
1	◎	「投(げる)」と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数
●●（公立）	●●

※太字かつ下線付きの箇所は正答を表す。

1段目：都道府県(公立)の児童数の割合(%) 2段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	13.8	3.1	62.3	18.5					0.3	2.0
		13.8	3.1	62.3	18.5					0.3	2.0
1		1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3	◎	3 と解答しているもの									
4		4 と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
3二(1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話しか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する	4.6	21.2	66.9	4.5					0.1	2.6
		4.6	21.2	66.9	4.5					0.1	2.6
1		1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3	◎	3 と解答しているもの									
4		4 と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
3二(2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	72.5	5.6	5.7	12.9					0.3	2.9
		72.5	5.6	5.7	12.9					0.3	2.9
1	◎	1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3		3 と解答しているもの									
4		4 と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	72.6	0.6	0.0	6.0	0.0	5.5			2.7	12.6
		72.6	0.6	0.0	6.0	0.0	5.5			2.7	12.6

- (正答の条件)
 次の条件を満たして解答している。
 ① 【物語】を読んで、以下の内容を書いている。
 a 心に残ったところ
 b 心に残った理由
 ② 【物語】から言葉や文を取り上げて書いている。
 ③ 60字以上、100字以内で書いている。

1	◎	条件① a、bの両方と、条件②、③を満たしているもの									
2		条件① a、bの両方と、条件②は満たしているが、条件③は満たしていないもの									
3		条件① a、bの両方は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。									
4		条件① a、②は満たしているが、条件① bは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。									
5		条件① aは満たしているが、条件① b、②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。									
6		条件②は満たしているが、条件① aは満たしていないもの *条件① b、③を満たしているかどうかは不問とする。									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

問題別（解答類型）調査結果 [国語]

●●一児童（公立）

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数
●●（公立）	●●

※太字かつ下線付きの箇所の種類が、正答を表す。

1段目：都道府県(公立)の児童数の割合(%) 2段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	2.9	5.0	9.6	<u>74.6</u>					0.2	7.6
		2.9	5.0	9.6	<u>74.6</u>					0.2	7.6
1		1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3		3 と解答しているもの									
4	◎	4 と解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

※1：質問番号(1)～(63)は、4月10日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値である。
 ※2：質問番号(国1)と(国2)、(算1)と(算2)は、それぞれ国語、算数の調査を4月18日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値である。
 ※3：①～③の表の「児童数」は、この集計の対象となった児童数、「学校数」は、「児童数」集計の対象者が属する学校数である。

	①質問番号(1)～(63)		②質問番号(国1)(国2)		③質問番号(算1)(算2)	
	児童数	学校数	児童数	学校数	児童数	学校数
●●(公立)	●●	●●	●●	●●	●●	●●

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答(複数回答質問を除く)されたもの』である。

1段目：都道府県(公立)の児童数
 2段目：都道府県(公立)の児童数の割合(%)
 3段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

質問番号	質問事項	選択肢										その他	無回答	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
(1)	朝食を毎日食べていますか	83.4	10.3	4.6	1.7								0.0	0.0
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	39.7	43.2	14.3	2.8								0.0	0.0
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	56.1	35.5	7.1	1.3								0.0	0.0
(4)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)	3.2	4.3	12.3	24.4	29.9	25.9						0.0	0.0
(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか	17.7	12.6	18.9	25.1	17.7	8.0						0.0	0.0
(6)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)	11.9	8.8	13.1	17.3	13.3	14.6	21.1					0.0	0.0
(7)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	39.4	31.7	4.5	0.9	9.8	13.7						0.0	0.0
(8)	健康にすごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	34.5	47.8	14.9	2.7								0.0	0.0
(9)	自分には、よいところがあると思いますか	43.4	40.7	10.5	5.4								0.0	0.0
(10)	先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか	48.8	41.1	7.3	2.7								0.0	0.1
(11)	将来の夢や目標を持っていますか	60.6	21.8	9.8	7.7								0.0	0.0
(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか	46.0	46.7	6.2	1.1								0.0	0.0
(13)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	79.5	17.2	2.5	0.8								0.0	0.0
(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	30.2	36.9	22.2	10.6								0.0	0.0
(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	71.1	24.8	2.9	1.1								0.0	0.0
(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか	47.2	37.6	10.2	5.0								0.0	0.0
(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	30.3	45.5	18.6	5.5								0.0	0.0
(18)	友達関係に満足していますか	62.4	28.7	6.7	2.2								0.0	0.0
(19)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	50.8	40.9	7.4	1.0								0.0	0.0
(20)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	30.3	50.4	16.2	3.1								0.0	0.1
(21)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	11.0	12.5	31.1	27.0	13.0	5.3						0.0	0.1
(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	7.3	4.3	9.9	27.1	36.2	15.1						0.0	0.1
(23)	あなたの家には、おおよそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)	14.6	21.3	32.2	17.0	10.2	4.7						0.0	0.0
(24)	新聞を読んでいますか	3.7	7.9	12.4	76.0								0.0	0.0
(25)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	36.8	46.7	12.9	3.5								0.0	0.0
(26)	放課後や週末に何をしておごることが多いですか(複数選択)	49.3	5.7	4.4	24.4	38.2	46.7	79.1	65.6	64.2	1.3		0.0	0.0
(27)	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか	25.3	34.2	26.0	10.3	4.2							0.0	0.1

※1：質問番号(1)～(63)は、4月10日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値である。
 ※2：質問番号(国1)と(国2)、(算1)と(算2)は、それぞれ国語、算数の調査を4月18日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値である。
 ※3：①～③の表の「児童数」は、この集計の対象となった児童数、「学校数」は、「児童数」集計の対象者が属する学校数である。

	①質問番号(1)～(63)		②質問番号(国1)(国2)		③質問番号(算1)(算2)	
	児童数	学校数	児童数	学校数	児童数	学校数
●●(公立)	●●	●●	●●	●●	●●	●●

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答(複数回答質問を除く)されたもの』である。

1段目：都道府県(公立)の児童数
 2段目：都道府県(公立)の児童数の割合(%)
 3段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

質問番号	質問事項	選択肢										その他	無回答	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
(28-1)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	33.8	51.7	11.9	2.5								0.0	0.1
(28-2)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	58.4	33.7	6.3	1.5								0.0	0.1
(28-3)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(3)楽しみながら学習を進めることができる	46.9	39.1	11.1	2.8								0.0	0.1
(28-4)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(4)画像や動画、音声などを活用することで、学習内容がよく分かる	47.6	42.2	8.3	1.9								0.0	0.1
(28-5)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	33.3	45.9	17.2	3.5								0.0	0.1
(28-6)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	44.6	41.5	11.1	2.7								0.0	0.1
(28-7)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7)友達と協力しながら学習を進めることができる	46.2	40.9	10.2	2.7								0.0	0.1
(29)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	25.9	41.7	23.0	7.8	1.7							0.0	0.1
(30)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	29.5	52.4	15.6	2.5								0.0	0.1
(31)	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	29.7	49.9	17.3	3.0								0.0	0.1
(32)	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	34.4	49.9	12.7	3.0								0.0	0.1
(33)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	41.4	44.9	10.5	2.3	0.8							0.0	0.1
(34)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	31.9	48.9	16.0	3.1								0.0	0.1
(35)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができていると思いますか	35.9	47.8	13.4	2.8								0.0	0.1
(36)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	47.3	40.6	9.2	2.8								0.0	0.1
(37)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	47.8	43.8	6.7	1.6								0.0	0.1
(38)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	36.5	44.8	15.4	3.3								0.0	0.1
(39)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	36.3	47.9	12.5	3.1								0.0	0.1
(40)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	34.9	47.6	14.2	3.2								0.0	0.1
(41)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	47.3	40.9	9.3	2.4								0.0	0.1
(42)	国語の勉強は好きですか	24.1	37.9	24.4	13.6								0.0	0.1
(43)	国語の勉強は大切だと思いますか	67.5	27.0	3.6	1.9								0.0	0.1
(44)	国語の授業の内容はよく分かりますか	39.2	47.1	10.8	2.8								0.0	0.1
(45)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	61.8	31.4	4.9	1.8								0.0	0.1
(46)	国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか	27.5	50.8	17.9	3.7								0.0	0.1
(47)	国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか	29.7	50.3	16.5	3.4								0.0	0.1
(48)	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか	37.1	46.1	13.6	3.1								0.0	0.1

※1：質問番号(1)～(63)は、4月10日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値である。
 ※2：質問番号(国1)と(国2)、(算1)と(算2)は、それぞれ国語、算数の調査を4月18日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値である。
 ※3：①～③の表の「児童数」「学校数」は、この集計の対象となった児童数、「学校数」は、「児童数」集計の対象者が属する学校数である。

	①質問番号(1)～(63)		②質問番号(国1)(国2)		③質問番号(算1)(算2)	
	児童数	学校数	児童数	学校数	児童数	学校数
●●(公立)	●●	●●	●●	●●	●●	●●

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答(複数回答質問を除く)されたもの』である。

1段目：都道府県(公立)の児童数
 2段目：都道府県(公立)の児童数の割合(%)
 3段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

質問番号	質問事項	選択肢										その他	無回答	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
(49)	国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか	42.9	41.5	12.3	3.2								0.0	0.1
(50)	算数の勉強は好きですか	34.0	27.0	21.4	17.7								0.0	0.1
(51)	算数の勉強は大切だと思いますか	74.3	20.3	3.3	2.1								0.0	0.1
(52)	算数の授業の内容はよく分かりますか	44.9	37.2	13.1	4.8								0.0	0.1
(53)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	71.7	22.4	4.0	1.8								0.0	0.1
(54)	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	42.3	35.6	15.7	6.4								0.0	0.1
(55)	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	47.0	36.3	12.4	4.2								0.0	0.1
(56)	算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか	31.1	32.5	24.7	11.6								0.0	0.1
(57)	算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか	48.1	36.5	11.1	4.2								0.0	0.1
(58)	理科の勉強は好きですか	53.1	30.5	10.7	5.7								0.0	0.1
(59)	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を思いだしたりすることがありますか	49.2	34.0	12.4	4.3								0.0	0.1
(60)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	49.6	36.0	11.0	3.4								0.0	0.1
(61)	英語の勉強は好きですか	38.2	31.1	17.9	12.7								0.0	0.1
(62)	英語の勉強は大切だと思いますか	71.2	20.9	4.9	3.0								0.0	0.0
(63)	英語の授業の内容はよく分かりますか	43.6	34.7	14.8	6.8								0.0	0.0
(国1)	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	79.1	14.9	2.2									0.1	3.7
(国2)	解答時間は十分でしたか(国語)	32.9	35.6	23.8	3.9								0.0	3.8
(算1)	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	78.7	16.8	1.6									0.1	2.8
(算2)	解答時間は十分でしたか(算数)	61.3	22.9	10.6	2.4								0.0	2.8

以下の集計値は、4月18日に教科に関する調査(国語、算数)を一つ以上実施し、かつ、学校質問調査を実施した学校を対象として集計した値である。

●●(公立)	●●
--------	----

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答されたもの』である。
 ※質問番号(3)～(5)の選択肢の内容については、「学校質問 補足資料」を参照。
 1段目: 都道府県(公立)の学校数
 2段目: 都道府県(公立)の学校数の割合(%)
 3段目: 全国(公立)の学校数の割合(%)

質問番号	質問事項	選択肢										その他無回答	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
(1)	調査基準日現在の学校の全学年の児童数	11.9	11.3	23.3	31.3	18.2	4.1						0.0
(2)	調査基準日現在の第6学年の児童数(特別支援学級の児童数は除く)	14.6	12.5	10.1	8.5	30.6	17.0	5.3	1.2	0.2			0.0
(3)	調査基準日現在の学校の全学年の学級数(特別支援学級は除く)	11.9	37.4	28.5	14.7	4.7	1.6	1.2					0.1
(4)	調査基準日現在の第6学年の学級数(特別支援学級は除く)	39.6	29.9	18.3	7.1	1.7	0.6	0.1	0.3	2.2			0.3
(5)	調査基準日現在の学校の全教員数(副校長・教頭・主幹教諭・指導教諭・教諭・助教諭・養護教諭・養護助教諭・栄養教諭・講師(常勤))	0.8	9.5	21.9	13.5	16.3	13.2	9.9	6.3	8.5			0.0
(6)	調査対象学年の児童のうち、就学援助を受けている児童の割合	10.5	16.5	23.5	20.1	11.7	7.4	4.1	4.5	1.5			0.1
(7)	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	38.9	46.6	12.4	2.1								0.0
(8)	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっていますか	52.2	38.4	7.8	1.5								0.0
(9)	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	43.7	35.2	13.8	3.7	0.1	3.5						0.1
(10)	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	59.5	28.0	8.4	2.4	0.0	1.5						0.1
(11)	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか	32.8	66.3	0.8									0.1
(12)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	38.8	58.5	2.7	0.0								0.1
(13)	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	40.4	56.6	2.9	0.0								0.1
(14)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	48.1	49.2	2.6	0.0								0.1
(15)	言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか	41.4	54.6	4.0	0.0								0.1
(16)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	62.3	36.3	1.4	0.0								0.1
(17)	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	34.1	55.9	9.8	0.2								0.1
(18)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)	27.1	59.3	13.5	0.1								0.1
(19)	校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか(管理職を除く)	12.1	78.7	3.9	4.9	0.3							0.0
(20)	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか	65.2	34.1	0.6	0.0								0.1
(21)	各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか	81.0	18.6	0.3	0.0								0.1
(22)	今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか	33.9	57.1	8.8	0.2								0.1
(23)	教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか	72.3	27.1	0.6	0.0								0.0
(24)	ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていると思いますか	41.7	48.4	9.4	0.4								0.0
(25)	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	20.1	68.1	11.6	0.2								0.0

以下の集計値は、4月18日に教科に関する調査(国語、算数)を一つ以上実施し、かつ、学校質問調査を実施した学校を対象として集計した値である。

	学校数
●●(公立)	●●

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答されたもの』である。

※質問番号(3)～(5)の選択肢の内容については、「学校質問 補足資料」を参照。

1項目: 都道府県(公立)の学校数

2項目: 都道府県(公立)の学校数の割合(%)

3項目: 全国(公立)の学校数の割合(%)

質問番号	質問事項	選択肢										その他無回答	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
(26)	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の細立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	12.4	65.9	21.3	0.4								0.1
(27)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	19.6	67.6	12.6	0.2								0.1
(28)	調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	31.7	61.9	6.2	0.1								0.1
(29)	調査対象学年の児童は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	9.2	52.0	36.4	2.2								0.1
(30)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	26.5	63.8	9.6	0.0								0.1
(31)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	32.8	61.7	5.3	0.1								0.1
(32)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	34.0	61.8	4.0	0.0								0.2
(33)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	29.2	60.1	10.5	0.1								0.1
(34)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	20.3	67.1	12.4	0.1								0.2
(35)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	18.6	67.1	14.1	0.0								0.1
(36)	調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	33.1	58.8	8.0	0.1								0.1
(37)	調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	37.1	57.1	5.7	0.1								0.1
(38)	調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか	32.1	60.5	7.2	0.1								0.1
(39)	調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	35.2	60.8	3.9	0.0								0.1
(40)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか	22.6	64.5	12.6	0.1								0.1
(41)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行いましたか	19.5	70.5	9.9	0.0								0.1
(42)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか	22.2	70.4	7.3	0.0								0.1
(43)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡潔に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか	29.8	65.1	5.0	0.0								0.1
(44)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか	35.5	61.4	3.0	0.0								0.1
(45)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	27.6	64.7	7.6	0.0								0.1
(46)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか	35.9	58.7	5.3	0.0								0.1
(47)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか	44.0	52.2	3.6	0.0								0.1
(48)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか	38.5	56.3	5.1	0.0								0.1
(49)	調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	32.7	62.6	4.6	0.0								0.1
(50)	調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	36.7	59.3	4.0	0.0								0.1

以下の集計値は、4月18日に教科に関する調査(国語、算数)を一つ以上実施し、かつ、学校質問調査を実施した学校を対象として集計した値である。

●●(公立)	●●
--------	----

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答されたもの』である。
 ※質問番号(3)～(5)の選択肢の内容については、「学校質問 補足資料」を参照。
 1項目: 都道府県(公立)の学校数
 2項目: 都道府県(公立)の学校数の割合(%)
 3項目: 全国(公立)の学校数の割合(%)

質問番号	質問事項	選択肢										その他無回答	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
(51)	調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか	38.7	56.1	5.1	0.0								0.1
(52)	学校として外国語教育の充実に取り組み上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか	18.0	56.8	24.2	0.9								0.1
(53)	前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	76.0	16.9	4.7	1.2	1.1							0.1
(54)	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか	60.5	34.6	4.6	0.2								0.1
(55)	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	39.0	49.9	10.3	0.7								0.1
(56)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	69.0	24.2	6.0	0.5	0.1							0.2
(57)	調査対象学年の児童が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	32.7	43.9	20.4	2.7	0.2							0.1
(58)	調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	19.7	35.4	28.5	14.2	2.0							0.1
(59)	教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	32.1	27.6	23.5	10.9	5.7							0.1
(60)	調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	17.4	27.6	28.8	15.5	10.5							0.2
(61)	調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	19.3	33.5	30.8	12.0	4.2							0.2
(62)	前年度に、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか	2.0	4.4	11.8	12.6	24.4	44.7						0.1
(63)	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	36.5	35.2	22.0	6.1								0.1
(64)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	21.9	14.3	50.1	7.3	1.0	5.3						0.1
(65-1)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(1)不登校児童に対する学習活動等の支援(65-2)の授業配信を含む	16.6	10.3	11.9	8.0	8.6	20.2	24.3					0.1
(65-2)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(2)希望する不登校児童に対する授業配信	15.7	6.7	6.2	4.2	5.8	17.2	44.0					0.2
(65-3)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3)特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援	31.5	17.0	15.0	6.3	4.2	10.3	15.5					0.1
(65-4)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(4)外国人児童に対する学習活動等の支援	9.6	4.7	6.0	2.4	1.9	11.8	63.6					0.1
(65-5)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5)児童の心身の状況の把握	26.1	2.4	3.4	6.0	8.7	35.5	17.7					0.2
(65-6)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(6)児童に対するオンラインを活用した相談・支援	6.4	1.9	3.1	5.1	8.1	49.9	25.4					0.1
(66)	障害のある児童が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援をどの程度行いましたか	5.3	12.1	9.6	5.3	67.5							0.1
(67)	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)をどの程度行いましたか	44.7	50.2	4.4	0.5								0.1
(68)	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	18.8	45.2	28.8	7.1								0.1
(69)	職場見学を行っていますか	43.2	56.6										0.2
(70)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	36.7	52.2	4.9	0.4	5.8							0.1

・以下の集計値は、4月18日に教科に関する調査（国語、算数）を一つ以上実施し、かつ、学校質問調査を実施した学校を対象として集計した値である。

	学校数
●●（公立）	●●

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答されたもの』である。

※質問番号（3）～（5）の選択肢の内容については、「学校質問 補足資料」を参照。

1段目：都道府県（公立）の学校数

2段目：都道府県（公立）の学校数の割合（%）

3段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問番号	質問事項	選択肢										その他無回答	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
(71)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	47.2	48.9	3.7	0.1								0.1
(72)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	36.0	53.7	9.9	0.3								0.1
(73)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	27.7	60.1	11.9	0.2								0.1
(74)	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	34.6	62.2	3.1									0.1
(75)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか	31.7	61.1	4.3	2.8								0.1
(76)	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	26.1	63.4	10.5									0.1

「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」 テーマ一覧(平成 21 年度～令和6年度)

平成 21 年度

- 教科指導における ICT 活用と学力・学習状況の関係に関する調査
- 読書活動と学力・学習状況調査の関係に関する調査研究
- 地方自治体の学力調査と接合したパネルデータを用いた学力の規定要因分析
- 地域におけるデータ等を補完的に用いた調査分析手法の調査研究
- 学校質問紙調査による類型化
- 社会関係資本と学力

平成 22 年度

- 全国規模の学力調査における重複テスト分冊法適用の試み
- 子供たちの学力水準を下支えしている学校の特徴に関する調査研究
- 全国学力・学習状況調査において比較的良好な結果を示した教育委員会・学校等における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究

平成 23 年度

- 小学校から中学校までの低学力層の学力の変化とその要因に関する研究
- 全国規模の学力調査における重複テスト分冊法の展開可能性

平成 24 年度

- 全国学力・学習状況調査の結果を活用した教育委員会における教育施策及び学校における児童生徒への教育指導の充実・改善の状況に関する調査研究
- 全国規模の学力調査におけるマトリックス・サンプリングにもとづく集団統計量の推定について

平成 25 年度

- 経済的な面も含めた家庭状況等と全国学力・学習状況調査の結果との関係に関する調査研究
- 学校における指導方法と全国学力・学習状況調査の結果との関係に関する調査研究
- 全国学力・学習状況調査の結果を用いた理科に対する意欲・関心等が中学校段階で低下する要因に関する調査研究
- 東日本大震災の学力への影響～IRT 推算値による経年比較分析～
- 平成 25 年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）保護者に対する調査結果

平成 26 年度

- PISA（OECD 生徒の学習到達度調査）における上位国・地域の教育制度に関する調査研究
- 諸外国における学力調査の結果公表の手法に関する調査研究
- 教育委員会や学校における調査結果の分析・活用手法に関する調査研究
- 効果的な指導方法に資する調査研究
- 学力向上に効果的な指導方法に関する調査研究

平成 27 年度

- 全国学力・学習状況調査の結果を用いた理科に関する調査研究
- 全国学力・学習状況調査の結果データベースの構築・運用に関する調査研究
- 全国学力・学習状況調査における経年変化分析調査の年度間等化に関する調査研究
- 学力向上に資する教科指導の改善に関する調査研究
- 平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果を活用した学力、学習習慣、学習環境等の関連性に関する調査研究

平成 28 年度

- 全国学力・学習状況調査の結果を用いた小学校 6 年生から中学校 3 年生への学力等の状況の変化に関する調査研究
- 児童生徒や学校の社会経済的背景を分析するための調査の在り方に関する調査研究
- 質問紙調査の項目及び分析手法に関する内外調査研究
- 全国学力・学習状況調査の結果を活用した教育施策や教育指導の改善に資する調査研究

平成 29 年度

- 保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究
- 経年変化分析調査との対応づけによる本体調査の年度間比較の試み
- 本体調査の個票データの匿名化に関する調査研究
- 全国学力・学習状況調査の結果を活用した、九州各県・地域の学力課題の詳細な分析に基づく教育施策の評価と検証改善サイクルの充実に関する調査研究

平成 30 年度

- 平成 29 年度保護者に対する調査の結果を活用した効果的な学校等の取組に関する調査研究
- 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果を活用した理科に関する調査研究
- 全国的な学力調査における ICT の活用に関する調査研究
- 全国学力・学習状況調査の結果を活用した九州各県・地域の学力課題の詳細な分析に基づく検証改善サイクルの充実に関する調査研究

平成 31 年度

- 学校の ICT 環境を活用した CBT に求められる諸条件等の調査研究（市場調査）
- 全国学力・学習状況調査の結果を活用した英語に関する調査研究

令和 2 年度

- 全国的な学力調査の CBT 化に関する調査研究

令和 3 年度

- 全国学力・学習状況調査の CBT 化に向けた試行・検証
- 質問紙調査に関する調査研究
- 全国学力・学習状況調査を活用した新型コロナウイルス感染症の影響等に関する調査研究

令和 4 年度

- 保護者に対する調査の結果を活用した家庭の社会経済的背景（SES）と学力との関係に関する調査研究
- 保護者に対する調査の結果を活用した効果的な学校等の取組やコロナ禍における児童生徒の学習環境に関する調査研究
- 経年変化分析調査及び本体調査の結果を活用した学力の経年変化に関する専門的な分析
- 全国学力・学習状況調査の CBT 化に向けた試行・検証

令和 5 年度

- 理科教育における特徴的な取組等に関する分析
- 我が国の児童生徒の理科の学力や学習状況に関する傾向等の分析
- 令和 5 年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した専門的な分析
- 令和 5 年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査（うち、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）の結果を活用した専門的な分析
- 全国学力・学習状況調査の CBT 化に向けた試行・検証

令和 6 年度

- 全国学力・学習状況調査の国語の結果を活用した専門的な分析
- 全国学力・学習状況調査の算数・数学の結果を活用した専門的な分析

OECDのレポートにおける PISA2022の結果の取扱い

- ・ 表 I.2.1 国・地域別の数学の成績一覧
- ・ 表 I.B1.2.1 数学の平均得点とばらつき
- ・ 図 I.2.3 数学の成績とばらつきの関係（グラフ）
- ・ 図 I.4.2 生徒の「社会経済文化的背景」（ESCS）と数学的リテラシーの平均得点との関連
- ・ 図 I.2.4 数学の成績の分布（数学の平均得点の10,50,90パーセンタイル値）
- ・ 表 I.B1.3.1 数学の各習熟度レベル別の生徒割合一覧
- ・ 図 I.3.1 数学の各習熟度レベル別の生徒割合（グラフ）
- ・ カントリーノート（日本の例）

【出典】

OECD (2023), PISA 2022 Results (Volume I): The State of Learning and Equity in Education, PISA, OECD Publishing, Paris.

In mathematics, six East Asian education systems (Hong Kong [China]*, Japan, Korea, Macao [China], Singapore and Chinese Taipei) outperformed all other countries and economies (Table I.2.1). Another 17 countries also performed above the OECD average in mathematics, ranging from Estonia (mean score of 510 points) to New Zealand* (mean score of 479 points).

The gap in performance between the highest- and lowest-performing countries is 153 score points in mathematics among OECD countries and 238 points among all education systems that took part in PISA 2022.

Table I.2.1
Comparing countries' and economies' performance in mathematics

	Statistically significantly above the OECD average
	Not statistically significantly different from the OECD average
	Statistically significantly below the OECD average

Mean score	Comparison country/economy	Countries and economies whose mean score is not statistically significantly different from the comparison country's/economy's score
575	Singapore	
552	Macao (China)	Chinese Taipei
547	Chinese Taipei	Macao (China), Hong Kong (China)*
540	Hong Kong (China)*	Chinese Taipei, Japan
536	Japan	Hong Kong (China)*, Korea
527	Korea	Japan
510	Estonia	Switzerland
508	Switzerland	Estonia
497	Canada*	Netherlands*
493	Netherlands*	Canada*, Ireland*, Belgium, Denmark*, United Kingdom*, Poland, Austria, Australia*, Czech Republic
492	Ireland*	Netherlands*, Belgium, Denmark*, United Kingdom*, Poland, Austria, Australia*, Czech Republic
489	Belgium	Netherlands*, Ireland*, Denmark*, United Kingdom*, Poland, Austria, Australia*, Czech Republic, Slovenia, Finland
489	Denmark*	Netherlands*, Ireland*, Belgium, United Kingdom*, Poland, Austria, Australia*, Czech Republic, Finland
489	United Kingdom*	Netherlands*, Ireland*, Belgium, Denmark*, Poland, Austria, Australia*, Czech Republic, Slovenia, Finland, Latvia*
489	Poland	Netherlands*, Ireland*, Belgium, Denmark*, United Kingdom*, Austria, Australia*, Czech Republic, Slovenia, Finland, Latvia*
487	Austria	Netherlands*, Ireland*, Belgium, Denmark*, United Kingdom*, Poland, Australia*, Czech Republic, Slovenia, Finland, Latvia*, Sweden
487	Australia*	Netherlands*, Ireland*, Belgium, Denmark*, United Kingdom*, Poland, Austria, Czech Republic, Slovenia, Finland, Latvia*, Sweden
487	Czech Republic	Netherlands*, Ireland*, Belgium, Denmark*, United Kingdom*, Poland, Austria, Australia*, Slovenia, Finland, Latvia*, Sweden
485	Slovenia	Belgium, United Kingdom*, Poland, Austria, Australia*, Czech Republic, Finland, Latvia*, Sweden
484	Finland	Belgium, Denmark*, United Kingdom*, Poland, Austria, Australia*, Czech Republic, Slovenia, Latvia*, Sweden, New Zealand*
483	Latvia*	United Kingdom*, Poland, Austria, Australia*, Czech Republic, Slovenia, Finland, Sweden, New Zealand*
482	Sweden	Austria, Australia*, Czech Republic, Slovenia, Finland, Latvia*, New Zealand*, Germany
479	New Zealand*	Finland, Latvia*, Sweden, Lithuania, Germany, France
475	Lithuania	New Zealand*, Germany, France, Spain, Hungary, Portugal, Italy, Viet Nam
475	Germany	Sweden, New Zealand*, Lithuania, France, Spain, Hungary, Portugal, Italy, Viet Nam, Norway
474	France	New Zealand*, Lithuania, Germany, Spain, Hungary, Portugal, Italy, Viet Nam, Norway, United States*
473	Spain	Lithuania, Germany, France, Hungary, Portugal, Italy, Viet Nam, Norway, United States*
473	Hungary	Lithuania, Germany, France, Spain, Portugal, Italy, Viet Nam, Norway, United States*
472	Portugal	Lithuania, Germany, France, Spain, Hungary, Italy, Viet Nam, Norway, United States*
471	Italy	Lithuania, Germany, France, Spain, Hungary, Portugal, Viet Nam, Norway, Malta, United States*, Slovak Republic
469	Viet Nam	Lithuania, Germany, France, Spain, Hungary, Portugal, Italy, Norway, Malta, United States*, Slovak Republic, Croatia
468	Norway	Germany, France, Spain, Hungary, Portugal, Italy, Viet Nam, Malta, United States*, Slovak Republic, Croatia
466	Malta	Italy, Viet Nam, Norway, United States*, Slovak Republic, Croatia
465	United States*	France, Spain, Hungary, Portugal, Italy, Viet Nam, Norway, Malta, Slovak Republic, Croatia, Iceland, Israel
464	Slovak Republic	Italy, Viet Nam, Norway, Malta, United States*, Croatia, Iceland, Israel
463	Croatia	Viet Nam, Norway, Malta, United States*, Slovak Republic, Iceland, Israel
459	Iceland	United States*, Slovak Republic, Croatia, Israel
458	Israel	United States*, Slovak Republic, Croatia, Iceland, Türkiye
453	Türkiye	Israel
442	Brunei Darussalam	Ukrainian regions (18 of 27), Serbia
441	Ukrainian regions (18 of 27)	Brunei Darussalam, Serbia
440	Serbia	Brunei Darussalam, Ukrainian regions (18 of 27)
431	United Arab Emirates	Greece, Romania
430	Greece	United Arab Emirates, Romania, Kazakhstan, Mongolia
428	Romania	United Arab Emirates, Greece, Kazakhstan, Mongolia
425	Kazakhstan	Greece, Romania, Mongolia
425	Mongolia	Greece, Romania, Kazakhstan, Bulgaria
418	Cyprus	Bulgaria, Moldova
417	Bulgaria	Mongolia, Cyprus, Moldova, Qatar, Chile
414	Moldova	Cyprus, Bulgaria, Qatar, Chile, Uruguay, Malaysia
414	Qatar	Bulgaria, Moldova, Chile
412	Chile	Bulgaria, Moldova, Qatar, Uruguay, Malaysia
409	Uruguay	Moldova, Chile, Malaysia, Montenegro
409	Malaysia	Moldova, Chile, Uruguay, Montenegro
406	Montenegro	Uruguay, Malaysia
397	Baku (Azerbaijan)	Mexico, Thailand, Peru
395	Mexico	Baku (Azerbaijan), Thailand, Peru, Georgia
394	Thailand	Baku (Azerbaijan), Mexico, Peru, Georgia, Saudi Arabia, North Macedonia
391	Peru	Baku (Azerbaijan), Mexico, Thailand, Georgia, Saudi Arabia, North Macedonia
390	Georgia	Mexico, Thailand, Peru, Saudi Arabia, North Macedonia, Costa Rica, Colombia
389	Saudi Arabia	Thailand, Peru, Georgia, North Macedonia, Costa Rica, Colombia
389	North Macedonia	Thailand, Peru, Georgia, Saudi Arabia, Costa Rica, Colombia
385	Costa Rica	Georgia, Saudi Arabia, North Macedonia, Colombia, Jamaica*
383	Colombia	Georgia, Saudi Arabia, North Macedonia, Costa Rica, Brazil, Argentina, Jamaica*
379	Brazil	Colombia, Argentina, Jamaica*
378	Argentina	Colombia, Brazil, Jamaica*
377	Jamaica*	Costa Rica, Colombia, Brazil, Argentina
368	Albania	Palestinian Authority, Indonesia, Morocco, Uzbekistan
366	Palestinian Authority	Albania, Indonesia, Morocco, Uzbekistan, Jordan
366	Indonesia	Albania, Palestinian Authority, Morocco, Uzbekistan, Jordan
365	Morocco	Albania, Palestinian Authority, Indonesia, Uzbekistan, Jordan, Panama*
364	Uzbekistan	Albania, Palestinian Authority, Indonesia, Morocco, Jordan
361	Jordan	Palestinian Authority, Indonesia, Morocco, Uzbekistan, Panama*
357	Panama*	Morocco, Jordan, Kosovo, Philippines
355	Kosovo	Panama*, Philippines
355	Philippines	Panama*, Kosovo
344	Guatemala	El Salvador, Dominican Republic
343	El Salvador	Guatemala, Dominican Republic
339	Dominican Republic	Guatemala, El Salvador, Paraguay, Cambodia
338	Paraguay	Dominican Republic, Cambodia
336	Cambodia	Dominican Republic, Paraguay

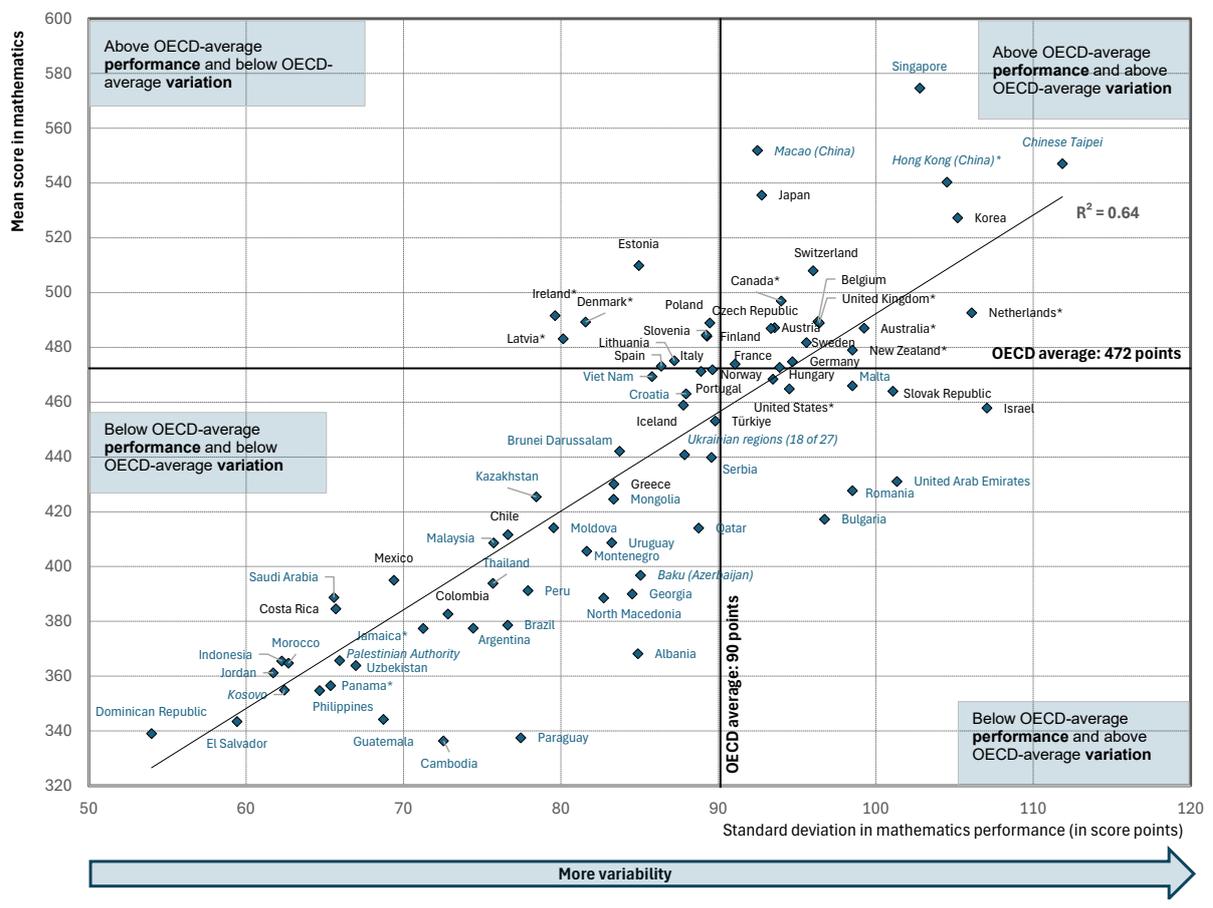
Table I.B1.2.1

Mean score and variation in mathematics performance

	Mean score		Standard deviation		Percentiles											
					10th		25th		Median (50th)		75th		90th		Difference (90th - 10th)	
	Mean score	S.E.	S.D.	S.E.	Score	S.E.	Score	S.E.	Score	S.E.	Score	S.E.	Score	S.E.	Score dif.	S.E.
OECD																
Australia*	487	(1.8)	99	(1.0)	358	(2.0)	416	(2.1)	485	(2.0)	556	(2.7)	619	(3.3)	261	(3.4)
Austria	487	(2.3)	94	(1.2)	362	(3.7)	420	(3.6)	489	(2.7)	554	(2.7)	608	(2.7)	246	(4.1)
Belgium	489	(2.2)	96	(1.1)	359	(3.0)	420	(3.0)	492	(3.0)	559	(2.9)	614	(2.7)	254	(3.6)
Canada*	497	(1.6)	94	(0.8)	375	(2.3)	430	(1.7)	496	(1.8)	562	(2.2)	619	(2.2)	244	(2.7)
Chile	412	(2.1)	77	(1.1)	315	(2.9)	358	(2.5)	409	(2.6)	464	(2.4)	514	(2.8)	198	(3.3)
Colombia	383	(3.0)	73	(1.5)	293	(3.1)	332	(3.2)	378	(3.5)	429	(3.7)	481	(4.4)	187	(4.2)
Costa Rica	385	(1.9)	66	(1.4)	302	(2.3)	339	(2.1)	382	(2.2)	427	(2.5)	470	(3.1)	168	(3.4)
Czech Republic	487	(2.1)	93	(1.2)	365	(2.7)	418	(3.0)	486	(2.8)	553	(2.7)	610	(2.9)	245	(3.8)
Denmark*	489	(1.9)	82	(1.1)	383	(2.5)	433	(2.4)	489	(2.5)	545	(2.5)	595	(3.0)	213	(3.5)
Estonia	510	(2.0)	85	(1.1)	401	(2.5)	450	(2.5)	509	(2.4)	569	(2.5)	620	(3.0)	219	(3.1)
Finland	484	(1.9)	89	(0.9)	366	(2.5)	420	(2.2)	486	(2.3)	547	(2.4)	600	(2.7)	234	(3.1)
France	474	(2.5)	91	(1.1)	353	(3.0)	408	(3.3)	475	(2.9)	539	(3.1)	593	(3.1)	239	(3.6)
Germany	475	(3.1)	95	(1.3)	351	(4.2)	407	(3.9)	474	(3.8)	541	(3.4)	599	(3.7)	248	(4.5)
Greece	430	(2.3)	83	(1.3)	326	(3.0)	370	(2.8)	426	(2.7)	487	(2.6)	542	(3.2)	216	(3.5)
Hungary	473	(2.5)	94	(1.7)	348	(3.2)	406	(3.3)	474	(3.3)	538	(3.4)	595	(4.2)	247	(5.1)
Iceland	459	(1.6)	88	(1.2)	344	(2.9)	396	(2.5)	458	(2.2)	520	(2.6)	574	(3.3)	230	(4.2)
Ireland*	492	(2.0)	80	(0.9)	387	(2.8)	437	(2.9)	493	(2.3)	547	(2.1)	594	(2.7)	207	(3.2)
Israel	458	(3.3)	107	(1.9)	317	(4.3)	380	(3.9)	458	(4.1)	534	(3.8)	597	(4.6)	280	(5.9)
Italy	471	(3.1)	89	(1.6)	357	(3.0)	408	(3.0)	469	(3.5)	533	(4.4)	589	(5.1)	232	(5.1)
Japan	536	(2.9)	93	(1.9)	410	(4.9)	473	(4.2)	540	(3.2)	601	(3.3)	652	(4.3)	243	(6.1)
Korea	527	(3.9)	105	(2.6)	388	(6.4)	456	(5.1)	531	(4.3)	600	(4.2)	660	(5.0)	272	(7.7)
Latvia*	483	(2.0)	80	(1.2)	381	(3.4)	428	(2.5)	481	(2.4)	537	(2.6)	587	(3.0)	207	(4.0)
Lithuania	475	(1.8)	87	(1.3)	364	(2.9)	413	(2.4)	473	(2.3)	535	(2.5)	591	(3.0)	227	(4.0)
Mexico	395	(2.3)	69	(1.4)	310	(2.8)	347	(2.3)	391	(2.6)	440	(2.9)	487	(3.8)	178	(4.2)
Netherlands*	493	(3.8)	106	(2.1)	348	(5.7)	411	(6.6)	497	(4.9)	574	(3.4)	630	(2.8)	282	(5.8)
New Zealand*	479	(2.0)	99	(1.4)	350	(3.2)	408	(3.2)	478	(2.7)	547	(2.9)	609	(3.7)	258	(5.0)
Norway	468	(2.1)	93	(0.9)	345	(2.6)	401	(2.5)	469	(2.8)	535	(2.6)	589	(2.6)	244	(3.2)
Poland	489	(2.3)	89	(1.4)	370	(3.1)	426	(3.2)	490	(2.9)	552	(2.6)	604	(3.1)	234	(4.2)
Portugal	472	(2.4)	90	(1.5)	356	(4.1)	408	(3.0)	471	(2.8)	536	(2.7)	589	(2.2)	233	(4.3)
Slovak Republic	464	(2.9)	101	(1.8)	327	(5.2)	392	(4.4)	468	(3.6)	536	(3.0)	591	(3.6)	263	(5.9)
Slovenia	485	(1.2)	89	(1.0)	369	(2.7)	421	(1.9)	482	(1.9)	546	(2.3)	604	(2.6)	234	(3.7)
Spain	473	(1.5)	86	(0.8)	359	(2.2)	414	(1.9)	474	(1.8)	533	(1.6)	584	(1.8)	225	(2.5)
Sweden	482	(2.1)	96	(1.1)	356	(2.9)	413	(2.9)	483	(2.7)	550	(2.8)	607	(2.8)	251	(3.6)
Switzerland	508	(2.1)	96	(1.2)	379	(3.0)	439	(3.1)	509	(2.8)	578	(2.6)	632	(2.7)	253	(3.8)
Türkiye	453	(1.6)	90	(1.0)	341	(2.3)	387	(2.4)	447	(2.4)	515	(2.2)	576	(2.6)	236	(3.4)
United Kingdom*	489	(2.2)	96	(1.3)	363	(3.1)	422	(2.8)	489	(2.7)	555	(2.9)	614	(4.1)	251	(4.7)
United States*	465	(4.0)	95	(1.8)	345	(4.0)	396	(4.2)	462	(4.7)	531	(4.5)	590	(5.9)	246	(5.6)
OECD average	472	(0.4)	90	(0.2)	355	(0.6)	408	(0.5)	472	(0.5)	535	(0.5)	590	(0.6)	235	(0.7)
Partners																
Albania	368	(2.1)	85	(1.3)	266	(2.5)	308	(2.2)	361	(2.6)	423	(2.9)	481	(3.5)	216	(3.8)
Argentina	378	(2.3)	74	(1.1)	287	(2.8)	325	(2.3)	372	(2.5)	425	(2.8)	477	(3.3)	190	(3.5)
Baku (Azerbaijan)	397	(2.4)	85	(1.1)	290	(2.5)	336	(2.7)	393	(2.7)	455	(3.0)	511	(3.6)	221	(3.4)
Brazil	379	(1.6)	77	(1.2)	288	(1.6)	325	(1.2)	370	(1.7)	425	(2.4)	482	(3.1)	194	(3.2)
Brunei Darussalam	442	(0.9)	84	(0.7)	337	(2.0)	383	(1.2)	437	(1.5)	499	(1.6)	556	(2.3)	219	(3.3)
Bulgaria	417	(3.3)	97	(2.1)	298	(3.5)	346	(3.2)	411	(3.8)	483	(4.9)	549	(6.5)	251	(6.8)
Cambodia	336	(2.7)	73	(1.6)	244	(3.1)	288	(3.0)	336	(2.7)	383	(3.4)	428	(4.5)	184	(4.6)
Croatia	463	(2.4)	88	(1.4)	352	(3.2)	400	(2.9)	459	(2.9)	524	(3.5)	582	(3.7)	230	(4.5)
Cyprus	418	(1.2)	101	(0.9)	294	(2.0)	343	(1.9)	411	(1.8)	487	(2.1)	556	(2.8)	262	(3.3)
Dominican Republic	339	(1.6)	54	(1.3)	273	(2.1)	302	(1.8)	335	(1.5)	373	(2.3)	410	(2.9)	137	(3.3)
El Salvador	343	(2.0)	59	(1.1)	272	(2.3)	303	(1.9)	338	(2.0)	380	(2.7)	423	(3.9)	151	(3.9)
Georgia	390	(2.4)	85	(2.2)	288	(2.7)	330	(2.1)	383	(2.2)	444	(3.2)	502	(4.9)	214	(5.3)
Guatemala	344	(2.2)	69	(1.7)	256	(3.1)	299	(2.4)	343	(2.1)	389	(2.5)	432	(4.3)	176	(5.0)
Hong Kong (China)*	540	(3.0)	105	(1.7)	398	(5.2)	469	(4.4)	545	(3.2)	614	(3.0)	672	(4.1)	274	(5.7)
Indonesia	366	(2.4)	62	(1.3)	290	(2.4)	323	(2.1)	361	(2.5)	404	(3.3)	448	(3.8)	158	(3.6)
Jamaica*	377	(3.1)	71	(1.4)	291	(2.8)	326	(3.1)	371	(3.6)	423	(4.9)	475	(5.0)	185	(4.9)
Jordan	361	(2.0)	62	(1.0)	284	(2.0)	318	(2.1)	358	(2.2)	402	(2.7)	442	(3.1)	158	(3.2)
Kazakhstan	425	(1.7)	78	(1.0)	329	(1.9)	371	(1.8)	421	(1.9)	477	(2.1)	529	(2.6)	201	(2.7)
Kosovo	355	(1.0)	62	(0.7)	280	(1.7)	311	(1.4)	349	(1.3)	394	(1.8)	438	(2.6)	159	(2.8)
Macao (China)	552	(1.1)	92	(1.0)	429	(2.7)	489	(2.1)	554	(1.8)	616	(1.8)	670	(2.6)	241	(3.7)
Malaysia	409	(2.4)	76	(2.4)	317	(2.3)	355	(2.1)	403	(2.4)	456	(3.0)	509	(5.1)	193	(5.4)
Malta	466	(1.6)	99	(1.4)	333	(3.4)	395	(2.9)	469	(2.2)	537	(2.5)	592	(3.7)	259	(5.3)
Moldova	414	(2.3)	80	(1.3)	317	(2.5)	359	(1.9)	408	(2.4)	465	(3.4)	521	(4.3)	205	(4.1)
Mongolia	425	(2.6)	83	(1.6)	323	(2.9)	366	(2.2)	418	(2.5)	479	(3.3)	537	(4.5)	214	(4.6)
Montenegro	406	(1.1)	82	(0.9)	306	(1.7)	346	(1.7)	399	(1.8)	460	(2.1)	517	(2.4)	211	(3.1)
Morocco	365	(3.4)	63	(2.1)	289	(2.6)	321	(2.6)	359	(3.3)	404	(4.2)	449	(6.3)	160	(5.9)
North Macedonia	389	(0.9)	83	(0.9)	287	(1.9)	329	(1.4)	382	(1.7)	444	(1.8)	500	(2.2)	213	(3.0)
Palestinian Authority	366	(1.8)	66	(1.1)	285	(2.2)	319	(1.9)	361	(2.0)	408	(2.5)	452	(3.1)	167	(3.1)
Panama*	357	(2.8)	65	(2.1)	278	(2.5)	311	(2.4)	351	(2.8)	396	(3.8)	443	(6.7)	165	(6.6)
Paraguay	338	(2.2)	77	(1.1)	241	(2.9)	283	(2.6)	335	(2.8)	389	(2.8)	439	(3.4)	199	(3.9)
Peru	391	(2.3)	78	(1.2)	295	(2.6)	335	(2.3)	386	(2.6)	442	(2.9)	497	(3.6)	201	(3.6)
Philippines	355	(2.6)	65	(1.8)	279	(2.2)	308	(2.1)	347	(2.7)	395	(3.5)	443	(4.8)	164	(4.8)
Qatar	414	(1.1)	89	(1.0)	307	(2.0)	350	(1.6)	405	(1.7)	469	(2.0)	536	(2.7)	229	(3.5)
Romania	428	(4.0)	99	(2.0)	303	(3.8)	356	(4.1)	424	(4.9)	495	(5.6)	559	(6.1)	257	(6.3)
Saudi Arabia	389	(1.8)	66	(1.0)	308	(2.1)	343	(2.0)	385	(1.9)	431	(2.3)	474	(2.8)	166	(3.0)
Serbia	440	(3.0)	90	(2.7)	329	(3.6)	377	(2.7)	436	(2.9)	499	(3.6)	558	(5.8)	229	(6.4)
Singapore	575	(1.2)	103	(0.9)	433	(2.8)	505	(2.3)	582	(1.7)	649	(2.0)	702	(2.3)	268	(3.6)
Chinese Taipei	547	(3.8)	112	(2.3)	393	(5.1)	470	(4.6)	554	(4.5)	628	(4.5)	687	(5.5)	294	(6.8)
Thailand	394	(2.7)	76	(2.0)	306	(2.3)	342	(2.2)	385	(2.4)	437	(3.9)	495	(6.5)	189	(6.2)
Ukrainian regions (18 of 27)	441	(4.1)	88	(2.1)	329	(5.4)	378	(5.2)	438	(4.8)	501	(4.7)	557	(5.3)	228	(6.4)
United Arab Emirates	431	(0.9)	101	(0.6)	306	(1.5)	356	(1.4)	423	(1.3)	500	(1.6)	570	(1.4)	264	(1.7)
Uruguay	409	(2.0)	83	(1.3)	303	(2.6)	349	(2.7)	405	(2.7)	466	(2.7)	520	(3.2)	217	(3.8)
Uzbekistan	364	(2.0)	67	(1.0)	283	(2.2)	318	(1.9)	360	(2.1)	406	(2.8)	453	(3.6)	170	(3.3)
Viet Nam	469	(3.9)	86	(2.3)	360	(5.5)	412	(4.3)	469	(4.0)	527	(4.6)	580	(4.8)	220	(6.2)

As shown in Figure I.2.3, there is a strong correlation between average performance in mathematics and variation in performance in mathematics. However, among countries that performed above the OECD average, Ireland*, Latvia* and Denmark* stand out for their relatively small variation in performance (standard deviation around 80 score points) (Figure I.2.3).

Figure I.2.3
Average performance in mathematics and variation in performance

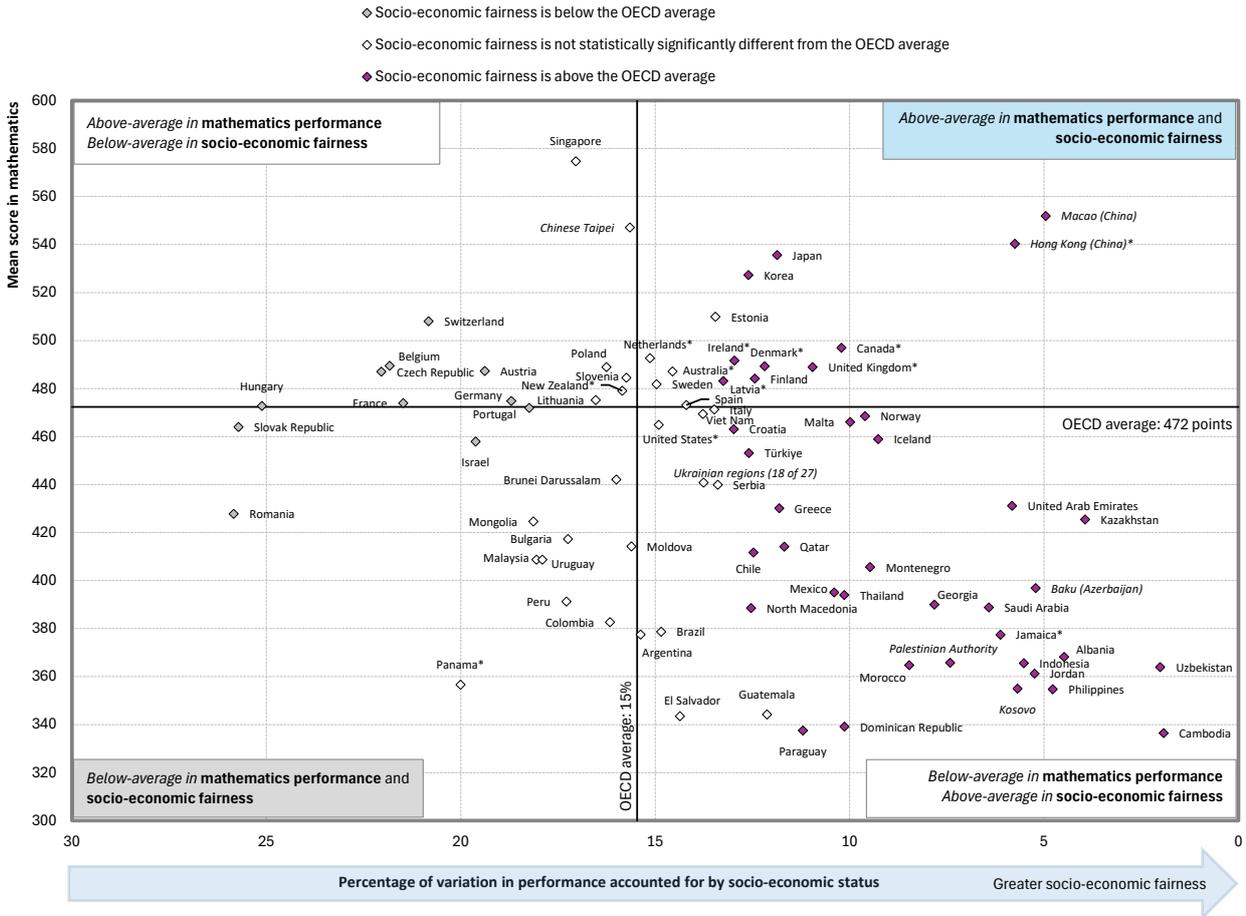


Source: OECD, PISA 2022 Database, Table I.B1.2.1.

As shown in Figure I.4.2, countries and economies with higher levels of fairness by socio-economic status are not often those with strong student performance.

Mean performance in mathematics varies greatly among education systems with a high level of socio-economic fairness in student performance. Out of the 40 countries and economies where the strength of the relationship between performance and socio-economic status is weaker than the OECD average, 10 show a mean performance in mathematics that is higher than the OECD average of 472 points (Macao [China], Hong Kong [China]*, Japan, Korea, Canada*, Ireland*, Denmark*, the United Kingdom*, Finland, and Latvia*, in descending order of their mean score in mathematics) (Figure I.4.2).

Figure I.4.2
Strength of socio-economic gradient and mathematics performance



Notes: Only countries and economies with available data are shown.
Socio-economic status is measured by the PISA index of economic, social and cultural status.
Source: OECD, PISA 2022 Database, Tables I.B1.2.1 and I.B1.4.3.

Another measure of variation in performance within countries is the score gap that separates the highest- and lowest-performing students within a country (i.e. inter-decile range). In mathematics, the difference between the 90th percentile of performance (the score above which only 10% of students scored) and the 10th percentile of performance (the score below which only 10% of students scored) is more than 135 score points in all countries and economies; on average across OECD countries, 235 score points separate these extremes (Figure I.2.4).

The largest differences between top-performing and low-achieving students in mathematics are found in Israel, the Netherlands* and Chinese Taipei (Figure I.2.4). In these countries, the inter-decile range is 280 score points or more, which means that student performance in mathematics is highly unequal across 15-year-olds.

Figure I.2.4
Mean score in mathematics at 10th, 50th and 90th percentile of performance distribution

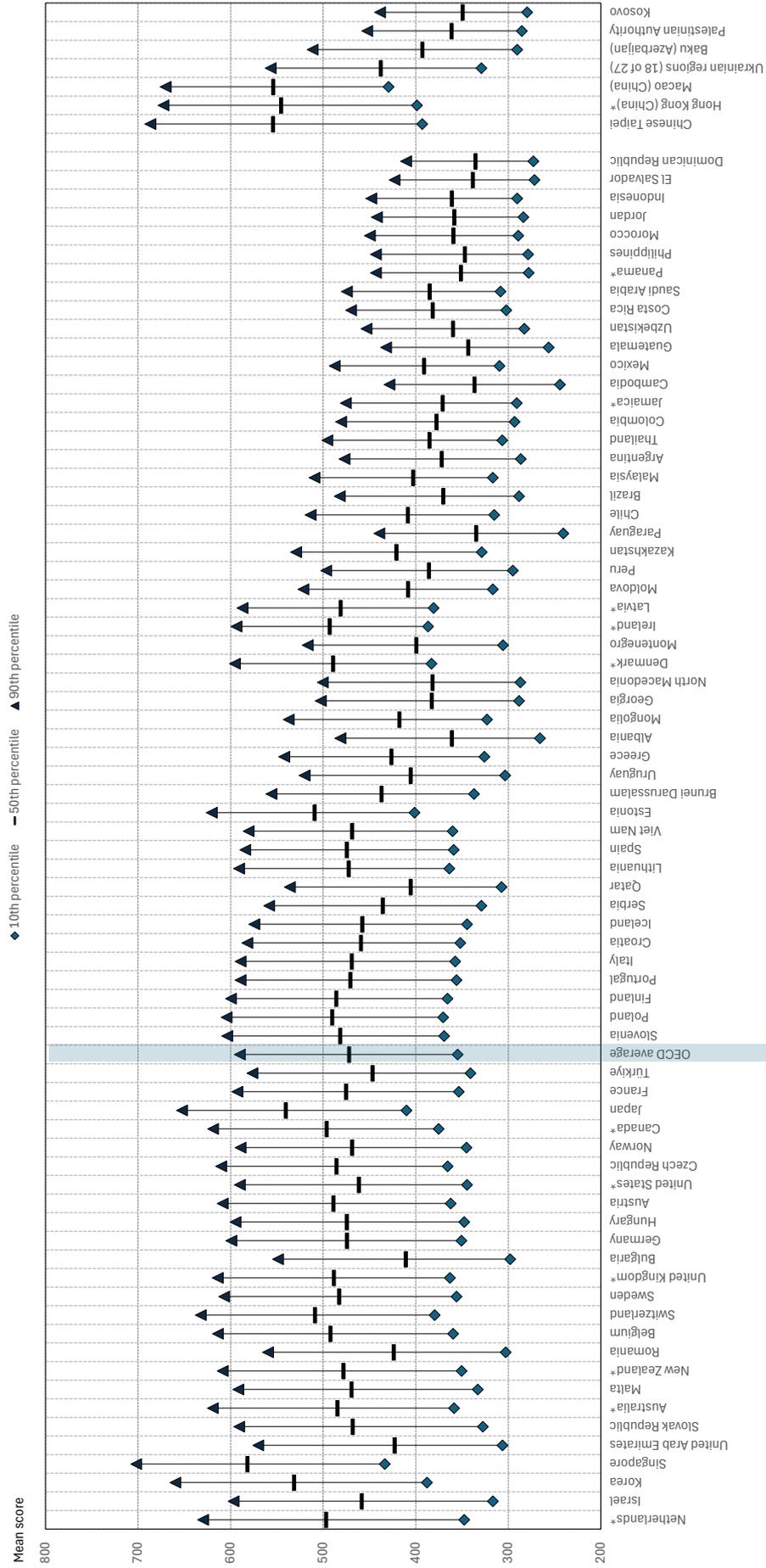


Table I.B1.3.1

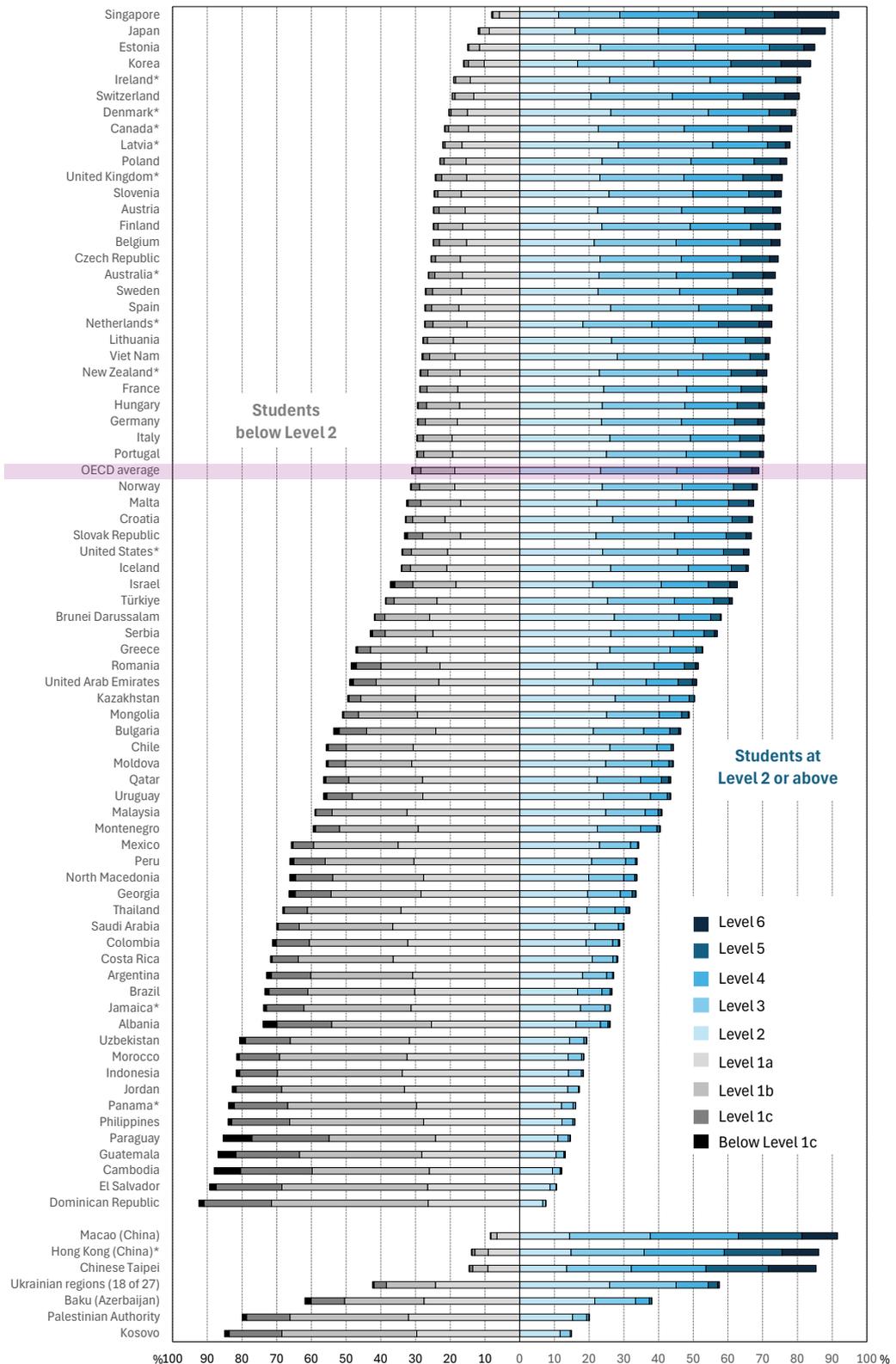
Percentage of students at each proficiency level in mathematics

	All students																	
	Below Level 1c (below 233.17 score points)		Level 1c (from 233.17 to less than 295.47 score points)		Level 1b (from 295.47 to less than 357.77 score points)		Level 1a (from 357.77 to less than 420.07 score points)		Level 2 (from 420.07 to less than 482.38 score points)		Level 3 (from 482.38 to less than 544.68 score points)		Level 4 (from 544.68 to less than 606.99 score points)		Level 5 (from 606.99 to less than 669.30 score points)		Level 6 (above 669.30 score points)	
	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.
OECD																		
Australia*	0.2	(0.1)	1.7	(0.2)	7.9	(0.4)	16.5	(0.5)	22.8	(0.6)	22.3	(0.7)	16.2	(0.5)	8.8	(0.4)	3.5	(0.3)
Austria	0.1	(0.1)	1.5	(0.3)	7.5	(0.5)	15.7	(0.7)	22.5	(0.7)	24.2	(0.7)	18.1	(0.7)	8.1	(0.5)	2.2	(0.2)
Belgium	0.1	(0.1)	1.7	(0.2)	7.8	(0.5)	15.3	(0.6)	21.5	(0.7)	23.5	(0.8)	18.6	(0.7)	8.9	(0.5)	2.6	(0.2)
Canada*	0.1	(0.0)	1.0	(0.1)	5.7	(0.3)	14.7	(0.4)	22.7	(0.5)	24.8	(0.5)	18.5	(0.5)	9.1	(0.4)	3.3	(0.2)
Chile	0.5	(0.2)	5.2	(0.6)	19.3	(0.9)	30.7	(0.8)	26.0	(0.8)	13.5	(0.6)	4.1	(0.4)	0.6	(0.1)	0.0	(0.0)
Colombia	1.1	(0.3)	9.6	(0.8)	28.4	(1.4)	32.3	(1.0)	19.1	(1.0)	7.7	(0.6)	1.7	(0.3)	0.3	(0.1)	0.0	(0.0)
Costa Rica	0.5	(0.1)	7.6	(0.6)	27.3	(1.0)	36.5	(1.1)	20.9	(0.9)	6.0	(0.5)	1.1	(0.2)	0.2	(0.1)	0.0	(0.0)
Czech Republic	0.1	(0.1)	1.2	(0.2)	7.1	(0.5)	17.1	(0.7)	23.2	(0.7)	23.4	(0.8)	17.3	(0.7)	8.1	(0.5)	2.5	(0.3)
Denmark*	0.0	(0.0)	0.6	(0.2)	4.7	(0.4)	15.1	(0.7)	26.3	(0.9)	28.1	(0.8)	17.5	(0.8)	6.5	(0.5)	1.3	(0.2)
Estonia	0.0	(0.0)	0.3	(0.1)	3.0	(0.3)	11.6	(0.6)	23.3	(0.8)	27.3	(1.0)	21.3	(0.9)	9.9	(0.6)	3.2	(0.3)
Finland	0.1	(0.0)	1.2	(0.2)	7.1	(0.4)	16.4	(0.6)	23.7	(0.7)	25.5	(0.7)	17.4	(0.6)	7.0	(0.5)	1.5	(0.2)
France	0.2	(0.1)	1.9	(0.2)	8.9	(0.6)	17.8	(0.7)	24.2	(0.7)	23.9	(0.7)	15.7	(0.7)	6.2	(0.5)	1.1	(0.2)
Germany	0.2	(0.1)	2.2	(0.4)	9.2	(0.7)	18.0	(0.8)	23.6	(0.9)	23.0	(0.9)	15.3	(0.8)	6.7	(0.5)	1.9	(0.2)
Greece	0.5	(0.2)	3.8	(0.4)	16.2	(0.8)	26.8	(0.8)	26.0	(0.8)	17.3	(0.7)	7.5	(0.5)	1.8	(0.3)	0.1	(0.1)
Hungary	0.2	(0.1)	2.4	(0.3)	9.6	(0.6)	17.3	(0.9)	23.8	(0.9)	23.8	(0.9)	15.1	(0.7)	6.3	(0.5)	1.6	(0.3)
Iceland	0.2	(0.1)	2.4	(0.4)	10.5	(0.7)	21.0	(0.8)	26.2	(0.8)	22.4	(0.8)	12.4	(0.8)	4.2	(0.5)	0.7	(0.2)
Ireland*	0.0	(0.0)	0.5	(0.1)	4.2	(0.4)	14.2	(0.7)	25.9	(0.8)	29.0	(0.9)	18.8	(0.7)	6.2	(0.5)	1.0	(0.2)
Israel	1.2	(0.2)	5.2	(0.5)	12.4	(0.7)	18.4	(0.8)	21.1	(0.8)	19.7	(0.8)	13.6	(0.8)	6.2	(0.5)	2.2	(0.4)
Italy	0.2	(0.1)	1.6	(0.3)	8.3	(0.6)	19.5	(0.9)	26.0	(0.9)	23.2	(0.8)	14.2	(0.9)	5.7	(0.6)	1.2	(0.2)
Japan	0.0	(0.0)	0.4	(0.1)	2.7	(0.4)	8.8	(0.7)	16.0	(0.8)	24.0	(0.9)	25.1	(1.0)	16.2	(0.8)	6.8	(0.7)
Korea	0.3	(0.1)	1.2	(0.3)	4.5	(0.6)	10.2	(0.8)	16.7	(0.8)	22.0	(0.9)	22.2	(1.0)	14.4	(0.9)	8.5	(0.8)
Latvia*	0.0	(0.0)	0.6	(0.1)	4.8	(0.5)	16.7	(0.7)	28.4	(0.9)	27.2	(0.9)	15.8	(0.8)	5.2	(0.4)	1.2	(0.2)
Lithuania	0.1	(0.1)	1.1	(0.2)	7.5	(0.6)	19.1	(0.8)	26.5	(0.7)	24.0	(0.8)	14.5	(0.6)	5.8	(0.5)	1.4	(0.2)
Mexico	0.6	(0.2)	5.8	(0.6)	24.3	(1.0)	35.1	(1.1)	23.0	(0.9)	9.0	(0.7)	2.0	(0.3)	0.2	(0.1)	0.0	(0.0)
Netherlands*	0.2	(0.1)	2.2	(0.4)	9.8	(1.0)	15.2	(0.9)	18.2	(0.8)	19.8	(1.0)	19.2	(0.9)	11.7	(0.7)	3.7	(0.4)
New Zealand*	0.2	(0.1)	2.1	(0.3)	9.3	(0.6)	17.2	(0.8)	22.9	(0.7)	22.6	(0.8)	15.4	(0.7)	7.4	(0.6)	2.9	(0.3)
Norway	0.3	(0.1)	2.4	(0.3)	10.1	(0.5)	18.7	(0.7)	23.8	(0.7)	23.0	(0.8)	14.9	(0.6)	5.5	(0.4)	1.4	(0.2)
Poland	0.1	(0.1)	1.1	(0.2)	6.4	(0.5)	15.4	(0.8)	23.8	(0.9)	25.6	(0.9)	18.2	(0.7)	7.5	(0.5)	1.9	(0.3)
Portugal	0.2	(0.1)	1.9	(0.4)	8.3	(0.6)	19.3	(0.7)	25.0	(0.8)	23.0	(0.8)	15.6	(0.7)	5.5	(0.4)	1.1	(0.2)
Slovak Republic	0.9	(0.2)	4.4	(0.5)	10.9	(0.8)	17.1	(0.9)	22.0	(1.0)	22.6	(0.8)	14.9	(0.7)	5.7	(0.4)	1.6	(0.2)
Slovenia	0.1	(0.0)	1.0	(0.2)	6.7	(0.6)	16.9	(0.7)	25.7	(0.9)	24.2	(0.9)	16.1	(0.7)	7.5	(0.4)	1.9	(0.3)
Spain	0.2	(0.1)	1.7	(0.2)	7.8	(0.4)	17.6	(0.5)	26.2	(0.5)	25.4	(0.5)	15.2	(0.4)	5.0	(0.3)	0.9	(0.1)
Sweden	0.2	(0.1)	1.9	(0.2)	8.3	(0.5)	16.8	(0.6)	22.6	(0.7)	23.5	(0.8)	16.7	(0.8)	7.8	(0.5)	2.1	(0.3)
Switzerland	0.0	(0.0)	0.8	(0.1)	5.4	(0.4)	13.2	(0.7)	20.5	(0.7)	23.5	(0.8)	20.4	(0.8)	11.9	(0.7)	4.2	(0.4)
Türkiye	0.1	(0.1)	2.3	(0.2)	12.3	(0.6)	23.9	(0.7)	25.3	(0.7)	19.2	(0.7)	11.3	(0.6)	4.6	(0.4)	0.9	(0.2)
United Kingdom*	0.2	(0.1)	1.7	(0.3)	7.2	(0.5)	15.3	(0.7)	23.1	(0.7)	24.2	(0.8)	17.1	(0.7)	8.2	(0.6)	3.1	(0.4)
United States*	0.2	(0.1)	2.5	(0.4)	10.4	(0.8)	20.8	(1.0)	23.9	(0.8)	21.5	(0.9)	13.3	(0.8)	5.7	(0.7)	1.6	(0.3)
OECD average	0.3	(0.0)	2.3	(0.1)	9.8	(0.1)	18.7	(0.1)	23.3	(0.1)	22.0	(0.1)	14.9	(0.1)	6.7	(0.1)	2.0	(0.0)
Partners																		
Albania	4.0	(0.4)	15.7	(0.7)	28.8	(0.9)	25.4	(0.7)	16.2	(0.7)	7.1	(0.4)	2.1	(0.3)	0.6	(0.2)	0.1	(0.1)
Argentina	1.4	(0.3)	11.3	(0.8)	29.4	(1.0)	30.8	(0.8)	18.1	(0.8)	6.9	(0.5)	1.7	(0.2)	0.3	(0.1)	0.0	(0.0)
Baku (Azerbaijan)	1.8	(0.2)	9.7	(0.6)	22.9	(0.7)	27.6	(0.8)	21.7	(0.8)	11.7	(0.6)	3.9	(0.4)	0.7	(0.2)	0.1	(0.0)
Brazil	1.2	(0.2)	11.2	(0.5)	30.7	(0.8)	30.3	(0.7)	16.7	(0.6)	7.0	(0.4)	2.4	(0.3)	0.5	(0.1)	0.1	(0.0)
Brunei Darussalam	0.2	(0.1)	2.8	(0.3)	12.9	(0.5)	26.0	(0.7)	27.3	(0.6)	18.6	(0.6)	9.2	(0.5)	2.8	(0.3)	0.3	(0.1)
Bulgaria	1.6	(0.3)	7.9	(0.6)	20.0	(0.9)	24.2	(0.9)	21.2	(0.9)	14.5	(0.8)	7.5	(0.7)	2.5	(0.4)	0.6	(0.2)
Cambodia	7.6	(0.6)	20.6	(1.0)	33.7	(1.0)	26.1	(1.1)	9.5	(0.9)	2.2	(0.5)	0.3	(0.2)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)
Croatia	0.2	(0.1)	1.9	(0.3)	9.3	(0.6)	21.5	(0.8)	26.8	(0.8)	21.7	(0.9)	12.7	(0.7)	4.9	(0.5)	1.0	(0.2)
Cyprus	1.7	(0.3)	8.6	(0.4)	20.2	(0.6)	22.7	(0.7)	20.5	(0.7)	14.5	(0.5)	8.0	(0.5)	3.1	(0.3)	0.8	(0.1)
Dominican Republic	1.5	(0.3)	19.5	(1.0)	45.1	(1.4)	26.4	(1.0)	6.7	(0.6)	0.8	(0.2)	0.1	(0.1)	0.0	c	0.0	c
El Salvador	1.9	(0.3)	19.0	(0.9)	42.0	(1.1)	26.5	(1.0)	8.8	(0.7)	1.7	(0.3)	0.2	(0.1)	0.0	c	0.0	c
Georgia	1.8	(0.2)	10.3	(0.7)	25.9	(0.9)	28.4	(0.8)	19.6	(0.7)	9.4	(0.5)	3.4	(0.4)	1.0	(0.3)	0.2	(0.1)
Guatemala	5.1	(0.6)	18.3	(1.0)	35.2	(1.2)	28.2	(1.0)	10.5	(0.8)	2.3	(0.5)	0.3	(0.2)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)
Hong Kong (China)*	0.1	(0.0)	0.9	(0.2)	3.8	(0.4)	9.1	(0.6)	14.8	(0.8)	21.0	(0.8)	23.1	(0.9)	16.7	(0.7)	10.6	(0.8)
Indonesia	1.0	(0.2)	10.9	(0.8)	36.0	(1.2)	33.8	(1.2)	14.1	(0.9)	3.8	(0.5)	0.5	(0.1)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)
Jamaica*	0.9	(0.2)	10.7	(0.9)	30.9	(1.5)	31.3	(1.3)	17.5	(1.2)	7.1	(0.7)	1.4	(0.3)	0.1	(0.1)	0.0	c
Jordan	1.2	(0.2)	13.0	(0.8)	35.4	(1.1)	33.2	(1.0)	13.9	(0.9)	3.0	(0.4)	0.3	(0.1)	0.0	(0.0)	0.0	c
Kazakhstan	0.4	(0.1)	3.4	(0.3)	15.7	(0.5)	30.1	(0.6)	27.5	(0.7)	15.6	(0.5)	5.7	(0.3)	1.4	(0.2)	0.2	(0.1)
Kosovo	1.4	(0.3)	15.1	(0.7)	38.9	(0.9)	29.6	(0.9)	11.7	(0.6)	2.9	(0.3)	0.3	(0.1)	0.0	(0.0)	0.0	c
Macao (China)	0.0	(0.0)	0.2	(0.1)	1.7	(0.3)	6.5	(0.5)	14.4	(0.7)	23.2	(0.8)	25.4	(1.1)	18.4	(0.8)	10.2	(0.5)
Malaysia	0.2	(0.1)	4.7	(0.4)	21.6	(0.9)	32.5	(0.9)	24.8	(0.9)	11.4	(0.6)	3.7	(0.4)	0.9	(0.3)	0.2	(0.2)
Malta	0.5	(0.2)	3.6	(0.4)	11.4	(0.7)	17.0	(0.8)	22.3	(1.1)	22.7	(0.9)	15.2	(1.0)	5.7	(0.6)	1.5	(0.2)
Moldova	0.5	(0.2)	5.0	(0.4)	19.1	(0.8)	31.1	(0.9)	24.8	(0.7)	13.3	(0.8)	4.9	(0.5)	1.1	(0.2)	0.1	(0.1)
Mongolia	0.4	(0.1)	4.2	(0.4)	17.0	(0.7)	29.5	(0.8)	25.1	(0.7)	15.1	(0.7)	6.4	(0.5)	1.9	(0.4)	0.3	(0.1)
Montenegro	0.7	(0.1)	6.9	(0.4)	22.6	(0.8)	29.3	(0.8)	22.4	(0.8)	12.5	(0.5)	4.7	(0.3)	0.9	(0.1)	0.1	(0.1)
Morocco	0.7	(0.2)	11.7	(0.9)	36.7	(1.6)	32.5	(1.2)	14.0	(1.1)	3.9	(0.7)	0.6	(0.3)	0.0	(0.0)	0.0	c
North Macedonia	1.7	(0.3)	10.6	(0.5)	26.2	(0.8)	27.7	(0.8)	19.9	(0.6)	10.1	(0.4)	3.1	(0.3)	0.6	(0.1)	0.1	(0.0)
Palestinian Authority	1.3	(0.2)	12.4	(0.7)	34.1	(0.9)	32.1	(0.9)	15.2	(0.7)	4.1	(0.4)	0.7	(0.2)	0.1	(0.0)	0.0	(0.0)
Panama*	1.6	(0.3)	15.4	(0.9)	37.1	(1.3)	29.7	(1.3)	12.1	(1.0)	3.3	(0.7)	0.7	(0.3)	0.0	(0.0)	0.0	c
Paraguay	8.3	(0.7)	22.2	(0.9)	30.7	(1.0)	24.3	(1.0)	11.0	(0.7)	3.0	(0.4)	0.6	(0.2)	0.0	(0.0)	0.0	c
Peru	1.1	(0.3)	9.0	(0.6)	25.6	(0.9)	30.5	(0.7)	20.8	(0.8)	9.7	(0.6)	2.8	(0.3)	0.5	(0.1)	0.0	(0.0)
Philippines	1.1	(0.2)	16.7	(1.0)	38.6	(1.3)	27.7	(0.9)	12.2	(0.9)	3.2	(0.4)	0.5	(0.2)	0.1	(0.1)	0.0	c
Qatar	0.6	(0.2)	6.6	(0.5)	21.2	(0.6)	28.0	(1.0)	22.3	(0.7)	12.5	(0.6)	6.0	(0.4)	2.1	(0.2)	0.6	(0.1)
Romania	1.5	(0.3)	7.0	(0.6)	17.1	(1.0)	22.9	(1.0)	22.3	(0.9)	16.4	(0.9)	8.7	(0.7)	3.2	(0.5)	0.8	(0.2)
Saudi Arabia	0.4	(0.1)	6.1	(0.4)	26.9	(0.8)	36.6	(0.9)	21.7	(0.8)	6.7	(0.5)	1.3	(0				

In PISA 2022, the mathematics scale is divided into eight proficiency levels¹. Figure I.3.1 shows how students are distributed across the eight levels of mathematics proficiency. In PISA, proficiency Level 2 is considered the baseline level of proficiency students need to participate fully in society.

Some educational systems have few low performers in mathematics. In six countries and economies, 15% or less of students performed below Level 2 in mathematics (Estonia, Chinese Taipei, Hong Kong [China]*, Japan, Macao [China] and Singapore, in descending order of the percentage of low performers). This means that these systems are close to achieving universal basic proficiency in mathematics.

Figure I.3.1
Students' proficiency in mathematics



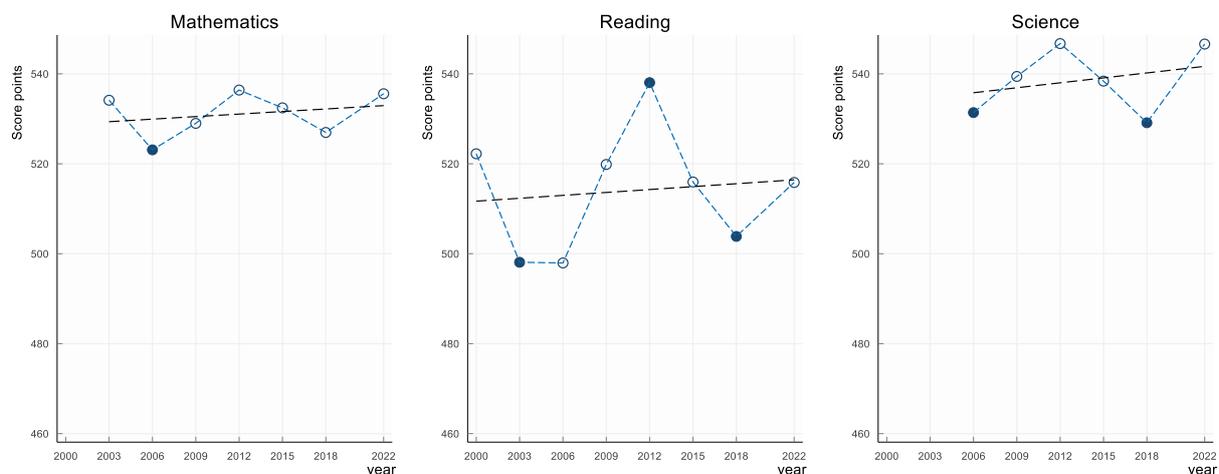
Japan

The Programme for International Student Assessment (PISA) assesses the knowledge and skills of 15-year-old students in mathematics, reading and science. The tests explore how well students can solve complex problems, think critically and communicate effectively. This gives insights into how well education systems are preparing students for real life challenges and future success. Japan participated for the first time in PISA in 2000. By comparing results internationally, policy makers and educators in Japan can learn from other countries' policies and practices.

How well did 15-year-old students in Japan do on the test?

Trends in mathematics, reading and science performance

Figure 1. Trends in performance in mathematics, reading and science



Note: White dots indicate mean-performance estimates that are not statistically significantly above/below PISA 2022 estimates. Black lines indicate the best-fitting trend. An interactive version of this figure is available at <https://oecdch.art/a40de1dbaf/C202>.
Source: OECD, PISA 2022 Database, Tables I.B1.5.4, I.B1.5.5 and I.B1.5.6.

- Average 2022 results were about the same as in 2018 in mathematics, and up compared to 2018 in reading and science.
- When considering all results observed in PISA over more than two decades, results fluctuated somewhat (in particular, in reading), with no clear direction. PISA 2022 results are among the highest ever measured by PISA in mathematics and science.
- Over the most recent period (2018 to 2022), the gap between the highest-scoring students (10% with the highest scores) and the weakest students (10% with the lowest scores) widened in

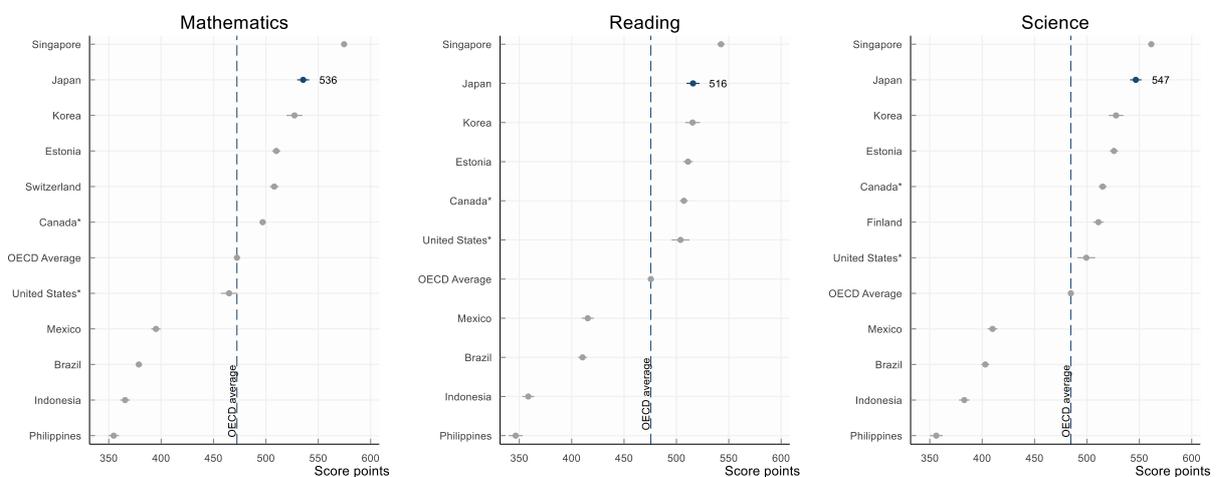
mathematics, while it did not change significantly in reading and science. In mathematics, high-achievers became stronger, while performance did not change significantly amongst low-achievers.

- Compared to 2012 the proportion of students scoring below a baseline level of proficiency (Level 2) did not change significantly in mathematics; increased by three percentage points in reading; and did not change significantly in science.

How does Japan compare?

Figure 2. Mean performance in mathematics, reading and science in PISA 2022

Japan, OECD average and selected comparison countries



Notes: Comparison countries include the six highest-performing countries in each subject and the five countries with the largest population of 15-year-old students.

Horizontal lines that extend beyond the markers represent a measure of uncertainty associated with mean estimates (the 95% confidence interval).

Source: OECD, PISA 2022 Database, Tables I.B1.2.1, I.B1.2.2 and I.B1.2.3.

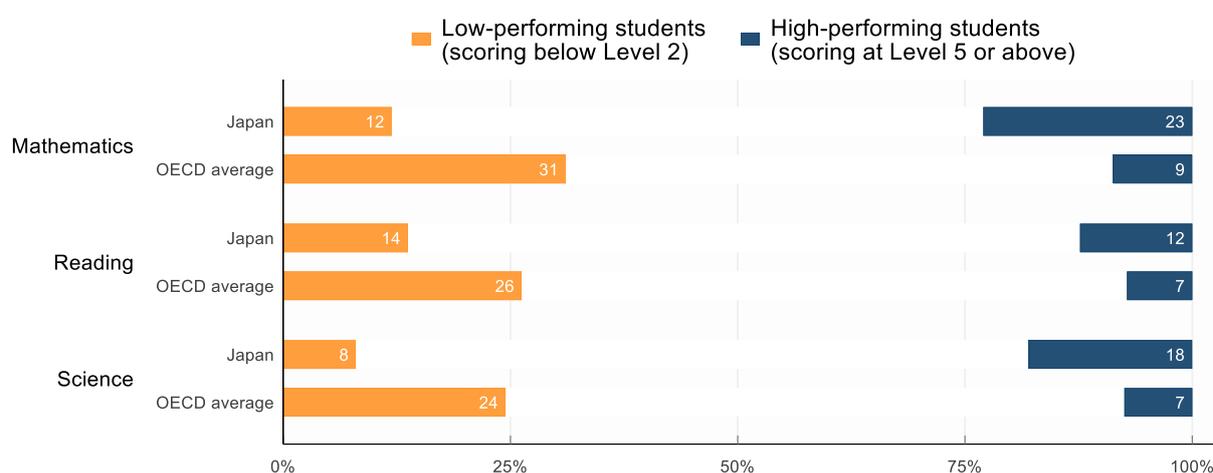
- Students in Japan scored higher than the OECD average in mathematics, reading and science.
- More students in Japan, than on average across OECD countries, were top performers (Level 5 or 6) in at least one subject. At the same time a larger proportion of students than on average across OECD countries achieved a minimum level of proficiency (Level 2 or higher) in all three subjects.

What students know and can do in mathematics

- In Japan, 88% of students attained at least Level 2 proficiency in mathematics, significantly more than on average across OECD countries (OECD average: 69%). At a minimum, these students can interpret and recognize, without direct instructions, how a simple situation can be represented mathematically (e.g. comparing the total distance across two alternative routes, or converting prices into a different currency).
- Some 23% of students in Japan were top performers in mathematics, meaning that they attained Level 5 or 6 in the PISA mathematics test (OECD average: 9%). Six Asian countries and economies had the largest shares of students who did so: Singapore (41%), Chinese Taipei (32%), Macao (China) (29%), Hong Kong (China)* (27%), Japan (23%) and Korea (23%). At these levels,

students can model complex situations mathematically, and can select, compare and evaluate appropriate problem-solving strategies for dealing with them. Only in 16 out of 81 countries and economies participating in PISA 2022 did more than 10% of students attain Level 5 or 6 proficiency.

Figure 3. Top performers and low-performing students in mathematics, reading and science



Note: Numbers inside the figure correspond to percentages.

Source: OECD, PISA 2022 Database, Tables I.B1.3.1, I.B1.3.2 and I.B1.3.3.

What students know and can do in reading

- Some 86% of students in Japan attained Level 2 or higher in reading (OECD average: 74%). At a minimum, these students can identify the main idea in a text of moderate length, find information based on explicit, though sometimes complex criteria, and can reflect on the purpose and form of texts when explicitly directed to do so. The share of 15-year-old students who attained minimum levels of proficiency in reading (Level 2 or higher) varied from 89% in Singapore to 8% in Cambodia.
- In Japan, 12% of students scored at Level 5 or higher in reading (OECD average: 7%). These students can comprehend lengthy texts, deal with concepts that are abstract or counterintuitive, and establish distinctions between fact and opinion, based on implicit cues pertaining to the content or source of the information.

What students know and can do in science

- Some 92% of students in Japan attained Level 2 or higher in science (OECD average: 76%). At a minimum, these students can recognize the correct explanation for familiar scientific phenomena and can use such knowledge to identify, in simple cases, whether a conclusion is valid based on the data provided.
- In Japan, 18% of students were top performers in science, meaning that they were proficient at Level 5 or 6 (OECD average: 7%). These students can creatively and autonomously apply their knowledge of and about science to a wide variety of situations, including unfamiliar ones.

A special edition of PISA

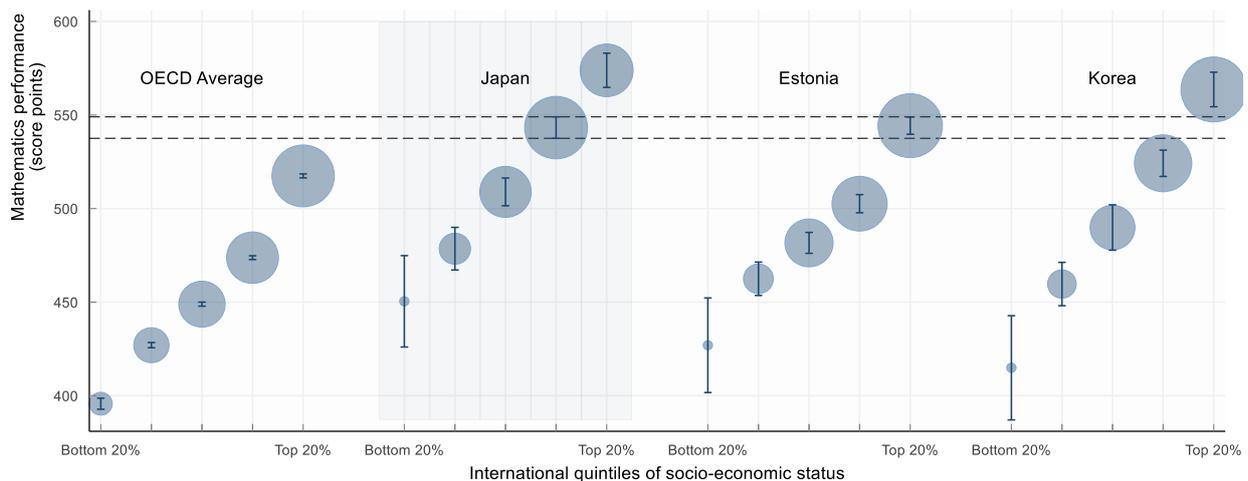
This PISA test was originally due to be conducted in 2021 but was delayed by one year because of the COVID-19 pandemic. The exceptional circumstances throughout this period, including lockdowns and school closures in many countries, led to occasional difficulties in collecting some data. While the vast majority of countries and economies met PISA's technical standards, a small number did not. A country or economy in this note with an asterisk (*) next to its name means that caution is required when interpreting estimates because one or more PISA sampling standards were not reached. Further information can be found in the Reader's Guide and in Annexes A2 and A4 of the main report.

In Japan, all data met the quality standards set by PISA and were considered fit for reporting.

Performance gaps within Japan

Socio-economic divides

Figure 4. Mean performance in mathematics, by international quintiles of socio-economic status



Note: The size of markers is proportional to the share of the student population within each quintile of socio-economic status (as determined by the PISA index of economic, social and cultural status, ESCS). Quintiles are defined at the international level, to include 20% of PISA participants in each quintile; within each national sample, the proportion can therefore differ from 20%.

Vertical bars that extend beyond the markers represent a measure of uncertainty associated with each estimate (the 95% confidence interval). Horizontal, dashed lines represent the uncertainty associated with the mean score of the largest group of students (as defined by international quintiles) within Japan.

Source: OECD, PISA 2022 Database, Tables I.B1.4.6 and I.B1.4.8.

- The PISA index of economic, social and cultural status is computed in such a way that all students taking the PISA test, regardless of the country where they live, can be placed on the same socio-economic scale. This means that it is possible to use this index to compare the performance of students of similar socio-economic background in different countries. In Japan, 38% of students (the largest share) were in the 4th international quintile of the socio-economic scale, meaning that they were neither among the most disadvantaged, nor among the most advantaged students who

took the PISA test in 2022. Their average score in mathematics was 543 score points; one of the highest for students of similar socio-economic background.

- The PISA index of economic, social and cultural status can also be used to order students from the most disadvantaged to the most advantaged within each country and economy, and to create four groups of students of equal size (each comprising 25% of the population of 15-year-old students in each country/economy). In Japan socio-economically advantaged students (the top 25% in terms of socio-economic status) outperformed disadvantaged students (the bottom 25%) by 81 score points in mathematics. This is similar to the average difference between the two groups (93 score points) across OECD countries.
- Between 2012 and 2022, the gap in mathematics performance between the top and the bottom 25% of students in terms of socio-economic status remained stable in Japan, as well as across OECD countries on average.
- Socio-economic status was a predictor of performance in mathematics in all PISA participating countries and economies. It accounted for 12% of the variation in mathematics performance in PISA 2022 in Japan (compared to 15% on average across OECD countries).
- Some 12% of disadvantaged students in Japan were able to score in the top quarter of mathematics performance. These students can be considered academically resilient because, despite their socio-economic disadvantage, they have attained educational excellence by comparison with students in their own country. On average across OECD countries, 10% of disadvantaged students scored in the top quarter of mathematics performance in their own countries.

Gender differences in performance

- Boys outperformed girls in mathematics by 9 score points; girls outperformed boys in reading by 17 score points in Japan. Globally, in mathematics, boys outperformed girls in 40 countries and economies, girls outperformed boys in another 17 countries or economies, and no significant difference was found in the remaining 24. In reading, girls, on average, scored above boys in all but two countries and economies that participated in PISA 2022 (79 out of 81).
- In Japan, the share of low performers is similar among boys (13%) and girls (11%) in mathematics; in reading, however, the share is larger among boys (11% of girls and 17% of boys scored below Level 2 in reading). When it comes to top performers, the share is larger among boys (27%) than among girls (19%) in mathematics; in reading, however, the share is similar among girls (13% of girls and 12% of boys scored at Level 5 or 6 in reading).
- Between 2012 and 2022, performance in mathematics remained stable both among boys and girls in Japan.

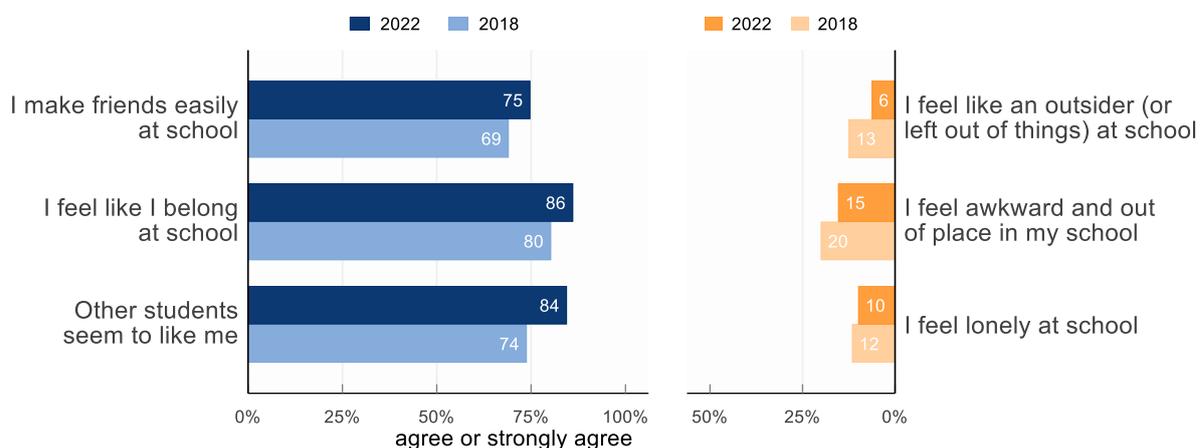
How is school life in Japan?

Students' sense of belonging at school and satisfaction with life

- In 2022, 75% of students in Japan reported that they make friends easily at school (OECD average: 76%) and 86% felt that they belong at school (OECD average: 75%). Meanwhile, 10% reported feeling lonely at school, and 6% like an outsider or left out of things at school (OECD average: 16% and 17%). Compared to 2018, students' sense of belonging at school improved in Japan.
- Students' satisfaction with life, more generally, declined in many countries and economies over recent years. In 2022, 18% of students in Japan reported that they were not satisfied with their lives: they rated their satisfaction with life between 0 and 4 on a scale ranging from 0 to 10. In 2018,

more students were not satisfied with life (25%). On average across OECD countries, the proportion of students who are not satisfied with life increased from 11% in 2015 to 16% in 2018 and 18% in 2022.

Figure 5. Students' sense of belonging at school



Note: Numbers inside the figure correspond to percentages.

Source: OECD, PISA 2022 Database, Table II.B1.1.4.

Support and discipline in mathematics lessons

- In Japan, 74% of students reported that, in most mathematics lessons, the teacher shows an interest in every student's learning (OECD average: 63%), and 84% that the teacher gives extra help when students need it (OECD average: 70%). In 2012, the corresponding shares were 66% and 75%. Mathematics results in 2022 tended to decline less, on average, in education systems where more students reported that teachers give extra help when students need it, compared to ten years earlier.
- Some students study mathematics in a disciplinary climate that is not favourable to learning: in 2022, about 12% of students in Japan reported that they cannot work well in most or all lessons (OECD average: 23%); 6% of students do not listen to what the teacher says (OECD average: 30%); 5% of students get distracted using digital devices (OECD average: 30%); and 4% get distracted by other students who are using digital devices (OECD average: 25%). On average across OECD countries, students were less likely to report getting distracted using digital devices when the use of cell phones on school premises is banned.

Feeling safe at and around school

- PISA 2022 data show that in education systems where performance remained high and students' sense of belonging improved, students tended to feel safer and less exposed to bullying and other risks at their school.
- Some 10% of girls and 17% of boys reported being the victim of bullying acts at least a few times a month (OECD average: 20% of girls and 21% of boys). On average across OECD countries, fewer students were exposed to bullying in 2022 compared to 2018: for example, only 7% of students reported that other students spread nasty rumours about them in 2022, compared to 11% in 2018. In Japan, too, the corresponding proportions shrank (3% in 2022 compared to 5% in 2018).

Parental involvement in learning

- PISA data collected from school principals show that the percentage of parents who were involved in school and learning decreased substantially between 2018 and 2022 in many countries/economies. This was not the case in Japan. In 2022, 16% of students in Japan were in schools whose principal reported that during the previous academic year at least half of all families discussed their child's progress with a teacher on their own initiative (and 77% on the teacher's initiative). In 2018, the corresponding number was 10% (and 82%). Systems that had more positive trends in parental involvement between 2018 and 2022 (i.e. systems in which the share of parents who discussed their child's progress with a teacher on their own initiative shrank less) tended to show more stable or improved performance in mathematics.

Learning during COVID-related school closures

- In Japan, 16% of students reported that their school building was closed for more than three months due to COVID-19. On average across OECD countries, 51% of students experienced similarly long school closures. In education systems where performance remained high and students' sense of belonging improved, fewer students experienced longer school closures.
- During remote learning, 27% of students in Japan had problems at least once a week with understanding school assignments and 20% of students with finding someone who could help them with schoolwork (OECD averages: 34% and 24%). In education systems where performance remained high and students' sense of belonging improved, fewer students encountered problems during remote learning.
- Support for students' well-being was often limited when their schools were closed. In Japan, 28% of students reported that they were supported daily through live virtual classes on a video communication program. Only 28% of students reported that they were asked daily, by someone from the school, how they were feeling (OECD averages: 51% and 13%).
- If school buildings have to close again in the future, many students across the OECD feel confident about using digital technology for learning remotely but fewer students feel confident about taking responsibility for their own learning. Some 57% of students in Japan feel confident or very confident about using a video communication program and 34% of students feel confident or very confident about motivating themselves to do school work (OECD averages: 77% and 58%).

What else does PISA tell us?

Resources invested in education

- Expenditure on education is related to student performance only to a certain extent. Among the countries/economies whose cumulative expenditure per student, over all primary and secondary school years between the ages of 6 and 15, was under USD 75 000 (PPP) in 2019, higher expenditure on education was associated with higher scores in the PISA mathematics test. But this was not the case among countries/economies whose cumulative expenditure was greater than USD 75 000 (PPP). For this latter group of countries/economies, the ways in which financial resources are used seems to matter more for student performance than the level of investment in education. In Japan, the cumulative expenditure per student, over ten years of age between 6 and 15, was equivalent to about USD 101 400 (PPP).
- In about half of all countries/economies with comparable data, school principals in 2022 were more likely than their counterparts in 2018 to report a shortage of teaching staff. This was also the case in Japan. In 2022, 64% of students in Japan were in schools whose principal reported that the

school's capacity to provide instruction is hindered by a lack of teaching staff (and 43%, by inadequate or poorly qualified teaching staff). In 2018, the corresponding proportions were 53% and 40%. In most countries/economies, students attending schools whose principal reported shortages of teaching staff scored lower in mathematics than students in schools whose principal reported fewer or no shortages of teaching staff.

How students progress through schooling

- When they sat the PISA test in 2022, 100% of 15-year-old students in Japan were enrolled in 10th grade.
- In Japan, 100% reported that they had attended pre-primary education for one year or more (OECD average: 94%). On average across OECD countries, students who had attended pre-primary education for one year or more scored higher in mathematics at the age of 15 than students who never attended or who had attended for less than one year, even after accounting for socio-economic factors.

School autonomy

- In Japan, 23% of students attended a school where principals had the main responsibility for hiring teachers (OECD average: 60%), and 52% were enrolled in a school where teachers had the main responsibility for choosing which learning materials are used (OECD average: 76%). Many high-performing school systems tend to entrust principals and teachers with these responsibilities.

Key features of PISA 2022

The content

- The PISA 2022 survey focused on mathematics, with reading and science as minor areas and creative thinking as the innovative area of assessment; Japan did not participate in the assessment of creative thinking. PISA 2022 also included an assessment of young people's financial literacy, which was optional for countries and economies. Results for mathematics, reading and science are released on 5 December 2023 and results for creative thinking and financial literacy in 2024.

The students

- Some 690 000 students took the assessment in 2022, representing about 29 million 15-year-olds in the schools of the 81 participating countries and economies.
- In Japan, 5760 students, in 182 schools, completed the assessment in mathematics, reading or science, representing about 1021 400 15-year-old students (an estimated 92% of the total population of 15-year-olds).

The assessment

- Students took two hour-long tests, each devoted to one subject. Different students were given different test questions and different combinations of subjects (e.g. mathematics followed by reading, or science followed by mathematics, etc.). Test items were a mixture of multiple-choice questions and questions requiring students to construct their own responses.
- Students also answered a background questionnaire, which took about 35 minutes to complete. The questionnaire sought information about the students themselves, their attitudes, dispositions

and beliefs, their homes, and their school and learning experiences. School principals completed a questionnaire about school management, organisation, and the learning environment.

- Some countries/economies also distributed additional questionnaires, to students, parents and/or teachers, to elicit more information. The findings from these optional questionnaires are not covered by this note.

References

OECD (2023), PISA 2022 Results (Volume I): The State of Learning and Equity in Education, PISA, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/53f23881-en>

OECD (2023), PISA 2022 Results (Volume II): Learning During – and From – Disruption, PISA, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/a97db61c-en>

This work is published under the responsibility of the Secretary-General of the OECD. The opinions expressed and arguments employed herein do not necessarily reflect the official views of the Member countries of the OECD.

This document, as well as any data and map included herein, are without prejudice to the status of or sovereignty over any territory, to the delimitation of international frontiers and boundaries and to the name of any territory, city or area.

For more information about PISA 2022 visit www.oecd.org/pisa

Explore, compare and visualise more data and analysis using <http://gpseducation.oecd.org>.

Questions can be directed to the PISA team at the Directorate for Education and Skills: edu.pisa@oecd.org.

This note was written by Francesco Avvisati and Rodolfo Ilizaliturri, Directorate for Education and Skills.

This work is available under the Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 IGO (CC BY-NC-SA 3.0 IGO). For specific information regarding the scope and terms of the licence as well as possible commercial use of this work or the use of PISA data please consult Terms and Conditions on www.oecd.org.

全国学力・学習状況調査（悉皆調査）においてCBT・IRTを活用する意義

CBTを活用する意義

- ① 解答データを機械可読のビッグデータとして蓄積できる。
 - 現行では記述式問題の解答データはスキャンによりデータ化して処理しているが、CBT化により、初めから機械可読かつ軽量のデータとして収集できる。

② ICT端末上で出題・解答することで、多様な方法・環境での出題・解答が可能になる。

- マルチメディア（動画、音声等）や様々なツール（表計算機能等）の利用など、多様な方法での出題・解答が可能となり、児童生徒がICTを活用した授業で身に付けた力を、より多面的に測定できる。
- ICT端末やネットワークの活用により、学校において何らか配慮を要する児童生徒や不登校等の状況にある児童生徒への柔軟な対応を拡大できる。

③ 電子データにより問題・解答を配信・回収することで負担を軽減。

- 印刷、配送、回収に要する経費や環境負荷等を削減できる。
- 調査問題の徹重な保管などの学校の負担を軽減できる。
- 児童生徒数の増減への柔軟な対応が可能になる。
- 自動採点の導入が可能になり、より効率的な採点を実現できる。

項目反応理論（IRT）を活用する意義

- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
 - 複数の問題セットによる調査とIRTの導入による集計・分析により、調査を異なる日時に実施しても同じ条件での実施とみなすことが可能。
 - ネットワーク等のトラブルを回避するためにも、日程・時間帯の分散が必要。

② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。

- IRTを活用することで、異なる調査問題に解答した学校や児童生徒同士の結果を比較できるため、一度の調査で幅広く出題することが可能になり、得られるデータの幅が広がる。
- 教委・学校や児童生徒にもより細やかなフィードバックが可能。
 - ※ CBTを導入することで、複数の問題セットを児童生徒ごとに割り当てることも容易になる。

③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

- 問題を一部非公開とし、次年度以降も出題する設計により、各教育委員会・学校でも年度をまたいで児童生徒の学力を比較可能。

令和7年度全国学力・学習状況調査の実施について

1. 調査事項・日程

理科（小・中）は令和4年度以来の実施。

	調査事項	実施方式	日程
教科調査	(小) 国語・算数・理科 (中) 国語・数学	冊子による筆記方式	4/17 (木)
	(中) 理科	オンライン (MEXCBT)	4/14 (月) ~ 4/17 (木)
質問調査	(小) 児童質問 (生活習慣、学習環境等)	オンライン	4/18 (金) ~ 4/30 (水)
	(中) 生徒質問 (")	オンライン (MEXCBT)	4/14 (月) ~ 4/17 (木)
	学校質問 (指導方法、条件整備の状況等)	オンライン	4/1 (火) ~ 4/17 (木)
後日実施	理科 (中) ・児童生徒質問は、 学校外 (自宅、院内学級、教育支援センター等) でオンライン実施可		4/18 (金) ~ 4/30 (水) ※教科調査は集計外、質問調査は当日分と合わせて集計

小6・中3（計約200万人）を対象に実施。

2. 令和7年度調査のポイント

① CBT調査の導入（中学校理科）

- ◆ 動画など教科特性に合わせた多様な出題・解答方法
- ◆ 入出力支援装置やアクセシビリティ機能の活用や
拡大文字・ルビ振り問題の柔軟な利用
- ◆ 電子データでの問題配信・解答回収による負担軽減
- ◆ 自動採点の一部活用
- ◆ IRT分析の導入
 - ✓ 「分冊方式」の採用…出題や組合せの異なる複数の
問題セットを生徒に割り当て、幅広い内容で調査
 - ✓ 学力の経年変化も把握（2回目以降）
 - ✓ 解けなかった問題にも予測正答率を提供

② 生徒質問でのランダム方式の試行

- ◆ PISA（構成内マトリックスサンプリング法）類似の手法を
MEXCBTの機能を生かして試行
 - ✓ 同じカテゴリーの質問項目群から一部をランダムに質問
 - ✓ 生徒の回答負担を増やすことなく調査データを充実

③ 多様な生徒の状況把握

- ◆ 理科（中）・児童生徒質問は、学校外（自宅、院内学級、
教育支援センター等）でオンライン後日実施も可能
 - ✓ 支援を要する生徒（長期欠席、特別支援学級等）
の柔軟な参加を期待
 - ✓ 学校からの実績報告を踏まえ、実態を把握分析

サンプル問題例

問題 の概 要	ルーペを用いた異なる観察の方法の4つの動画を閲覧し、どの動画の方法で観察するのが適切かを選択する。
CBT で出題 する意 義	実際にルーペを使う様子を動画で見るので、生徒が実際にルーペを使用するときの観察、実験の技能が身に付いているかどうかを問うことができる。（紙では、ルーペの使い方が文字情報で示されるだけなので、ルーペを正しく使用する力を身に付けていないだけでも文字列を丸暗記しているだけで正解できてしまう。）



長期欠席児童生徒に係る報告事項（イメージ）

- 該当者の有無
- 欠席の主な理由
- 日頃学習している場所
- 調査に参加した場所

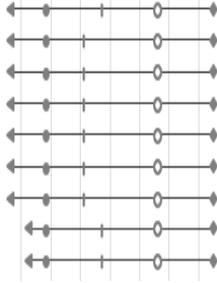
2. 令和7年度調査のポイント（続き）

④ 結果公表の内容・スケジュールの改善

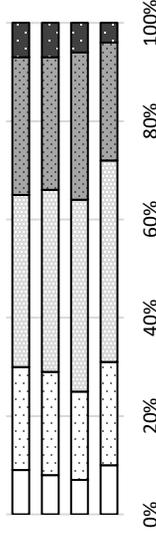
- ◆ 「平均正答率」一辺倒ではなく、「分布」を重視した分析、「分布」を重視した分析、質問調査と組合わせた分析など、成果や課題の多面的な把握が可能な都道府県・指定都市別データを充実して公表

- ✓ 分布や習熟度に見配りした統計表やグラフ

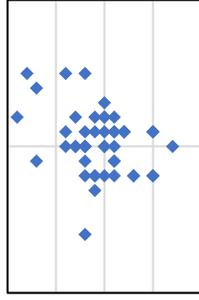
＜箱ひげ図＞



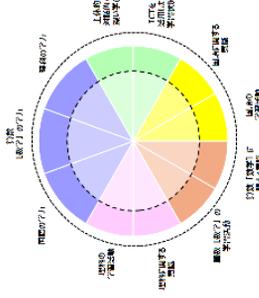
＜学力層・IRTバンドの分布＞



- ✓ 学力や質問調査結果の状況を示す散布図



- ✓ 都道府県・指定都市別結果チャート



- ◆ 現場の実態・要請を踏まえ、結果公表を3段階に

- ✓ 児童生徒の学びへの還元を最優先に、学校への結果返却時期を前倒し
- ✓ 各都道府県・指定都市の主体的な分析期間を確保した後に、都道府県・指定都市別結果を公表

※「全国学力・学習状況調査の調査結果の取扱いの改善の方向性（素案）」（令和7年3月17日）により関係団体に意見照会中の内容。5月中に有識者会議で最終報告を取りまとめ予定。

7/14	公表①（正答率・IRTバンド分布などの全国平均） 学校向け帳票・個人票提供
7月末	公表②（全国データに基づく分析結果）
8月以降	公表③（都道府県・指定都市別データ）



3. CBT固有の課題への対応

① ネットワーク・端末のトラブル

技術的にネットワークや端末のトラブルをゼロにするのは困難

対応策

- ◆ 問題中の動画・アニメーションのデータサイズを極力小さくした（100～800KB程度）
- ◆ トラブル時の対処方針を周知徹底
 - ✓ その日のうちに再度問題を開けば、続きから再開可能（端末を交換しての実施も可）
 - ✓ 実施当日のトラブル解消が困難な場合でも、後日、別の問題プログラムでやり直すことも可能
- ◆ 緊急連絡体制を構築
 - ✓ コールセンターによる個別サポート、実施日ごとの緊急連絡体制の設定

② 教師・生徒の操作の習熟不足

MEXCBT・学習eポータル固有の操作がある

対応策

- ◆ サンプル問題により、CBT問題の配信方法（教師）、解答形式・操作方法（生徒）を事前に体験（1～3月）、調査当日にも操作練習の時間を確保
- ◆ 分かりやすい説明資料・動画を作成し、各教育委員会・学校に提供済
- ◆ 初めて「マニュアル説明会」を実施するとともに、教委・学校から質問をWebフォームで受付



③ 調査期間中の問題拡散

問題が事前に知れると、正確な学力の分析、経年変化の把握が困難となるおそれ

対応策

- ◆ 「分冊方式」の中で、1日のみ出題する問題を用意
- ◆ 各教育委員会・学校への注意喚起に加え、拡散防止を生徒に指導する手順をマニュアルで標準化

4. 学校単位での実施状況

*各学校から提出された「調査終了報告」に基づき、4月18日（金）12時時点の情報で集計

参加学校数（4月8日（火）時点）：9,632校
 うち調査終了報告提出校数：9,110校（回収率94.6%） ※有効回答のみ

（参考）中学校理科の実施日別の参加校総数

4月14日（月）	4月15日（火）	4月16日（水）	4月17日（木）	後日実施等
2,367校	2,372校	2,317校	2,543校	33校

調査実施日に調査を実施、完了した学校数	調査実施日に調査が完了せず、後日実施等を検討している学校数		合計 （調査終了報告提出校数）
	CBT固有の事情により完了しなかった学校		
	ネットワーク・端末等の理由	実施準備面の理由	
9,033校 (99.15%)	19校 (0.21%)	26校 (0.29%)	32校 (0.35%)
			9,110校 (100%)

* 4月30日までに後日実施をした解答は、採点、結果返却が可能

CBT固有の事情により調査が完了しなかった学校

◆ ネットワーク・端末等の理由：19校

（例）学校ネットワークのサーバ故障／セキュリティソフトウェア等の意図しない影響で動画や画像が表示されない／一部の生徒について正しく表示されなかったため学校全体で実施を見送った

◆ 実施準備面の理由：26校

（例）事前の問題配信がうまくいかなかった／実施指定日誤認

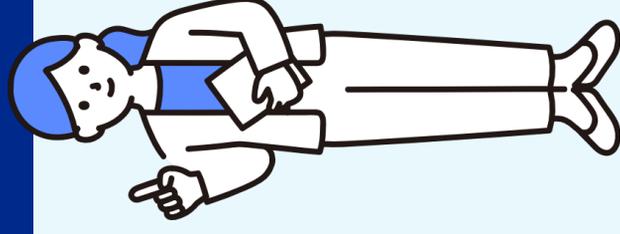
その他の理由により調査が完了しなかった学校

（例）遠足（旅行）／集団宿泊的行事（修学旅行等）／遠足以外の学校行事等／感染症等による影響（休校や学年閉鎖等）／対象児童生徒の体調不良、欠席等

令和7年度全国学力・学習状況調査 「中学校理科」結果返却のポイント

目次

- 1 IRTスコアをベースに示します
- 2 公開問題と非公開問題で提供データが異なります

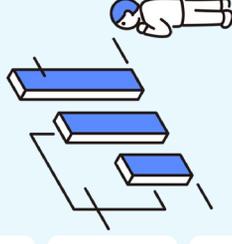


「中学校理科」 結果返却のポイント

(注) 「中学校理科」以外の結果返却・公表は、従前と同様の形で行います。

1 IRTスコアをベースに示します

- ✓ 教科調査の結果は、従前、正答数・正答率をベースに示してきましたが、令和7年度「中学校理科」はIRTに基づくスコア（IRTスコア）とバンドで示します。
- ✓ 従前と同様、問題ごとの分析結果や授業改善のメッセージを発信します。また、IRTスコアやバンドを活用した分析を行い、分析結果を示します。
- ✓ IRTスコアを踏まえた経年変化については、次回以降の教科調査（中学校理科）の結果と一緒にお知らせする方向で検討します。



2 公開問題と非公開問題で提供データが異なります

公開問題

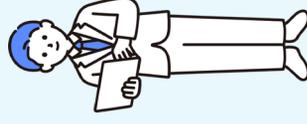
✓ 従前、教科調査の結果返却時に提供していたデータに相当するデータを提供します。一部問題でIRTスコアを活用した分析も行う予定です。

✓ 生徒は調査当日に全ての公開問題に解答するわけではありません。解答しなかった問題を含む全ての公開問題に学校の生徒がMEXCBT上で取り組める環境を用意します。

非公開問題

✓ 国や自治体等の状況を把握することを主目的として出題する問題です。非公開問題により、幅広い学力の測定や複数年度間の学力の把握が可能になります。

✓ 個々の問題の内容や正誤は返却できませんが、全体の解答状況から分かる児童生徒の学習状況を可能な限りフィードバックします。



1 IRTスコアをベースに示します

① IRTに基づく調査のイメージ-1

IRTとは

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。
項目反応理論(Item Response Theory)。

異なる問題からなるテストの結果や、異なる集団で得られたテストの結果を互いに比較することができる。
※PISA、TOEIC・TOEFL等の英語資格・検定試験、医療系大学間共用試験等で採用されている。



悉皆調査でIRTを導入するメリット

- ① **調査日の複数設定**が可能になる。各児童生徒が**異なる問題を解く**設計にできる。
- ② **今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査**が可能になる。
- ③ **学力の経年変化**を各教育委員会・学校でも把握できる。



<参考> 素点方式（正答数・正答率）、IRT方式の比較

※視力検査を例としたイメージ

本資料はイメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんと異なっている。

素点方式

何個のランドルト環（C）

を見ることができたか

0.1	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
0.2	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
0.3	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
0.4	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

5問/7問
(正答率71%)



Aさん



Bさん

IRT方式

どの大きさのランドルト環（C）

を安定的に見ることができたか

0.1	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
0.2	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
0.3	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
0.4	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

0.2



Aさん



Bさん

0.1	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
0.2	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
0.3	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
0.4	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

0.3



Bさん

※素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなる。IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなる。

代表的な実施方式の例・令和7年度調査の予定

令和7年度「中学校理科」は**分冊方式**で実施。

分冊
方式

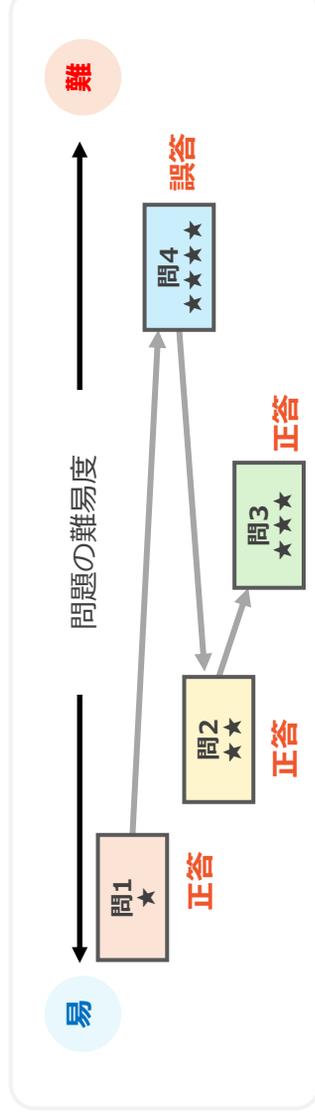
- 多数の小問群（ブロック）を複数の問題セットにあらかじめ割り付ける方式
- 調査が全て終了するまでは問題を公開できない

セットA	セットB	セットC	セットD	セットE	...
1	2	3	4	5	...
2	3	4	10	6	...
4	10	11	5	7	...
7	12	8	9	3	...

※ 表中の数字はブロックの番号を表している。

アダプティブ
方式

- 小問の正誤に応じて、次に出題する問題を変える方式

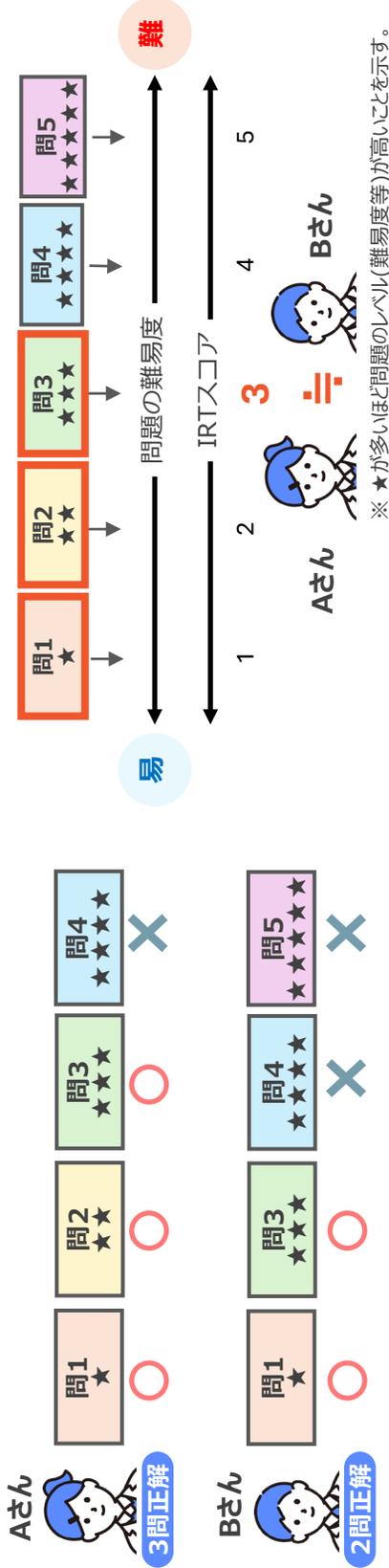


1 IRTスコアをベースに示します

① IRTに基づく調査のイメージ-2

個人の成績の表示方法

IRTに基づく調査では、各問題の難易度等を用いて、IRTの数式により受検者の能力値を推定する。能力値は、難易度の高い問題に正答しているが高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。IRTスコアは、推定された能力値を分かりやすく示すものである。



測定・把握できるもの

素点方式

焦点化された学力の測定

- 問題セットが1つのみであり、調査により広範な学力の測定には限界がある。
- 学力層A～Dも、「焦点化された学力」に基づいて児童生徒を25%ずつに区切ったもの。

当該学年の児童生徒間の学力の把握が可能

- 各年度の問題の難易度が厳密に調整されていない限り、他の年度の正答率・学力層A～Dと単純に比較することは適当ではない。

IRT方式

幅広い学力の測定

- 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。調査により従来より広い学力を測定できる。
- IRTバンドも、「幅広い学力」に基づいて算出したもの。

複数年度間の学力の把握が可能

- 他の年度のスコア・IRTバンドを経年比較可能な設計とすることも考えられる。

1 IRTスコアをベースに示します

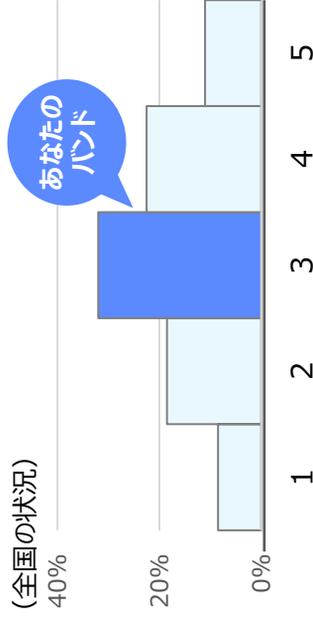
② 「中学校理科」の結果の表示(イメージ)

令和7年度中学校理科調査では、以下の形で結果を示す予定。

個人の結果

※IRTバンド5段階が示す意味については、問題の難易度等と関連付けて説明する方向。
(例) IRTバンド3の生徒は難易度★★★の問題を平均○○%の確率で正解する。

- 生徒の「中学校理科」結果を5段階のIRTバンドで表示。
(IRTバンドは1～5の5段階で、5が最も高い。)
- 学校(自治体)の全生徒の5段階のIRTバンドの分布を表示。

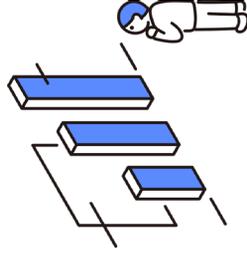


IRTバンド	人数
1	*人
2	*人
3	*人
4	*人
5	*人

学校・市町村・都道府県教育委員会の結果

- 学校(自治体)ごとの「中学校理科」結果を、令和7年度調査の平均スコアを500としたIRTスコアで表示。
- 2回目以降の調査では、学校・自治体の経年変化も示す。

生徒数	IRTスコア
貴校 *人	505
全国(公立) *人	500



R7	R10
500	507

(注) 実際の出題内容・解答状況によりバンド・スコア分布の傾向は変わる。

1 IRTスコアをベースに示します

3 IRTスコアを活用した分析(イメージ)

従前と同様、問題ごととの分析結果や授業改善のメッセージを発信します。
また、IRTスコアを活用した分析を行い、分析結果を示します。



例1

全国学力・学習状況調査の結果(概要)

- 問題作成、結果、分析・指導改善のポイント
- クロス集計(質問調査×教科調査)と分析

正答率をベースに行うが
一部でIRTスコアを活用した分析も行う予定

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)のコンセプト

1 調査の目的

2 教科に関する調査結果(国語)

3 教科に関する調査結果(算数)

4 教科に関する調査結果(理科)

5 教科に関する調査結果(社会)

6 教科に関する調査結果(外国語)

7 教科に関する調査結果(総合)

8 教科に関する調査結果(道徳)

9 教科に関する調査結果(生活)

10 教科に関する調査結果(芸術)

11 教科に関する調査結果(体育)

12 教科に関する調査結果(保健)

13 教科に関する調査結果(職業)

14 教科に関する調査結果(キャリア)

15 教科に関する調査結果(国際)

16 教科に関する調査結果(情報)

17 教科に関する調査結果(環境)

18 教科に関する調査結果(防災)

19 教科に関する調査結果(防災)

20 教科に関する調査結果(防災)

例2

全国学力・学習状況調査報告書

- 集計結果(解答状況等)
- 教科調査の各問題の分析結果と課題
- 指導改善のポイントと授業アイデア

一部の問題で
IRTスコアを活用した分析を行う予定

令和4年度
全国学力・学習状況調査
報告書
掲載
授業アイデア例

中学校 理科

文部科学省 国立教育政策研究所

1 調査の目的

2 調査結果

3 調査結果

4 調査結果

5 調査結果

6 調査結果

7 調査結果

8 調査結果

9 調査結果

10 調査結果

11 調査結果

12 調査結果

13 調査結果

14 調査結果

15 調査結果

16 調査結果

17 調査結果

18 調査結果

19 調査結果

20 調査結果

2 公開問題と非公開問題で提供データが異なります

① 提供データの違い

公開問題

(児童生徒一人一人の学習指導の改善を主目的として出題)

- 個人票では、個々の問題の内容や正誤等を返却します。
- 学校・市町村・都道府県教育委員会には、個々の問題の内容や正誤、解答類型等を返却します。

非公開問題

(国や自治体等の状況を把握することを主目的として出題)

- 個々の問題の内容や正誤、解答類型等は返却しません。
- しかし、非公開問題により、幅広い学力の測定や複数年度間の学力の把握が可能になります。非公開問題を含めた全体の解答状況から分かる児童生徒の学習状況を可能な限りフィードバックします。



個人票

- 公開問題の内容や正誤等を掲載(非公開問題については掲載なし)

1	(1)	(2)	正答率(%)	問題形式	評価の観点	無解答率(%)
	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	×	53.0	選択式	主体的に学習に取り組み得る態度	無解答
	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	○	90.0	記述式	思考・判断・表現	無解答

科目	正答率(%)	無解答率(%)
国語	85.1	0.0
数学	85.1	0.0
理科	85.1	0.0
社会	85.1	0.0
総合	85.1	0.0

- 公開問題の内容、正答率、無解答率等を掲載(非公開問題については掲載なし)

問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の観点	評価の観点	問題形式	正答率(%)	無解答率(%)
問題の概要	出題の趣旨	「持続性」を柱とする領域 「主体的に学習に取り組む態度」 「思考・判断・表現」 「課題設定」を柱とする領域 「基礎・技能」 「応用・実践」を柱とする領域 「学びの態度」を柱とする領域	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	選択式 記述式 選択式	85.1 85.5 85.1	0.0 0.0 0.0
理科の授業で学習した酸化還元について酸化還元反応により分解して生ずる場面において、分解してできた物質が成した酸が金属であることを選べることを確かめる方法を理解しているかどうかをみる。 身近にある商品の成分表を調べ、身の回りの商品成分表を利用して、化学変化に由来する知識を、学習期間におおむね1週間に関するものを印刷できるかどうかをみる。	酸化還元反応により分解して生ずる場面において、分解してできた物質が成した酸が金属であることを選べる方法を理解しているかどうかをみる。 成分表を見て、身の回りの商品成分表を利用して、化学変化に由来する知識を、学習期間におおむね1週間に関するものを印刷できるかどうかをみる。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	85.1 67.8 67.8	0.0 0.0 1.0

- 学校
- 市町村
- 都道府県教育委員会

2 公開問題と非公開問題で提供データが異なります

② 令和7年度調査におけるMEXCBTへの公開問題の掲載

(注) ここで示すのは令和7年度調査における対応です。その後の対応は、技術の進展や調査研究の進捗等を踏まえて検討します。

令和7年度調査「中学校理科」では、生徒は、調査当日に公開問題の一部に取り組みます。解答しなかった問題を含む全ての公開問題について、調査終了後、生徒がMEXCBT上で取り組める環境を用意します。

調査当日

- 生徒が解答する調査問題には非公開問題が含まれます。
- このため、問題、生徒が解答した内容ともに全て回収することとします。解答提出後に、生徒や教師が問題や解答内容を確認することはできません。

非公開問題を含むため
問題、解答ともに回収します。



5月以降

- 公開問題のみのセット（調査本番で生徒が解いたものも解いていないものも含まれる）を5月以降、調査終了後にMEXCBTに掲載する予定です。
- このセットを使って問題に取り組んだ場合は、解答後も生徒や教師が問題や解答内容を確認することができます。
- 調査後の振り返り、学習指導にご活用ください。

解答後も生徒や教師が問題や解答内容を確認することができます。



令和7年度調査

教育委員会数	全体	
	実施数	
学校数	調査対象在籍学校数	
	実施数	
生徒数	国語	
	数学	
	理科	
	質問	
	平均正答数（平均正答率）	
国語・数学	標準偏差	
	四分位正答数（第1）	
	四分位正答数（第2）	
	四分位正答数（第3）	
	正答数ごとの層分布（全国四分位）（A層）	
	正答数ごとの層分布（全国四分位）（B層）	
	正答数ごとの層分布（全国四分位）（C層）	
	正答数ごとの層分布（全国四分位）（D層）	
	平均IRTスコア	
	標準偏差	
理科	パーセンタイル値（10%）	
	パーセンタイル値（25%）	
	パーセンタイル値（50%）	
	パーセンタイル値（75%）	
	パーセンタイル値（90%）	
	IRTバンド別生徒割合（1）	
	IRTバンド別生徒割合（2）	
	IRTバンド別生徒割合（3）	
	IRTバンド別生徒割合（4）	
	IRTバンド別生徒割合（5）	

（参考）令和6年度調査

教育委員会数	全体	
	実施数	
学校数	調査対象在籍学校数	
	実施数	
生徒数	国語	
	数学	
	質問	
国語・数学	平均正答数（平均正答率）	
	正答数ごとの層分布（全国四分位）（A層）	
	正答数ごとの層分布（全国四分位）（B層）	
	正答数ごとの層分布（全国四分位）（C層）	
	正答数ごとの層分布（全国四分位）（D層）	

※黄色セルは令和7年度調査の実施概況で追加する項目

学校への提供データ（例）

調査結果概況 [理科]

令和6年12月24日「令和7年度全国学力・学習状況調査」担当者会議資料6-3を抜粋・更新

中学校調査

令和7年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [理科]
●●●●●市教育委員会第一生徒

以下の集計値／グラフは、4月14日～4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

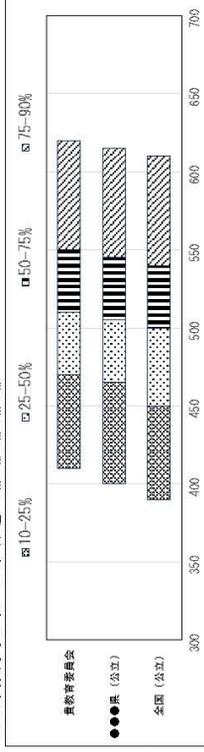
公開調査集計値

	生徒数	公開調査平均正答数	標準偏差
●●●●●市教育委員会	99,999	99.9 / 99	9.9
●●●●●県（公立）	99,999	99.9 / 99	9.9
全国（公立）	99,999	99.9 / 99	9.9

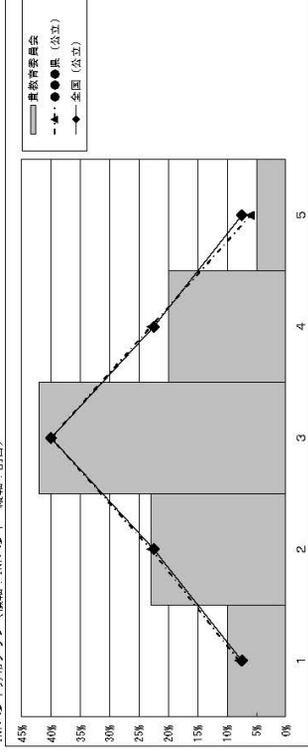
IRスコア集計値

	平均IRスコア	標準偏差	パーセントाइル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
●●●●●市教育委員会	51.0	9.0	41.0	47.0	51.0	55.0	62.0
●●●●●県（公立）	50.5	9.5	40.0	46.5	50.5	54.5	61.5
全国（公立）	50.0	10.0	39.0	45.0	50.0	54.0	61.0

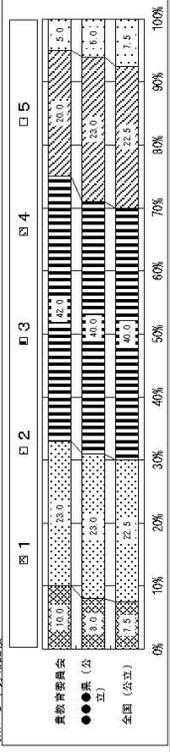
IRスコア分布グラフ（パーセントाइル値：10%、25%、50%、75%、90%）



IRバンド分布グラフ（縦軸：IRバンド 横軸：割合）



IRバンド分布比較



IRバンド集計値

IRバンド	生徒数	割合 (%)		
		市教育委員会	県（公立）	全国（公立）
5	9,999,999	10.0	8.0	7.5
4	9,999,999	23.0	23.0	22.5
3	9,999,999	42.0	40.0	40.0
2	9,999,999	20.0	23.0	22.5
1	9,999,999	5.0	6.0	7.5

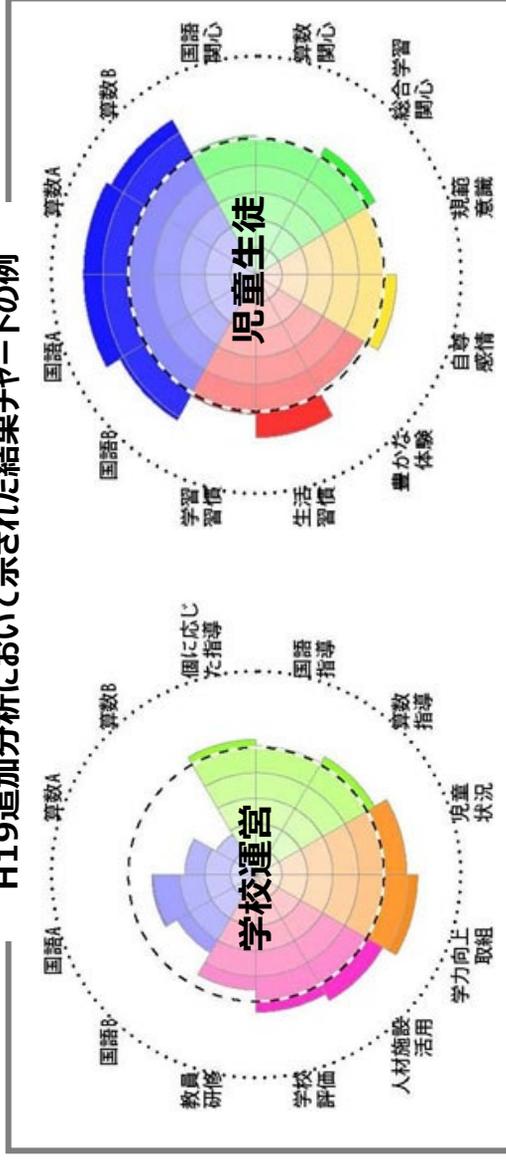
○ 全国学力・学習状況調査については、各学校、教育委員会等において、調査結果を分析・検証し、教育や教育施策の改善に取り組み際に参考としていただくため、平成20年度から「結果チャート」を作成し、結果返却時に提供してきました。

○ この結果チャートは、教育委員会等の支援のもと、各学校において自らの児童生徒の学力・学習状況を全国学力・学習状況調査の結果から多面的な分析を行うことで明らかにし、それらを踏まえた上で、次なる学力向上に向けた取組や授業改善、学校運営の改善等の計画や具体的方策を作成し実行することをねらいとして開発された。

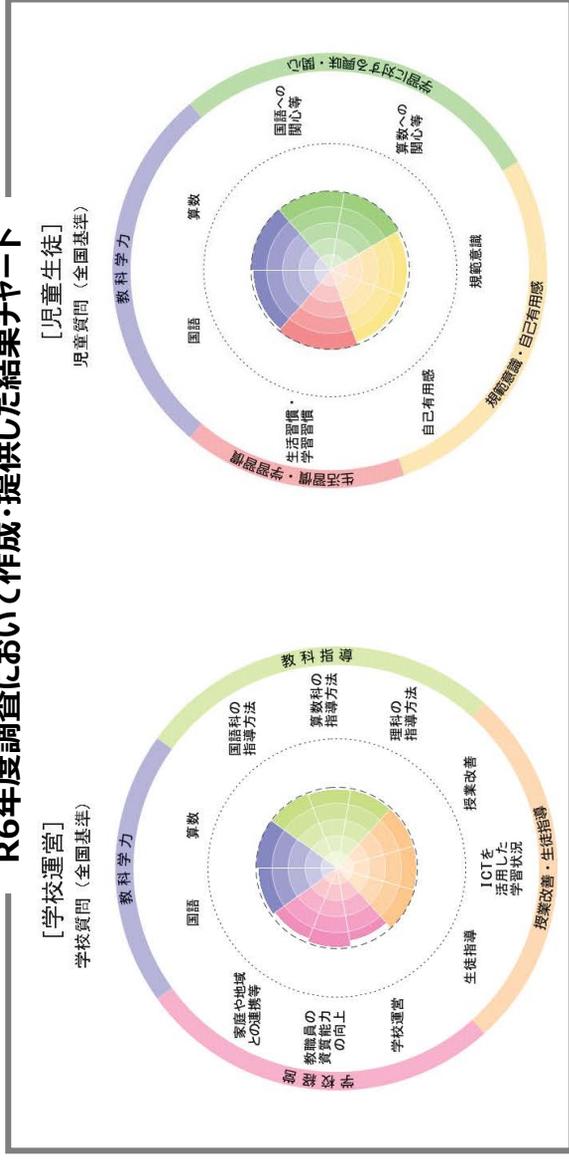
都道府県・指定都市別の児童生徒・学校質問調査の「領域別回答状況」の得点換算方法

- (1) 学校別に、領域ごとの質問項目回答割合から、肯定的な回答割合が高いほど点数が高くなるよう得点を算出。
- (2) (1)で学校別に算出した得点の全国平均が0、標準偏差が1 になりるように標準化する。
- (3) 当該都道府県（又は指定都市）内の算出の対象とする全学校の(2)の数値の平均を算出する。
- (4) (3)で算出された得点に5.0を加える。

H19追加分析において示された結果チャートの例



R6年度調査において作成・提供した結果チャート

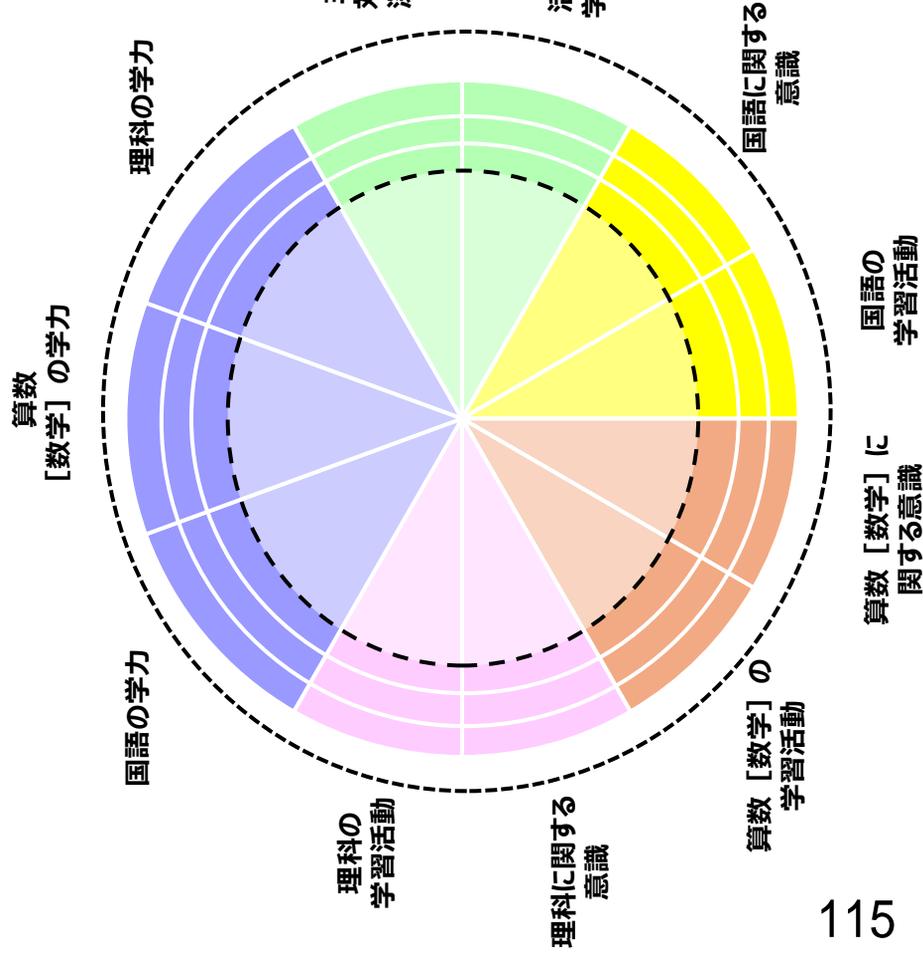


【参考】平成19年度追加分析「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法の開発」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/08020513/001/005.htm

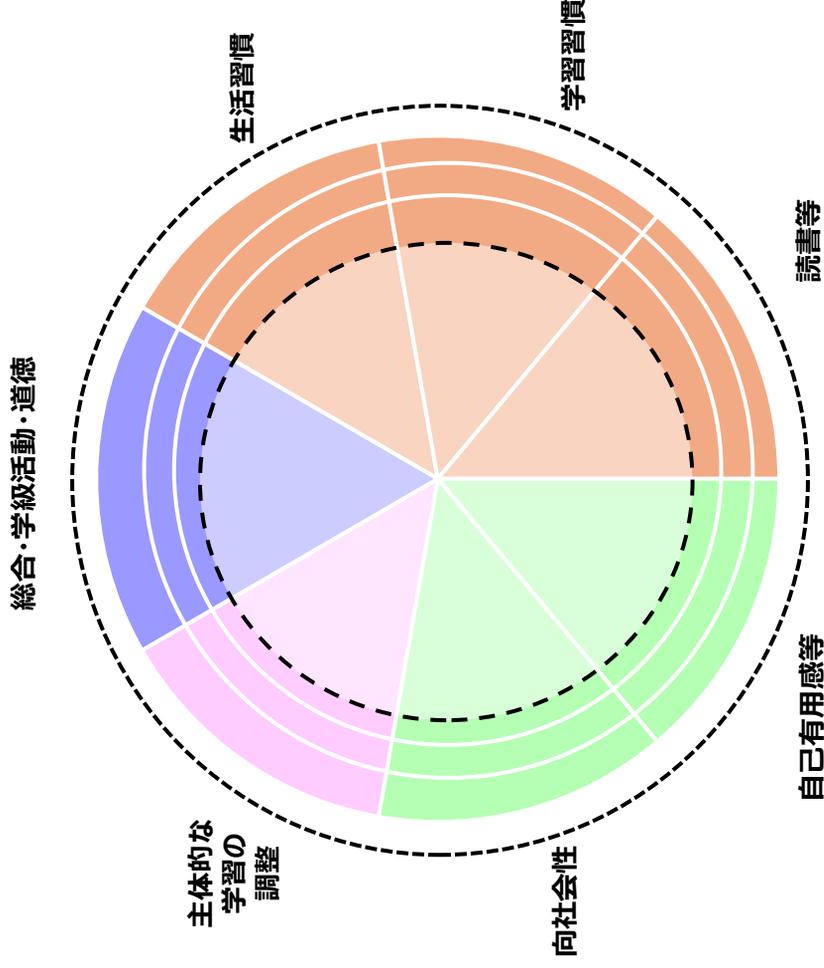
令和7年度調査 結果チャート (イメージ)

児童生徒の学力・学習状況をより細やかに分析し、特徴を把握しやすくする観点から、2つの結果チャートの領域構成と利用する児童生徒質問の項目を見直し、都道府県・指定都市の結果チャートを公表する。

①教科を中心とした学力・学習状況



②その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)

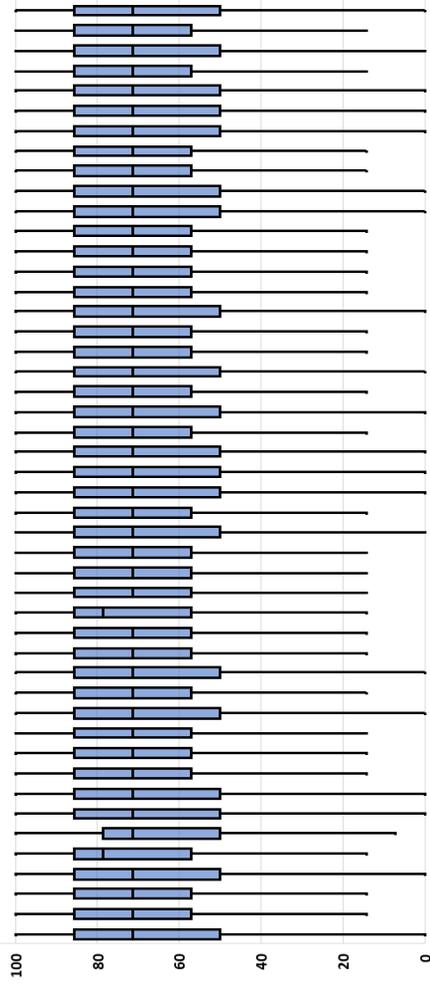


国		都道府県・指定都市、市町村
7月	<p>7/14 文部科学省からの結果公表（1段階目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人票に掲載される全国値 <ul style="list-style-type: none"> - 【PBT教科】全国の平均正答率など - 【CBT教科（中学校理科）】IRTバンドごとの生徒の割合など <p>学校向け結果帳票の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 提供情報は従来と同様。設置管理者にも共有。 学校は受領後、児童生徒・保護者に返却可。 <p>7/22 教育委員会向け結果帳票の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の都道府県・指定都市に関する情報は提供しない。 <p>7月末 文部科学省からの結果公表（2段階目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国データに基づく分析 	<p>調査結果の分析</p>  <p>各都道府県・指定都市教委からも結果公表</p>
8月	<p>（学習指導の改善・充実説明会）</p> <p>都道府県・指定都市別データの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 分布や習熟度により配りした統計表やグラフ 学力や質問調査結果の関係を示す散布図 都道府県・指定都市別ノート（試行）の作成 	
8月以降	<p>文部科学省からの結果公表（3段階目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市別データ 	

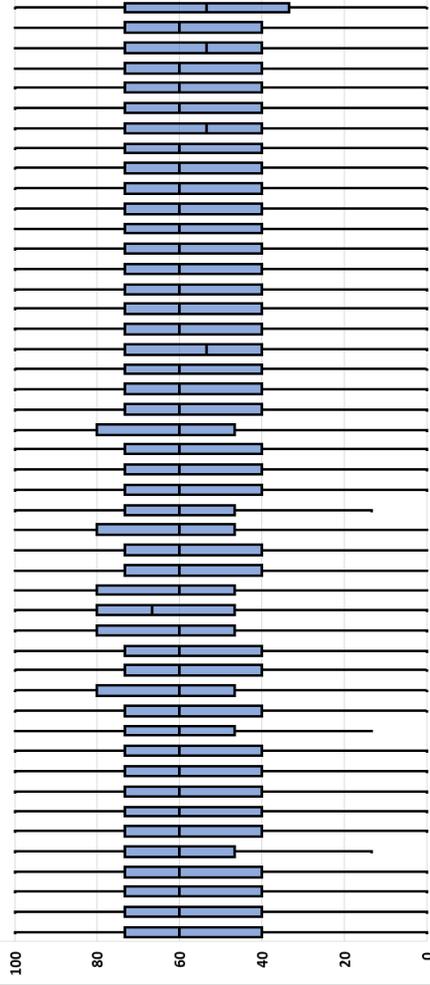
（参考）令和6年度調査の結果提供・公表スケジュール

国		都道府県・指定都市、市町村
7月	<p>7/22 教育委員会向け結果帳票の提供</p> <p>※ 都道府県・指定都市別を含む公表資料一式を提供。</p> <p>7/26 学校向け結果帳票の提供</p> <p>7/29 文部科学省からの結果公表（1回限り）</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国データに基づく分析を公表 都道府県・指定都市別データも公表 	<p>調査結果の分析</p>  <p>（短期間の分析で公表解禁）</p> <p>7/29 各都道府県・指定都市からも結果公表</p>
8月	<p>（8/20 学習指導の改善・充実説明会）</p>	<p>研修等で調査結果を活用</p>

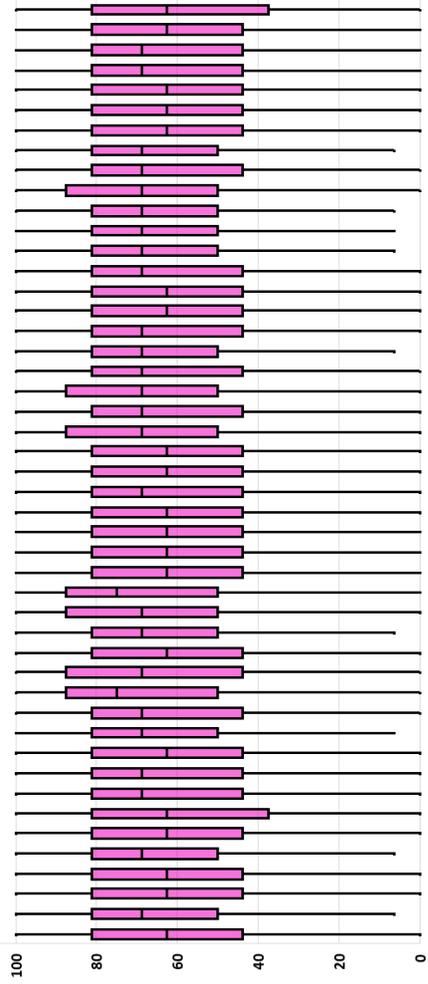
小学校国語



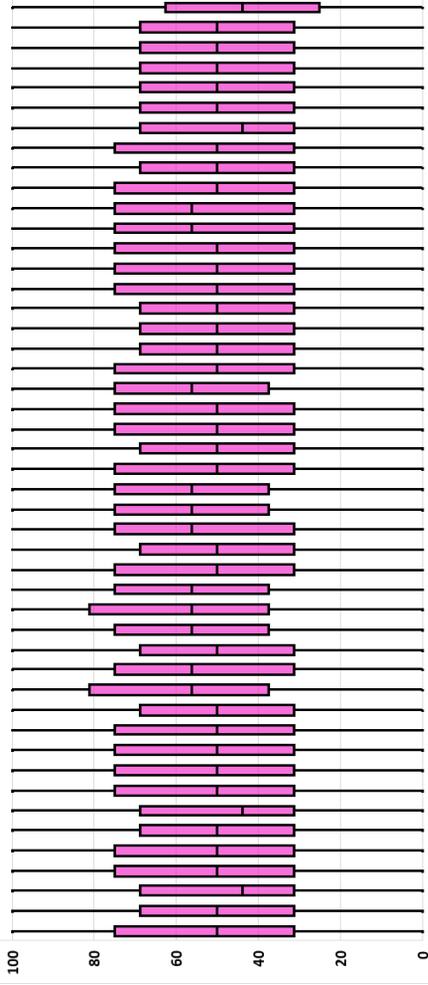
中学校国語



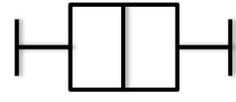
小学校算数



中学校数学



箱ひげ図

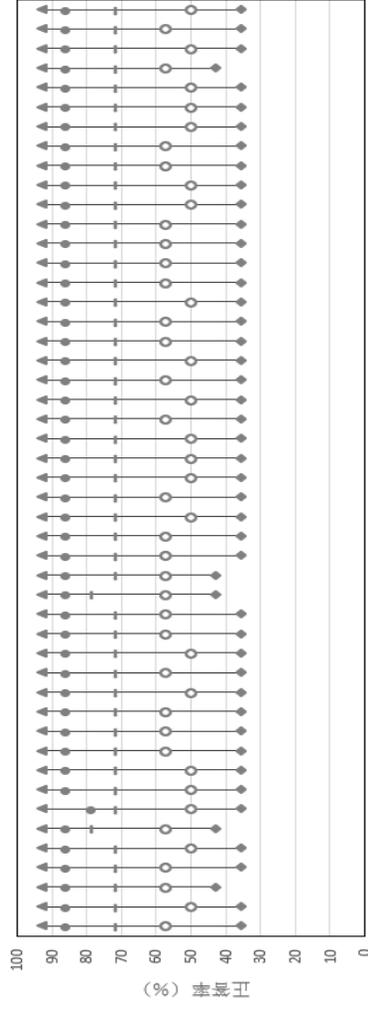


最大値
 第三四分位 (75パーセンタイル)
 中央値 (50パーセンタイル)
 第一四分位 (25パーセンタイル)
 最小値

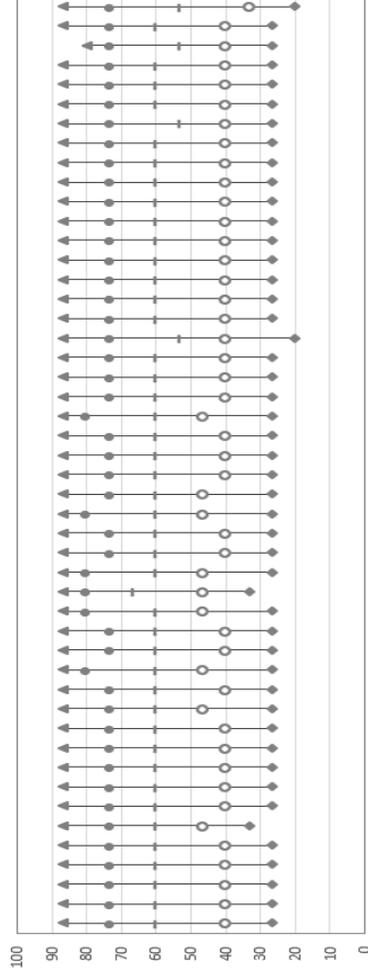
パーセンタイル

計測値の統計的分布の上で、小さい方から数えて何%目の値は、どれくらいかという見方を統計的表示法

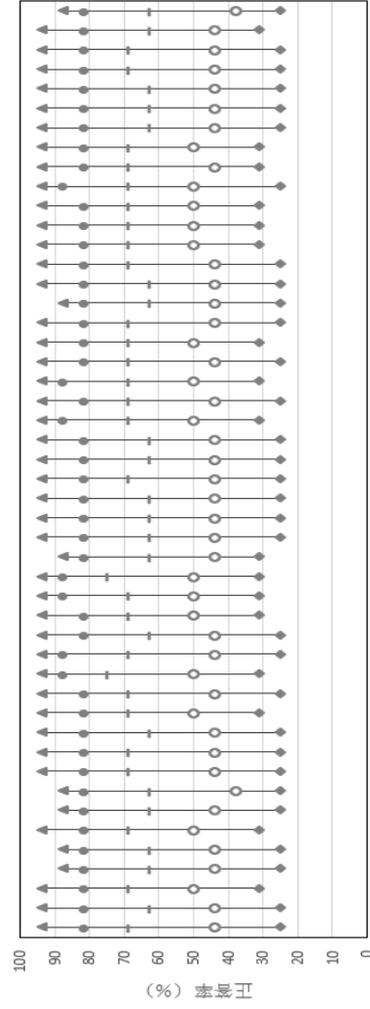
小学校国語



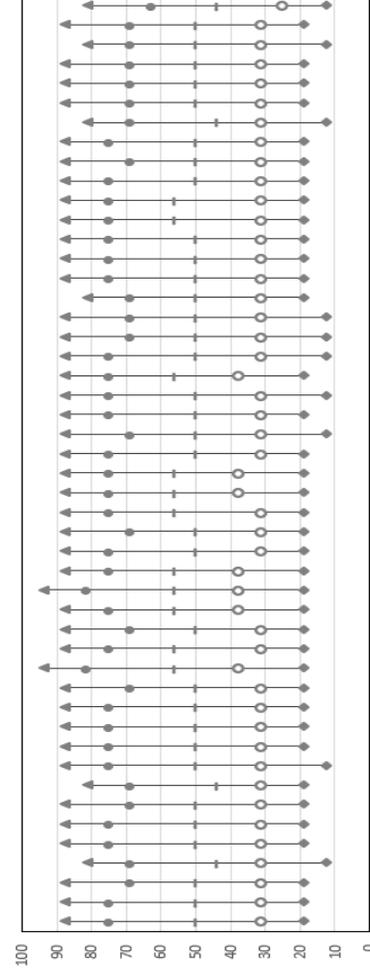
中学校国語



小学校算数



中学校数学



◆ 10パーセンタイル ○ 25パーセンタイル — 50パーセンタイル ● 75パーセンタイル ▲ 90パーセンタイル

パーセンタイル

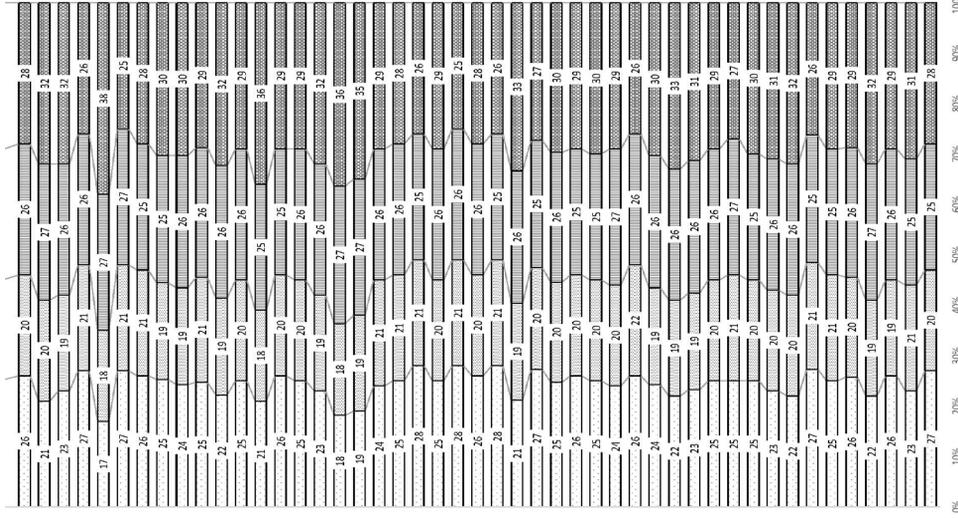
計測値の統計的分布の上で、小さい方から数えて何%目の値は、どれくらいかという見方をする統計的表示法

令和6年度調査 都道府県別の正答数ごとの層分布 (例)

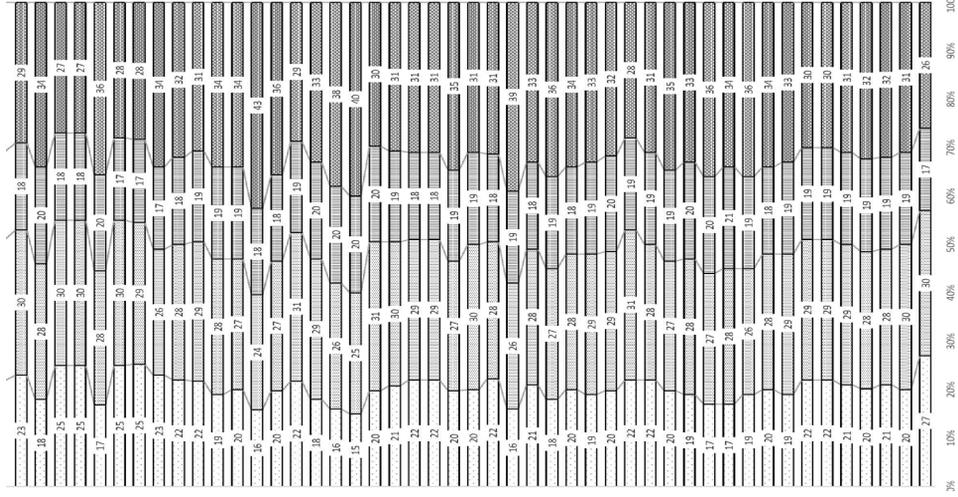
参考資料 5 - 3

全国の児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数割合により25%刻みで四つの層分けを行い、その層別に各都道府県の状況を示した割合

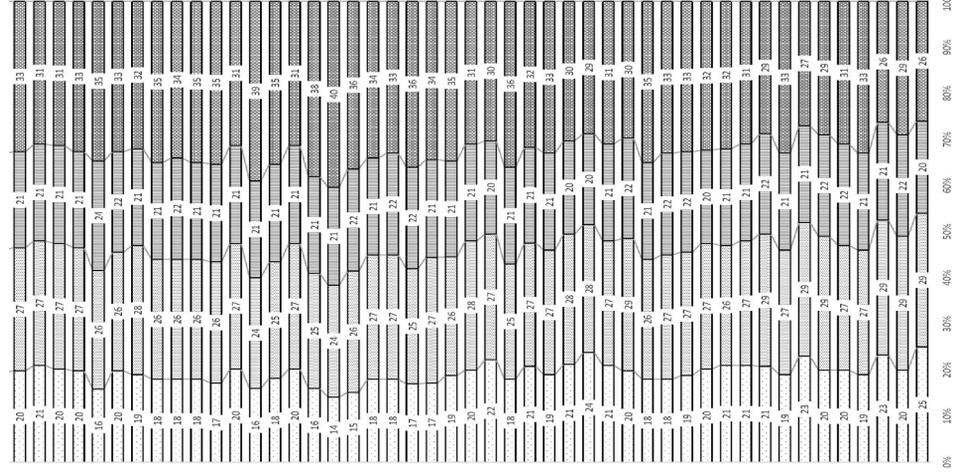
小学校国語



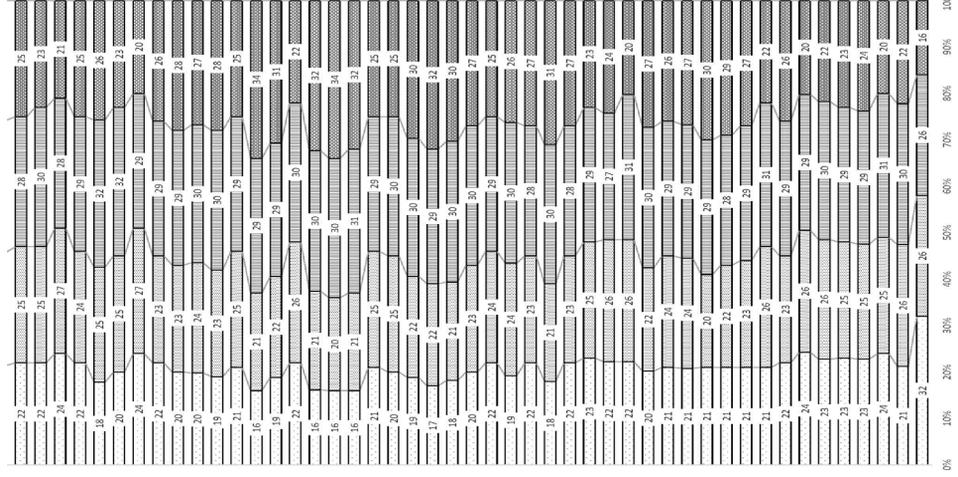
小学校算数



中学校国語



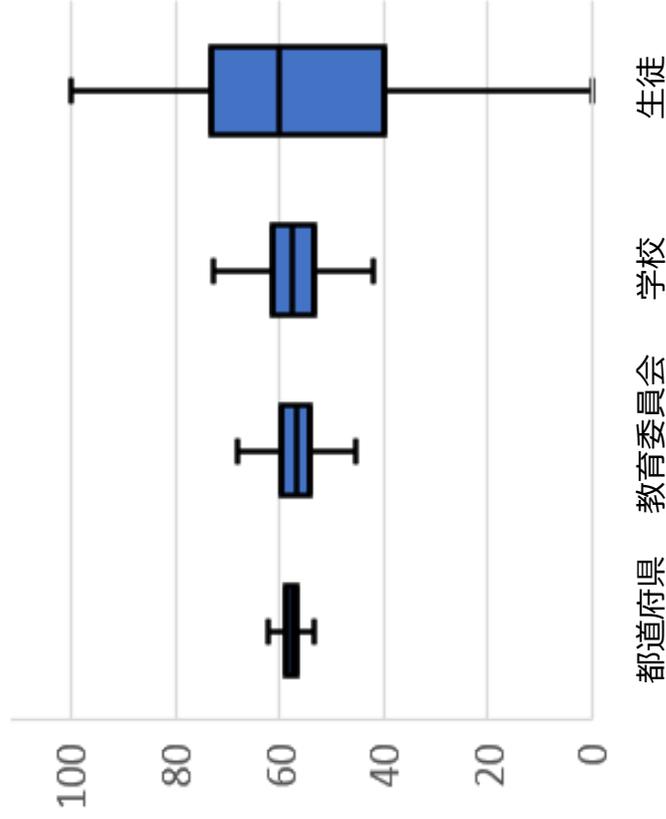
中学校数学



中学校国語

単位 (%)

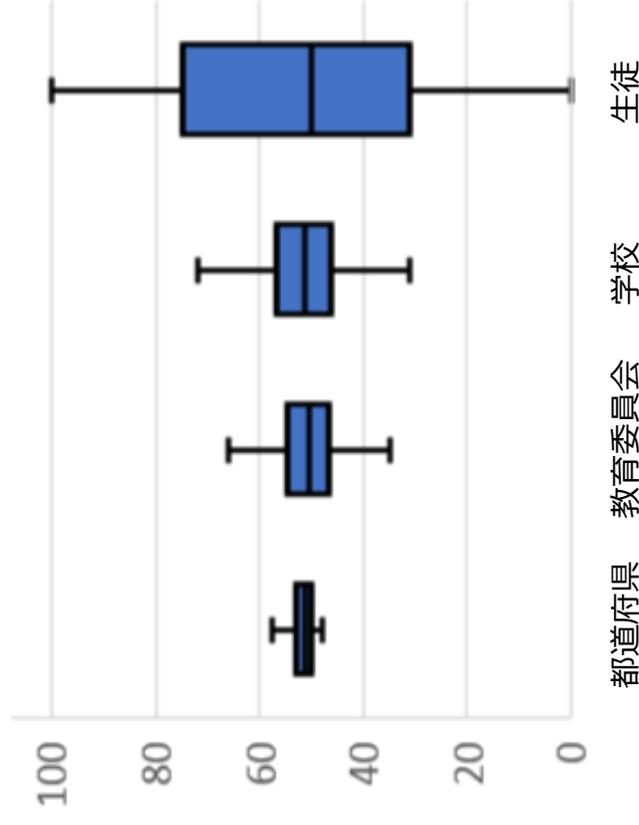
	都道府県	教育委員会	学校	生徒
平均正答率	57.6	57.2	57.4	58.1
パーセン タイル	75	59.7	61.2	73.3
	50	56.9	57.4	60.0
	25	56.6	53.6	40.0
標準偏差	1.7	5.9	7.4	22.4



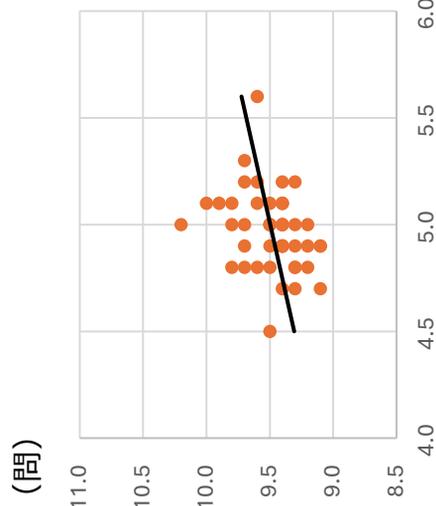
中学校数学

単位 (%)

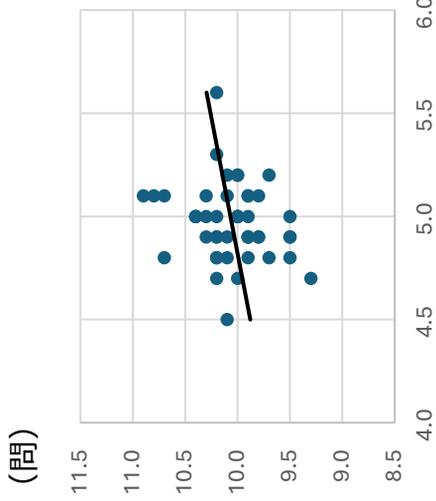
	都道府県	教育委員会	学校	生徒
平均正答率	51.7	50.8	51.4	52.5
パーセン タイル	75	54.5	56.6	75.0
	50	50.3	51.2	50.0
	25	50.1	46.3	31.3
標準偏差	2.7	7.7	9.4	25.9



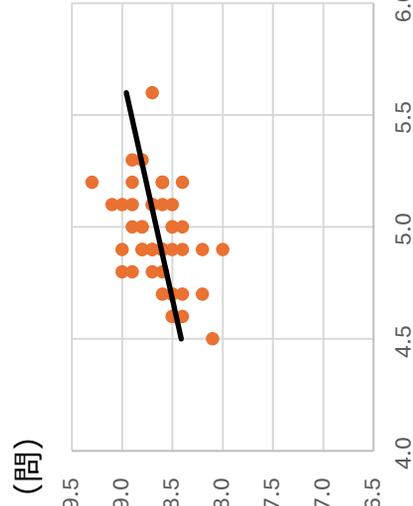
以下の散布図に示す「授業改善」の数値は、令和6年度全国学力・学習状況調査の学校質問調査の学校質問調査(25)～(35)の質問項目の回答状況を、都道府県ごとに得点換算したものである（有効数字2桁）。全国平均が5.0となるように標準化されており、その値が大きいくほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。



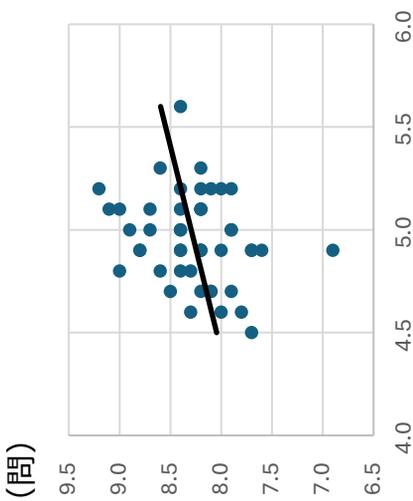
【小学校】授業改善×国語の正答数



【小学校】授業改善×算数の正答数



【中学校】授業改善×国語の正答数

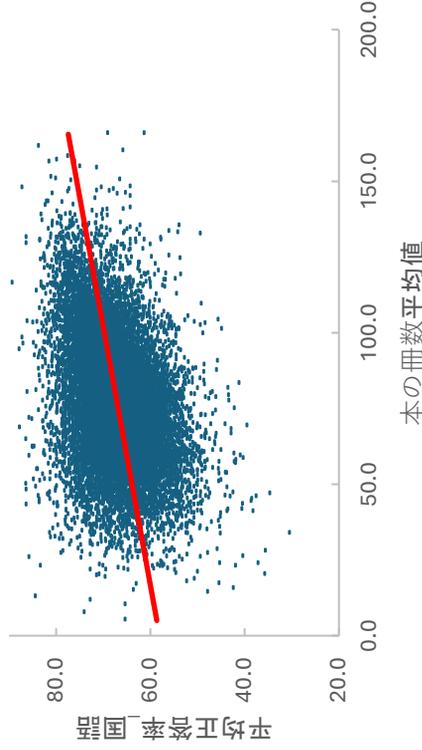


【中学校】授業改善×数学の正答数

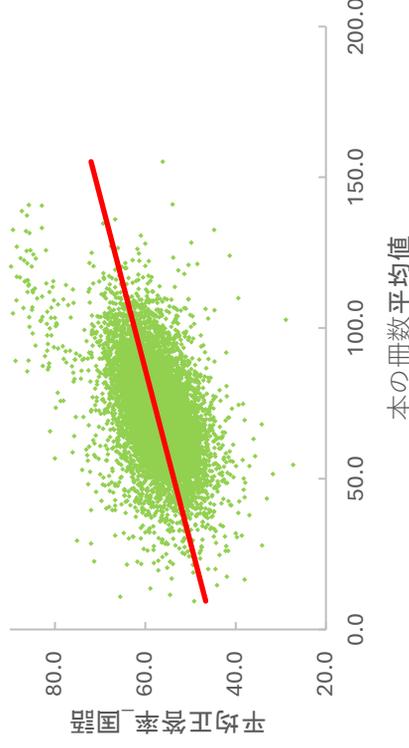
- (25) 児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組みることができる
- (26) 児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる
- (27) 児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる
- (28) 授業や学校生活では、児童〔生徒〕が、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる
- (29) 授業では、児童〔生徒〕が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている
- (30) 学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫する
- (31) 学習指導において、児童〔生徒〕が、それぞれのおさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫する
- (32) 授業において、児童〔生徒〕の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をする
- (33) 授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れる
- (34) 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をする
- (35) 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設ける

※ここでは、家にある本の冊数を、家庭の社会経済的背景 (SES: Socio-Economic Status)) の代替指標として利用している。
 ※児童生徒の数が10未満の学校を除く。
 ※赤線は近似直線。

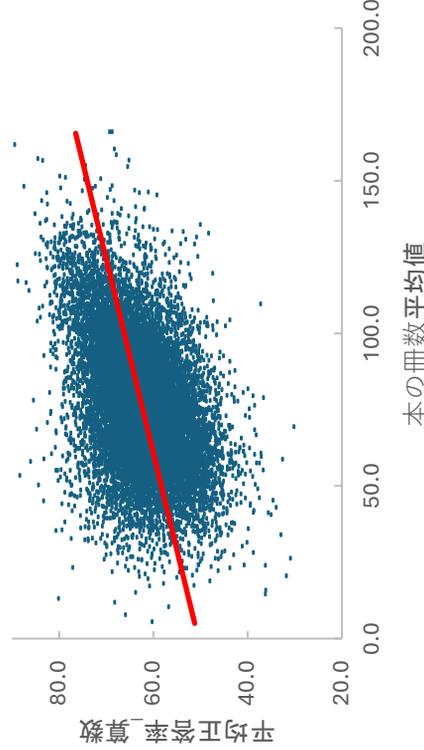
小学校国語×SES



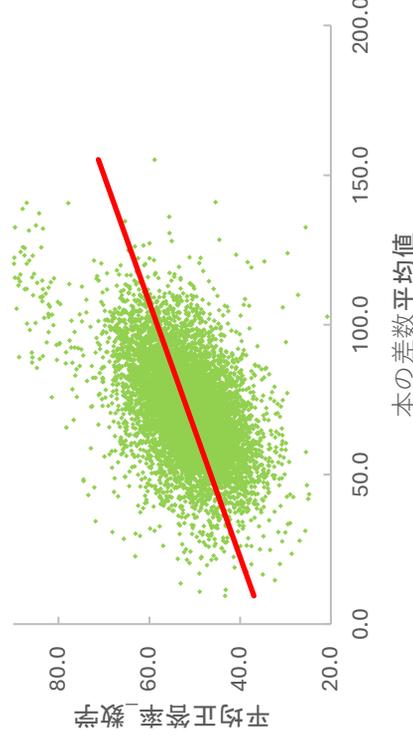
中学校国語×SES



小学校算数×SES

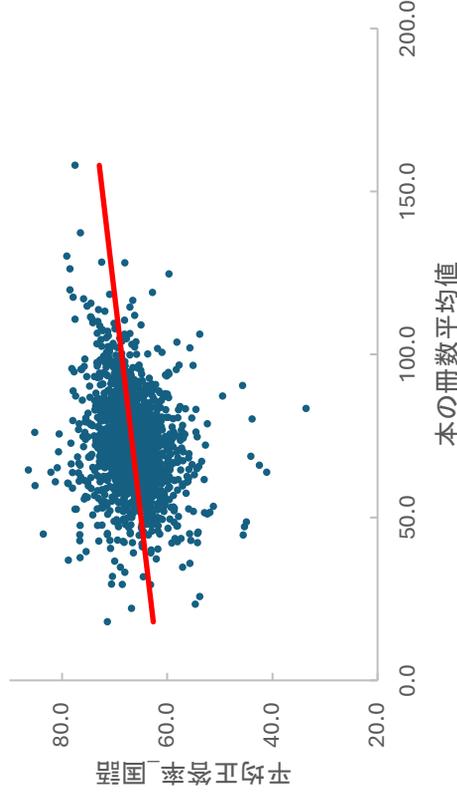


中学校数学×SES

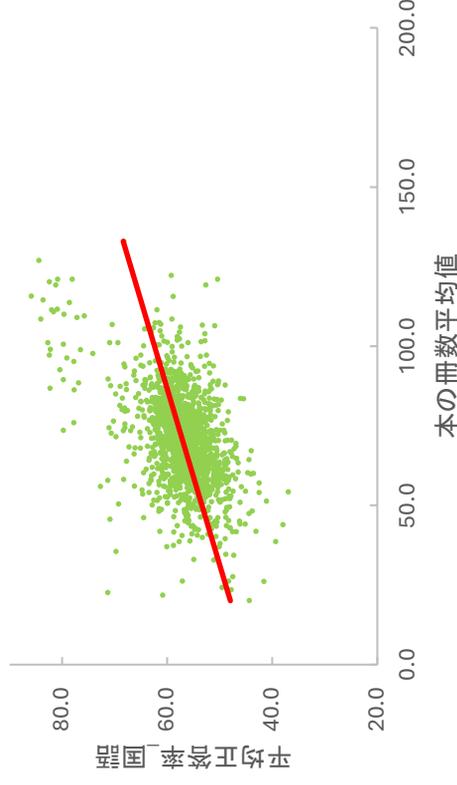


※ここでは、家にある本の冊数を、家庭の社会経済的背景 (SES: Socio-Economic Status)) の代替指標として利用している。
 ※児童生徒の数が10未満の自治体を除く。
 ※赤実線は近似直線。

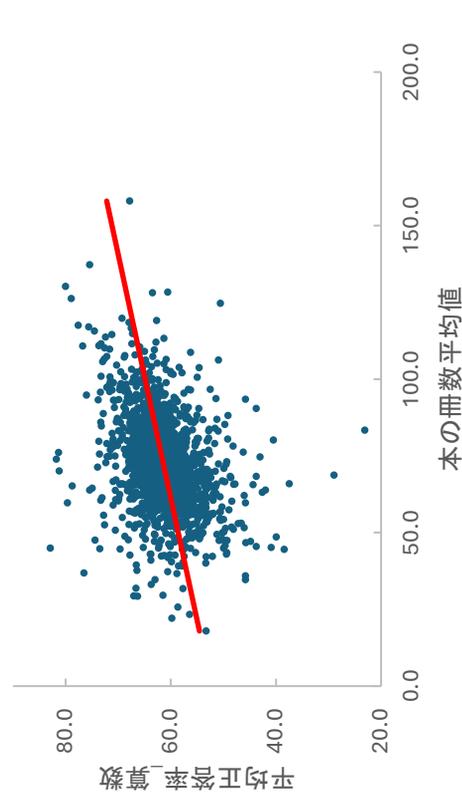
小学校国語×SES



中学校国語×SES



小学校算数×SES



中学校数学×SES

